

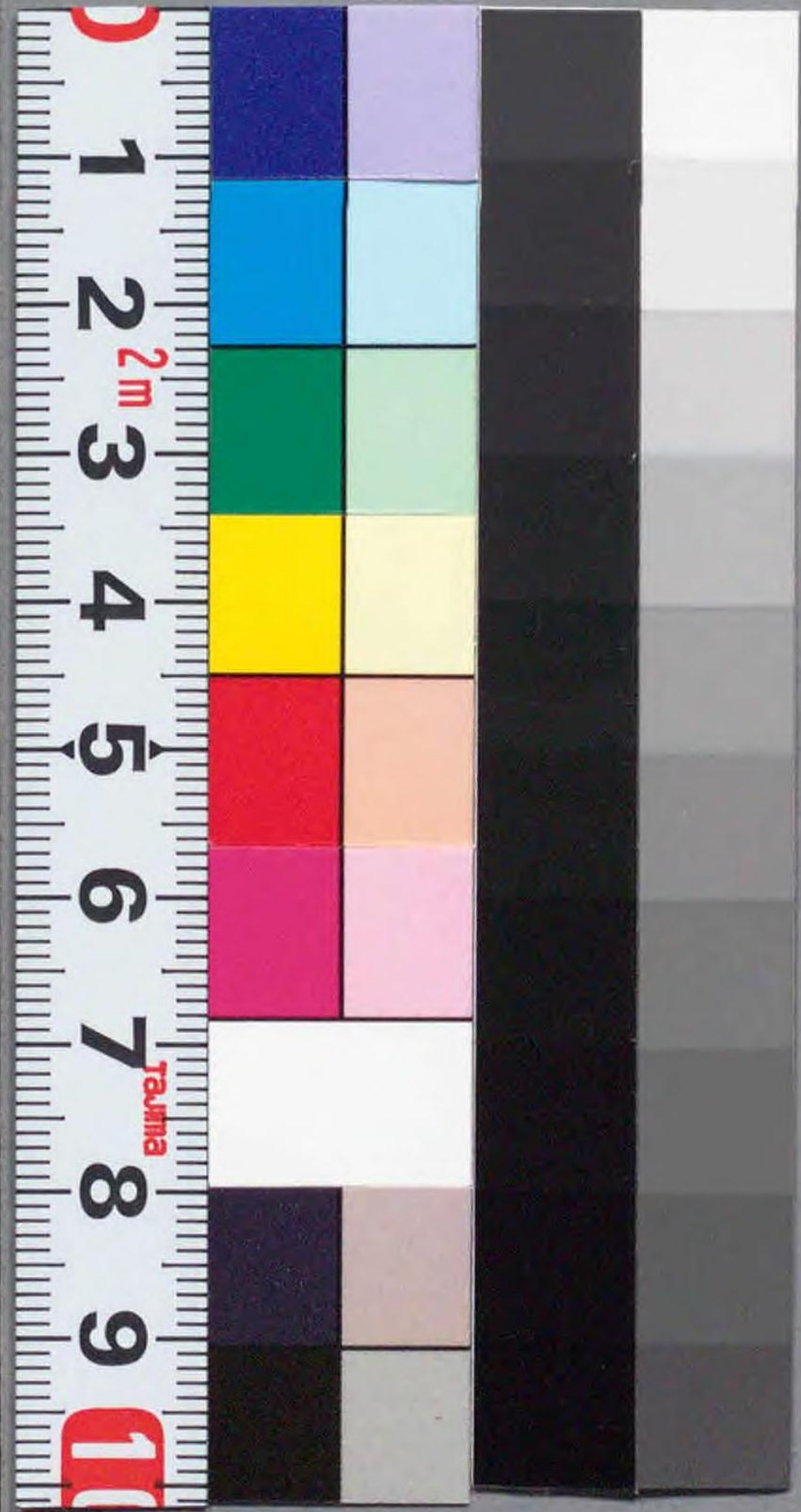


328.683
Te143s



大正十三年
一月現行
船舶法及關係法令

遞信省管船局



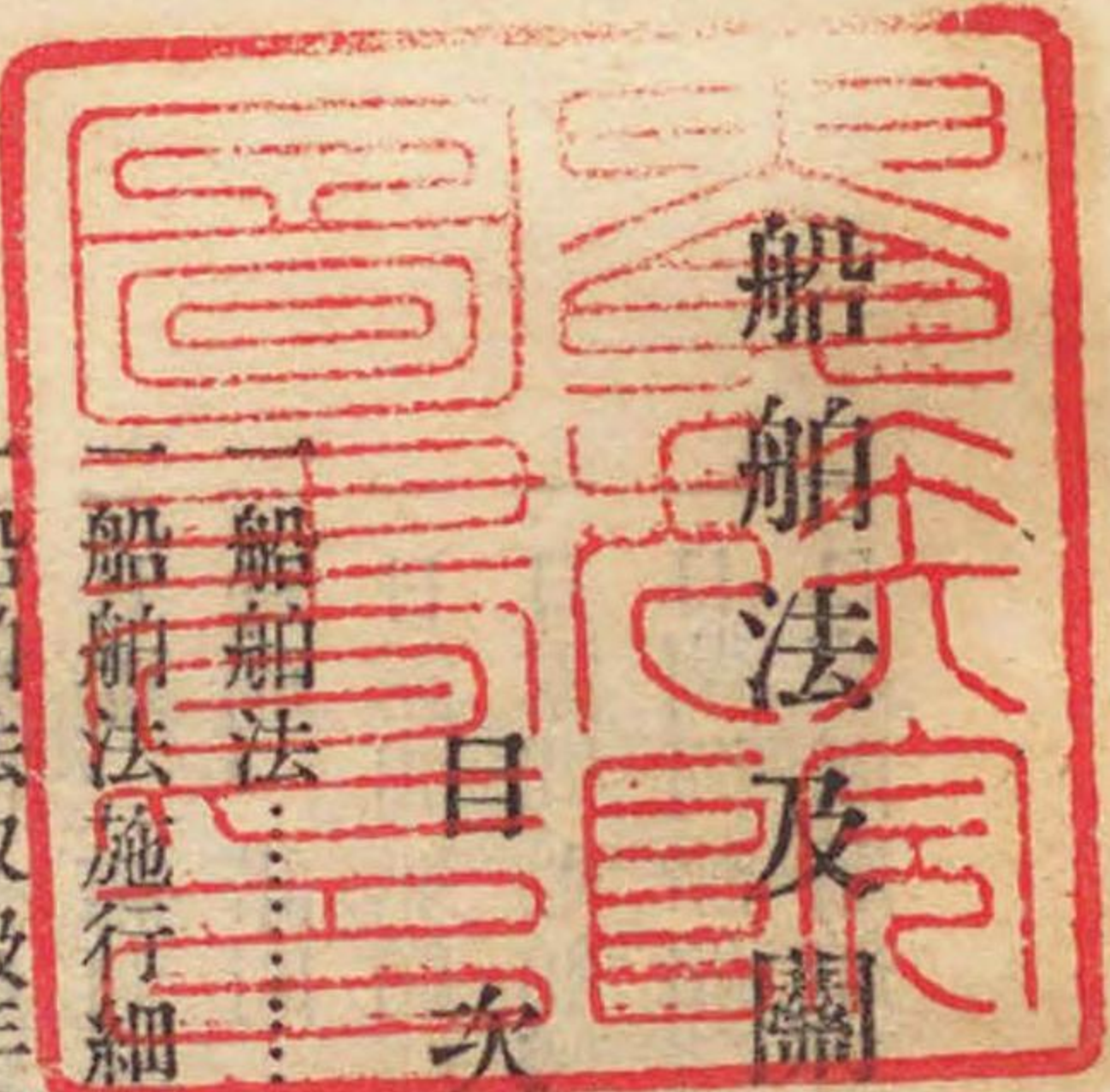
328.683
Te 143s

貴族院
函560
号
冊

二五七	二五七	一五七	一二一	一一八	七七	七〇	七〇	三〇	一七	一一三	一一三	頁
四	三	一三	五	五	一	一七	一五	二	一七	二	二	行
二月十五號	二月二十一日	船鑑札	船尾材 クコト	助骨	大船	第一	深點 ×間	類總噸數 船舶種	管轄	第二項 膽本	第二	誤
二月十五號	十月	船鑑札	船尾材ノ幅ヲ求メ 置クコト	助骨	大臣	第一	深點間	船舶種類 總噸數	管轄	第二項 膽本ヲ	正	正



696633



船舶法及關係法令

目次

- 船舶法施行細則……………九頁
- 船舶法……………二頁
- 船舶法取扱手續……………四二頁
- 朝鮮臺灣關東州ノ船舶ニシテ戰時陸海軍使用ノモノ内地……………六二頁
- 不開港場ニ寄港方……………六三頁
- 船舶積量測度法……………六七頁
- 船舶積量測度規程……………七九頁
- 船舶積量測度心得……………八九頁
- 船舶積量測度圖解……………九三頁
- 船舶積量測度ニ關スル注意事項……………九三頁

目次

一二

- 一 船舶積量改測規則……………一三九頁
- 一 日英間船舶積量互認……………一三三頁
- 一 日英船積量互認ニ關スル告示……………一三四頁
- 一 日米間船舶積量互認……………一三五頁
- 一 日丁間船舶積量互認……………一三七頁
- 一 日獨間船舶積量互認……………一三九頁
- 一 日獨間船舶積量互認心得方……………一四一頁
- 一 日瑞、諾間船舶積量互認……………一四三頁
- 一 日瑞、諾間船舶積量互認心得方……………一四五頁
- 一 日露間船舶積量互認……………一四七頁
- 一 日露間船舶積量互認心得方……………一四九頁
- 一 日蘭間船舶積量互認……………一五一頁
- 一 日蘭間船舶積量互認心得方……………一五三頁

- 一 船鑑札規則……………一五五頁
- 一 船鑑札規則施行手續……………一六三頁
- 一 船鑑札事務ノ取扱ニ關スル注意事項……………一七一頁
- 一 巴拿馬運河噸數證書交付規則……………一七九頁
- 一 巴拿馬運河噸數證書交付規則ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測度執行地……………一八五頁
- 一 巴拿馬運河噸數證書交付手續……………一八七頁
- 一 巴拿馬運河噸數證書交付規則ニ依ル測度ニ關スル注意事項……………一八九頁
- 一 蘇士運河噸數證書交付規則……………一九九頁
- 一 蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測度執行地……………二〇五頁
- 一 蘇士運河噸數證書交付手續……………二〇七頁
- 一 蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル測度ニ關スル注意事項……………

項……………二〇九頁

一 船舶及海員事務報告方(抄録)……………二一九頁

一 登録税法(抄録)……………二二一頁

一 登録税法施行規則(抄録)……………二三五頁

一 船舶登記規則……………二三七頁

一 商法(抄録)……………二五一頁

一 日本形五百石以上ノ船舶製造禁止……………二五三頁

一 朝鮮船舶令……………二五五頁

一 臺灣船籍規則……………二五七頁

一 關東州船籍令……………二六一頁

船舶法及關係法令

○船舶法

明治三十二年三月八日(同年六月十六日)法律第四十六號總、遞大臣副署(日ヨリ施行)

改正(明治三十八年三月(同年四月十四日)法律第六十八號(日ヨリ施行))

第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶

二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

三 日本ノ本府ヲ有スル商會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合

資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス

第二條 日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス

第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ヲ運送ヲ爲

船舶法

ノスコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス

・船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得

外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキ

ハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ二週間内ニ變更登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到着シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ滅失若クハ沈没シタルトキハ解撤セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ

若クハ第二十條ニ掲ケル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六個月間分明

ナラサルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消ノ登録ヲ爲ササルトキハ管海官廳ハ一个月内ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其手續ヲ爲ササルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲ストヲ得

第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄区域内ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ六個月ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十八條 船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有効期間滿了前ト雖モ其效力ヲ失フ

第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測度ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス

日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス

第二十四條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登録ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リテ處斷ス

第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法數人共犯ノ例ヲ適用セス

第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス

第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商事會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス

第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

附 則

第三十三條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條 船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十五條 商法第五編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

第三十六條 明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告、同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止

第三十七條 本法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船

船舶國籍證書ヲ請受クヘキトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ登録ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船免狀又ハ船鑑札ハ船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條 本法施行ノ際登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキ場合ニ於テハ其假免狀ハ有効期間ノ滿了ニ至ルマテハ假船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス但船舶方船籍港ニ到着シタルトキハ此限ニ在ラス

登簿船假免狀ノ有効期間力滿了シタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第三十九條 第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ之ヲ準用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者カ本法施行前ニ事實ヲ知リタルトキト雖モ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサルトキ亦同シ
前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條 本法施行前ヨリ存否カ分明ナラサル船舶ニシテ未タ舊法ノ期間カ經過セサルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六個月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

附 則 (明治三十八年三月 法律第六十八號附則)

船舶國籍證書ヲ受有スル日本船舶ニシテ本法施行前ニ第二十條ニ掲クル船舶トナリタルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル三週間ノ期間ハ本法施行ノ日タリ之ヲ起算ス

（明治三十八年三月）
法律第六十八號附則
船舶國籍證書ヲ受有スル日本船舶ニシテ本法施行前ニ第二十條ニ掲クル船舶トナリタルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル三週間ノ期間ハ本法施行ノ日タリ之ヲ起算ス
（明治三十八年三月）
法律第六十八號附則
船舶國籍證書ヲ受有スル日本船舶ニシテ本法施行前ニ第二十條ニ掲クル船舶トナリタルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル三週間ノ期間ハ本法施行ノ日タリ之ヲ起算ス

○船舶法施行細則

明治三十二年六月十三日 逕信省令第二十四號

第一章 總 則

第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ

機械力ヲ以テ運航スル装置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ユルト否トニ拘ハラズ之ヲ汽船ト看做ス

主トシテ帆ヲ以テ運航スル装置ヲ有スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス

第二條 淺深船ハ推進器ヲ有セザレハ之ヲ船舶ト看做サス

第二條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スヘシ

一 肋骨ヲ有スル船舶

二 機械力ヲ以テ運航スル装置ヲ有スル船舶

三 日本形ニ非サル帆裝ヲ有スル船舶

前項ノ規定ニ該當セサル船舶ハ石數ヲ以テ積量ヲ表示スヘシ

第三條 船籍港ハ市町村ノ名稱ニ依ル但市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキ區畫ノ名稱ニ依ル

船籍港ト爲スヘキ市町村及之ニ準スヘキ區畫ハ船舶ノ航行シ得ヘキ水面ニ接シタルモノニ限ル

第四條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ受有前ト雖モ最寄管海官廳ノ認可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコトヲ得

一 試運轉ノトキ

二 積量ノ測度ヲ受ケントスルトキ

三 正當ノ事由アルトキ

第五條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ受有前ト雖モ船舶ニ國旗ヲ掲クルコトヲ得

一 祝日、大祭日但外國ノ祝祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限ル

二 前號ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ

三 進水ノトキ

四 前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ

第六條 船舶ノ積量若クハ登錄ニ關スル事項又ハ其標示ヲ照査スル爲メ必要アリト認ムルトキハ検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ得

第七條 本則ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書類ヲ差出スヘキ場合ニ於テ代理人ヲ使用スルトキハ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二章 積量ノ測度

第八條 船舶法第四條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請セントスル者ハ附錄第一號書式ノ申

請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ申請書ノ外造船地、造船者、進水ノ年月及船舶ノ原名ヲ證スル書面ヲ差出サシムルコトヲ得

總噸數約五百噸以上ニシテ旅客ヲ搭載セントスル船舶ニ付テハ管海官廳ハ前項ノ書面ノ外尙船體中心線縱截面圖及各甲板平面圖ヲ差出サシムルコトヲ得

第八條ノ二 船舶法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ改測ヲ受ケントスル部分及改測ノ爲メ検査官吏ノ臨檢ヲ受ケントスル場所ヲ記載シ管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 積量ノ測度又ハ改測ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ但船舶ノ構造、航路ノ狀況又ハ其他ノ事由ニ依リ船舶ヲ検査執行地マテ航行セシムルコト能ハサル場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

外國ニ於テ積量ノ測度又ハ改測ヲ行フ場所ハ當該官廳之ヲ指定ス

第十條 積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スル者ハ測度又ハ改測ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第十一條 削除

第十二條 管海官廳ニ於テ積量ノ測度又ハ改測ノ申請ヲ受ケタルトキハ検査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ附錄第二號書式ノ船舶件名書及別ニ定ムル書式ノ船舶積量測度表ヲ調製セシムヘシ

船舶法施行規則

第十二條ノ二 管海官廳ハ積量ノ測度ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ船舶件名書ノ謄本ヲ申請者ニ交付シ第八條第二ノ規定ニ依リ差出シタル書面アルトキハ之ヲ還付スヘシ

管海官廳ハ積量ノ改測ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ船舶件名書ニ記載スル事項ト既ニ登録シタル事項トヲ對照シ其變更ニ係ル事項ヲ申請者ニ通知スヘシ

第十三條 外國ニ以テ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ行ヒタル場合ニ於テハ當該官廳ハ遲滞ナク船舶籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

第十四條 船舶籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ在ル船舶ニ付積量ノ測度又ハ改測ノ申請アリタル場合ニ於テ第九條第一項但書ノ事由ニ依リ船舶ヲ其管轄區域内マテ航行セシムルコト能ハサルトキハ該官廳ハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ第十二條及第十二條ノ二ニ規定スル事務ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ囑託ヲ受ケタル管海官廳ハ囑託ヲ爲シタル管海官廳ニ船舶件名書及船舶積量測度表ヲ送付スヘシ

第十五條 削除

第十六條 國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ内國ニ於テ製造スル船舶ニ付テハ其竣工前ト雖モ最寄管海官廳ニ積量ノ部分測度ヲ申請スルコトヲ得

第十條第十二條及第十二條ノ二第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ船舶件名書ノ謄本ヲ申請者ニ交付スルコトキハ同時ニ船舶積量測度表ノ謄本

交付スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ船舶件名書及船舶積量測度表ノ謄本ヲ受ケタル者第八條ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ該謄本ヲ申請書ニ添付スヘシ

第三章 船舶ノ登録

第十七條 船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲スニハ申請書ニ登記ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第十七條ノ二 管海官廳ハ前條ノ申請書ヲ受ケタルトキハ關係書類ヲ調査シ總噸數百噸以上ノ汽船及總噸數百噸以上ノ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ左ノ事項ヲ船舶原簿ニ登録ス

- 一 番號
 - 二 信號符字
 - 三 種類
 - 四 船名
 - 五 船籍港
 - 六 甲板ノ層數
 - 七 船質
 - 八 帆船ノ帆裝
 - 九 置噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長
- 船舶法施行細則

十 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ニ至ル幅、

十一 長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深

十二 總噸數

六 上甲板下ノ噸數

七 上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數

八 船首樓ノ噸數

九 船橋樓ノ噸數

十 船尾樓ノ噸數

十一 甲板室ノ噸數

十二 艙口ノ超過噸數

十三 機關室ノ噸數

十四 其他ノ場所ノ噸數

十五 控除噸數

十六 船員常用室ノ噸數

十七 荷足水艙ノ噸數

十八 機關室ノ噸數

十九 帆船ノ帆庫ノ噸數

二十 其他ノ場所ノ噸數

二十一 登簿噸數

二十二 汽機ノ種類及數

二十三 推進器ノ種類及數

二十四 造船地

二十五 造船者

二十六 進水ノ年月

二十七 原名

二十八 所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分

二十九 總噸數百噸未滿ノ汽船及前項ノ帆船以外ノ帆船ニシテ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スルモノニ在リテ

三十 前項第一號乃至第十一號第十四號乃至第十七號第十九號乃至第二十一號ノ事項及左ノ事項

登録ス

一 總噸數

二 上甲板下ノ噸數

三 上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數

四 船員常用室ノ噸數

五 船舶法施行細則

機關室ノ噸數

其他ノ場所ノ噸數

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ第一項第一號第三號乃至第五號第十七號第十九號乃至第二十一號ノ事項及左ノ事項ヲ登錄ス

- 一 船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長
- 二 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅
- 三 腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深
- 四 積石數

第十七條ノ三 前條ノ規定ニ依リ登錄シタル信號符字ハ之ヲ官報ニ告示ス

第十八條 船舶ノ名稱ヲ變更セントスル者ハ其事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第十九條 管海官廳ニ於テ船舶ノ名稱ノ變更ヲ許可スルハ左ノ場合ニ限ル

- 一 前所有者ノ氏名、名稱又ハ之ト同一ト認ムヘキ名稱ヲ有スル船舶ヲ取得シタルトキ
- 二 船舶ノ名稱ニ番號ヲ冠附シ又ハ冠附シタル番號ヲ變更若クハ削除スルトキ
- 三 所有者ニ於テ船舶ノ名稱ノ爲メニ著シキ不便ヲ受クルトキ

第二十條 甲管海官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ變更スル場合ニハ甲管海官廳ニ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其船舶ニ關スル船舶原簿ノ謄本及其附屬書類ヲ乙管海官廳ニ移

送シ該船舶原簿ヲ閉鎖ス

船舶原簿ノ謄本ニハ現存セル登錄ノミヲ謄寫ス

乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル謄本ニ依リ其船舶原簿ニ登錄ヲ移ス

第二十二條 船籍港甲管海官廳ノ管轄區域内ヨリ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ管

海官廳ハ申請ヲ待タス前條第二項乃至第四項ノ手續ヲ爲ス

第二十二條 第十七條ノ二第一項第三號第六號乃至第八號第十五號第十六號ノ事項ニ變更ヲ生シ

タル場合ニ於テ變更ノ登錄ヲ爲サントスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ検査官吏ヲシテ船舶ニ爲檢シ附錄第二號書式ニ準

シ船舶件名書ヲ調製セシムヘシ但第二十三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請書ニ臨檢

報告書ヲ添附シテ差出シタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ船舶ノ所在スル場合ニ於テ前條ノ登錄ヲ

爲サントスルトキハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ臨檢ヲ申請シ臨檢報告書ノ交付ヲ受クル

コトヲ得

前項ノ臨檢報告書ハ前條第一項ノ申請書ニ之ヲ添付スヘシ

第二十四條 第十七條ノ二第一項第三號第六號第九號乃至第十六號第二項各號又ハ第三項各號ノ

事項ニ付第十二條ノ二第二項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ變更ノ登錄ヲ爲サントスル者ハ變更

船舶法施行細則

ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ
第二十五條 船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添附シテ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ハ船舶所有者ノ氏名若クハ名稱、住所又ハ共有者ノ持分ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 行政區畫、其名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタル行政區畫、其名稱又ハ地番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス字又ハ其名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

第二十七條 船舶法第十四條第一項ノ規定ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲サントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ抹消ノ登記ヲ爲シタルコトヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添へ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合及船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタル場合ニ於テ管海官廳ハ其船舶原簿ヲ閉鎖ス

第二十七條ノ二 船籍港ヲ管轄スル登記所ヨリ抹消ノ登記ヲ爲シタル旨ノ通知ナキ船舶ニ付船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタルトキハ當該管海官廳ハ遲滯ナク左ノ事項ヲ其登記所ニ通知スヘシ

一 船舶ノ種類、名稱及總噸數又ハ積石數

二 船舶所有者ノ住所及氏名又ハ名稱

三 抹消ノ登録ヲ爲シタル原因

四 抹消ノ登録ヲ爲シタル年月日

第二十八條 船舶所有者ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ疏明シ登録ノ訂正ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正シ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第二十九條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又利害ノ關係アル部分ニ限リ船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第四章 船舶國籍證書及假船舶國籍證書

第三十條 管海官廳ニ於テ第十七條ノ三ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲シタルトキハ附錄第三號書式ノ船舶國籍證書ヲ申請者ニ交付ス

第三十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ變更ノ登録ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第三十二條 第二十六條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第三十三條 船舶國籍證書ノ毀損ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ船舶國籍證書ノ滅失ニ依リ更ニ之ヲ請受ケン

トスルトキ亦同シ

第三十四條 第三十一條又ハ前條ノ申請ヲ受ケタル管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付ス但第二十條第一項ノ場合ニ於テハ乙管海官廳之ヲ交付ス

第三十五條 船舶國籍證書ノ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付アリタルトキハ遲滯ナク舊證書ヲ反還スヘシ

第三十六條 船舶法第十三條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル船長ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ假船舶國籍證書ニ記載スヘキ事項ヲ證明スルニ必要ナル書類アルトキハ其書類ヲ添ヘ當該管海官廳ニ差出スヘシ

船舶國籍證書ノ毀損又ハ船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ前項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ假船舶國籍證書ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

第三十七條 船舶法第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル者ハ第五號書式ノ申請書ニ所有權ノ取得ヲ證スル書面ヲ添ヘ當該官廳ニ差出スヘシ

第三十七條ノ二 假船舶國籍證書ノ書式ハ附錄第四號書式ニ依ル

第三十八條 假船舶國籍證書ノ有効期間ハ其船舶ノ船籍港ニ回航セントスル場合ニ於テハ到達スヘキ期間ヲ標準トシ其他ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書ヲ請受ケタルコトヲ得ル期間ヲ標準トシ船舶法第十七條ニ定ムル期間内ニ於テ當該管海官廳之ヲ定ム

第三十九條 假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ新舊事項ヲ列記

シ最寄管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第三十二條乃至第三十五條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第四十條 假船舶國籍證書ハ其效力ヲ失ヒタルトキ又ハ船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

第四十一條 本章ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ説明スヘシ

船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スヘキ場合ニ於テ返還セザルトキハ其無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

第四十二條 船舶所有者ニ於テ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ説明シ訂正ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第四十二條ノ二 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ヲ請受ケントスル者ハ最寄管海官廳ニ之ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ英譯書ヲ交付スヘシ

第四十二條ノ三 第四十二條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ニ之ヲ準用ス

船舶法施行細則

第四十二條ノ四 船舶國籍證書又ハ假船國籍證書ノ英譯書ヲ受有スル者ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ管海官ニ返還スヘシ但毀損ニ依リ原證書ヲ返還スル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第五章 國旗及船舶ノ標示

第四十三條 船舶ハ左ノ場合ニ於テ國旗ヲ後部ニ掲クヘシ

- 一 帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ
- 二 帝國ノ燈臺又ハ海岸望樓ヨリ要求セラレタルトキ
- 三 外國ノ港ヲ出入スルトキ
- 四 外國貿易船帝國ノ港ヲ出入スルトキ
- 五 法令ニ別段ノ定アルトキ

第四十四條 噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ標示スヘキ事項及其標示方法ハ左ノ如シ

- 一 船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ所ニ船名及船籍港名ヲ四吋以上ノ國字ヲ以テ記スルコト
- 二 中央ノ船梁ニ船舶ノ番號、總噸數及登錄噸數ヲ彫刻シ又ハ其番號及噸數ヲ彫刻シタル板ヲ釘著スルコト
- 三 船首及船尾ノ外部兩側面ニ於テ喫水ヲ示ス爲メ船底ヨリ最大喫水線以上ニ至ルマテ一呎毎ニ六吋ノ羅馬數字又ハ亞刺比亞數字ヲ以テ其尺度ヲ記シ數字ノ下端ハ其數字ノ表示セル喫水線ト一致セシムルコト

四 登錄噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除シタル室及場所ニハ見易キ所ニ室名又ハ使用ノ目的ニ相當スル名稱ヲ記スルコト

特殊ノ構造ヲ有スル爲メ前項ノ規定ニ依リ難キ船舶ニ付テハ検査官吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得

第四十五條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ前條ニ定メタル方法ニ依リ船尾ニ船名及船籍港ノ名稱ヲ、船梁ニ船舶ノ番號及積石數ヲ標示スヘシ

第四十六條 船舶ノ標示ハ明瞭ニシテ久ニ耐ユル方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十七條 標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其標示ヲ改ムヘシ

第六章 登錄稅、手数料及旅費

第四十八條 登錄稅法ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付スルニハ左ノ區別ニ依リ相當ノ收入印紙ヲ貼用シタル登錄稅納付書ヲ登錄ノ申請書ニ添ヘテ差出スヘシ

- 一 第十七條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第一號
 - 二 船籍港以外ノ登錄事項ノ變更ニ依リ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第四號
 - 三 第二十七條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號
 - 四 船籍港變更ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第二號
- 第四十九條 登錄稅法第四條第一項第四號ニ付テハ第十七條ノ二各號事項ノ變更ヲ以テ每一箇ト

第五十條 登録税納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸數又ハ積石數及稅金額ヲ記載シ登録稅法第四條第一項第四號ノ場合ニ於テハ變更ノ箇數ヲモ記載スヘシ

第五十條ノ二 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタル場合ニ於テハ當該管海官廳ハ遲滯ナク左ノ事項ヲ船舶所有者ノ住所又ハ船舶管理人ノ住所ヲ管轄スル稅務署ニ通知スヘシ

- 一 船舶ノ種類、名稱及總噸數又ハ積石數
- 二 船舶所有者又ハ船舶管理人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 三 抹消ノ登録ヲ爲シタル年月日

四 登録稅額

第五十條ノ三 船舶法第四條又ハ同法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附錄船舶積量測度手數料表ニ定ムル測度手數料ヲ納付スヘシ

申請人ノ都合ニ依リ測度ノ申請ヲ取下又ハ船舶方測度ヲ要セサルモノトナリタル場合ト雖モ測度着手後ナルトキハ測度手數料ヲ徵收ス改測ノ場合ニ付亦同シ

第五十條ノ四 前條ノ測度手數料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ測度手數料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前項ノ測度手數料納付書ニハ船舶ノ名稱、汽船、機關ヲ有スル帆船又ハ機關ヲ有セサル帆船ノ

區別、總噸數、新規測度全部改測又ハ一部改測ノ區別及手數料額ヲ記載スヘシ又一部改測ノ場合ニシテ量噸甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ尙其ノ旨ヲモ附記スヘシ

第五十一條 左ノ場合ニ於テハ各號ニ相當スル手數料ヲ納付スヘシ

- 一 船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請スルトキ 一枚ニ付二十錢
 - 二 船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルトキ 一回ニ付二十錢
 - 三 汽船ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキ 圓
 - 四 前號ノ證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキ 圓
 - 五 帆船ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキ 圓
 - 六 前號ノ證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキ 圓
- 前項ノ手數料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ第一號及第二號ノ場合ニ於テハ申請書ニ、第三號乃至第六號ノ場合ニ於テハ手數料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ
- 第五十二條 登録稅又ハ手數料納付ノ爲メ書類ニ貼用シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ
- 第五十三條 検査官吏方船舶所有者ノ申請ニ依リ船舶検査執行地以外ニ出張スルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ検査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スヘシ

船舶検査法施行細則第七十八條第一項又ハ船舶滿載吃水線法施行規則第四十一條第一項ノ場合ニ於テ出張シタル検査官吏ノ臨檢ヲ受クルトキハ其旅費ハ相互ニ之ヲ通算ス

第七章 罰則

第五十四條 本則ノ規定ニ依リ船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ英譯書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其義務ヲ怠リタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第五十五條 本則ハ船舶法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第五十六條 明治二十六年^二月^二日逕信省令第三號、同年^三月^三日逕信省令第六號失踪船取扱規則、同年^四月^四日逕信省令第八十五號及明治二十九年^四月^四日逕信省令第三號登簿船免狀取扱規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第五十七條 船舶法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ニシテ船舶法ノ規定ニ依リ登録ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クヘキモノノ所有者ハ登簿噸數十五噸以上又ハ積石數百五十石以上ノ船舶ニ付テハ船舶法施行ノ後始テ定期検査又ハ特別検査ヲ申請スルトキ當該検査官廳ニ、登簿噸數十五噸未滿ノ汽船及検査ヲ要セサル船舶ニ付テハ船舶法施行ノ日ヨリ起算シ二個年內ニ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ積量ノ測度ヲ申請スヘシ
前項ノ船舶ニシテ登簿船免狀又ハ船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者

ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ申請ヲ爲スヘシ
第五十八條 第十條及第十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ船舶ニ臨檢シタル検査官吏ハ積量ノ測度ノ一部ヲ省略スルコトヲ得
第五十九條 前條ノ規定ニ依リ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ登録及船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ
一 船舶ノ番號、名稱及積量

二 船籍港
三 船舶所有者ニ在リテハ各共有者ノ住所、氏名又ハ名稱及持分

第六十條 前條ノ申請書ニハ左ニ掲クル書面ヲ添附スヘシ
一 登記ノ謄本
二 機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機及汽鐘ノ製造者ニ於テ其製造ノ年月日ヲ證スル書面
三 船鑑札ヲ受有スル船舶ニアリテ當該地方官廳ニ於テ原名、製造地、進水ノ年月日及造船者ノ氏名又ハ名稱ヲ證スル書面

第六十一條 管海官廳ニ於テ第五十九條ノ申請ニ依リ登録ヲ爲ストキハ登簿船免狀又ハ船鑑札ニ記載シタル製造年月ヲ以テ進水ノ年月日ト看做ス

第六十二條 登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滯ナク該免

狀ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ
船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滞ナク該鑑札ヲ原地方官廳ニ返還スヘシ

第六十三條 第五十四條ノ罰則ハ前條ノ義務ヲ怠リタル船舶所有者ニ之ヲ適用ス

第六十四條 船舶法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ハ登録ヲ了ルマテ第四十四條又ハ第四十五條ノ標示ヲ爲ササルコトヲ得

第六十五條 第四十條及第五十四條ノ規定ハ船舶法施行ノ際受有スル假免狀ニ之ヲ準用ス

附 則 (大正三年七月二十九日遞信省令第一八號附則)

第一條 本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行ノ際現ニ船舶原簿ニ登録シタル船舶港ニ付テハ第三條第二項ノ規定ニ適合セサルモノト雖モ當該船舶カ引續キ其地ニ船舶ヲ置ク場合ニ限り従前ノ例ニ依ル

第三條 第十七條ノ二ノ規定ニ依リ登録ヲ爲スヘキ事項、第二十二條及第二十四條ノ規定ニ依リ變更ノ登録ヲ爲スヘキ事項並船舶件名書、船舶國籍證書及假船舶國籍證書ノ書式ハ船舶積量測量法第十二條ノ規定ニ依ル改測前ノ船舶ニ付テハ従前ノ例ニ依ル

第四條 本令公布前積量ノ測度又ハ改測ヲ申請シタル船舶ニ付テハ本令施行後其測度又ハ改測ヲ了リタル場合ニ於テモ第五十條ノ三ノ規定ニ依ル測度手数料ヲ徵收セス

第五條 船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依ル改測ニ依リ船舶國籍證書又ハ其英譯書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル爲メ其書換ヲ申請スル場合ニ於テハ第五十一條ノ規定ニ依ル手数料ヲ徵收セス

ル事項ニ變更ヲ生シタル爲メ其書換ヲ申請スル場合ニ於テハ第五十一條ノ規定ニ依ル手数料ヲ徵收セス
前項ノ申請ト同時ニ船名、船舶港、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及持分以外ノ事項ノ變更ニ依リ船舶國籍證書又ハ其英譯書ノ書換ヲ申請スル場合ニ付亦前項ニ同シ

第六條 船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依ル改測ノ場合ニ於テハ第五十三條ノ規定ニ依ル旅費ヲ徵收セス

第七條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付本令施行ノ際現ニ受有スル船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ハ本令ノ爲メ其效力ヲ妨ケラレルコトナシ

前項ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項中外板ノ材料、船骨ノ材料又ハ橋ノ數ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ遲滞ナク證書ノ書換ヲ申請スヘシ
前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第五十一條ノ規定ニ依ル手数料ヲ徵收セス

附 則 (大正十年三月五日 省令第六號改正)

本令ハ大正十年三月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前積量ノ測度又ハ改測ヲ申請シタル船舶ニ付テハ仍従前ノニ依ル

附 錄 船舶積量測度手数料表

船舶法施行細則

測度種類	船舶種	
	類 汽船及機 有スル帆 關ヲ有セ 帆	汽船及機 有スル帆 關ヲ有セ 帆
新 規 測 度 又 ハ 全 部 改 測	未十滿 二十噸以上 滿	未十滿 五十噸以上 滿
	未十滿 三百噸以上 滿	未十滿 五百噸以上 滿
一 部 改 測	未十滿 五百噸以上 滿	未十滿 一千噸以上 滿
	未十滿 二千噸以上 滿	未十滿 三千噸以上 滿
一 部 改 測	未十滿 四千噸以上 滿	未十滿 六千噸以上 滿
	未十滿 八千噸以上 滿	未十滿 一萬噸以上 滿

測度種類	汽船及機 有スル帆 關ヲ有セ 帆	
	汽船及機 有スル帆 關ヲ有セ 帆	汽船及機 有スル帆 關ヲ有セ 帆
新 規 測 度 又 ハ 全 部 改 測	五十四圓 七十圓以上 滿	五十四圓 十五圓以上 滿
	五十四圓 十五圓以上 滿	五十四圓 十五圓以上 滿
一 部 改 測	七圓 七圓以上 滿	七圓 七圓以上 滿
	七圓 七圓以上 滿	七圓 七圓以上 滿
一 部 改 測	二百圓以上 滿	二百圓以上 滿
	二百圓以上 滿	二百圓以上 滿

備考

- 一 量噸甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ之ヲ全部改測ト看做シ本表ニ規定セル手數料ヲ納付スヘシ
- 二 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ積石數十石ヲ以テ一噸ノ割合ニ換算シ料金ヲ算出ス
- 三 第五十條ノ三第二項ノ場合ニ於テ總噸數ヲ定ムルコト能ハサルトキハ計畫總噸數ニ依リ測度手數料ヲ納付スヘシ
- 四 外國ニ於テ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ其ノ手數料ハ本表及前各號ノ規定ニ依リ

第一號書式

算出シタル金額ノ四倍トス

船舶積量測度申請書
汽(帆)船何丸

- 一 船籍港 何府縣何郡市町村
 - 二 積量 總噸數約何噸又ハ積石數約何石
 - 三 造船地 何府縣何郡市何町村
 - 四 造船者 何某又ハ何會社
 - 五 進水ノ年月 大正又ハ西曆 年 月
 - 六 原名 何々
 - 七 所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分 何府縣何郡市何町村何番地
何某又ハ何會社
 - 八 測度ヲ受ケントスル場所 某所
- 右今般新造致(又ハ何國人何某ヨリ買受等)候ニ付積量測度相成度關係書類何通相添此段及申請候也

年 月 日

船舶法施行細則

管海官廳宛

備考

- 一 船名ニハ振假名ヲ附記スヘシ
- 二 郡市町村名、氏名及名稱ニハ讀方ノ明瞭ナル場合ノ外振假名ヲ附記スヘシ
- 三 外國ノ名稱ニハ外國文字ヲ附記スヘシ
- 四 原名ノ項ニハ外國船カ日本ノ國籍ニ入りタル場合ニ在リテハ國籍取得前ノ最近ノ船名、船舶法第二十條ニ掲クル船舶カ總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ト爲リタル場合ニ在リテ測度申請前ノ最近ノ船名ヲ記載スヘシ
- 五 第十七條ノ二第二項及第三項ニ掲クル船舶ニ付テハ造船者ヲ記載スルコトヲ要セス

第二號書式

船舶件名書

一 甲板ノ層數

汽(帆)船何丸

何層

二 船質

鋼、鐵、木又ハ本鐵等

三 帆船ノ帆裝

三橋バーク、二橋トツプルスクリナー、二橋スク
1ナ1、一橋スループ等

四 總噸數

何噸何々

五 登簿噸數

何噸何々

六 汽機ノ稱類及數

單式、二聯成、三聯成、四聯成、タービン、發動機
何箇

七 推進器ノ種類及數

外車又ハ螺旋推進器何箇

八 進水ノ年月

大正又ハ西曆 年 月

右 年 月 日 某所ニ於テ臨檢シタル所前記ノ通ニ有之候也

所屬官廳

官 氏 名 印

備考

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ第十七條ノ二第三項ノ規定ニ依リ本書式中ノ
事項ヲ變更又ハ省略スヘシ
船舶法施行規則



船舶國籍證書

年 月 日	前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス	汽機及 種類及 器數ノ	帆船ノ 帆裝	船名	船質	船籍地	造船者	進水ノ年月	甲板ノ層數	積量	總噸數	除噸數
		度	尺	度	尺	者	有	所	者	有	所	者
日本帝國 管海官廳名印											三四 八寸五分	

第三號書式甲 (船舶法施行細則第十七條ノ二第) 一項ニ掲クル船舶ニ用ユルモノ

三四
八寸五分



船舶國籍證書

年 月 日	前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス	汽機及 種類及 器數ノ	帆船ノ 帆裝	船名	船籍地	造船者	進水ノ年月	甲板ノ層數	船質	種類	信號符號	番號
		度	尺	度	尺	者	有	所	者	有	所	者
日本帝國 管海官廳名印											三五	

第三號書式乙 (船舶法施行細則第十七條ノ二第) 二項ニ掲クル船舶ニ用ユルモノ

三五

船舶法施行細則

三五



假船國籍證書

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス	船名	進水年月	造船地	船籍港	種類	番號
年 月 日						
日本帝國	者有所	尺 度 及 積 量				
管海官廳名印		船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅 腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深 積石數				

第三號書式內

(船舶法施行細則第十七條ノ二第) 三項ニ掲クル船舶ニ用ユルモノ

三六 豎七寸五分 横五寸五分

假船國籍證書

種類	船籍港	造船地	進水年月	船名	甲板層數
帆船ノ裝					度
帆機ノ裝					尺
汽機ノ裝					
種類及數					
推進器ノ種類及數					
積					者 有 所
總噸數					
控除噸數					
登簿噸數					

第四號書式甲

(船舶法施行細則第十七條ノ二第一項) 及第二項ニ掲クル船舶ニ用ユルモノ

豎八寸 横六寸

本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス本證書ハ其效力ヲ有スルモ其以前ニ於テ船籍港ニ到著シタルトキハ直ニ其效力ヲ失フ

年 月 日

日本帝國

管海官廳名印

船舶法施行細則

三七

假船籍國船舶證書

第四號書式乙 (船舶法施行細則第十七條ノ二第 三項ニ掲クル船舶ニ用ユルモノ)		種類	船籍港	造船地	進水ノ 年月	船名	
船首ノ内面ヨリ船尾ノ 内面ニ至ル船底水平ノ長 船體最廣部ニ於テ外板ノ 内面ヨリ内面ニ至ル幅 腰當梁ノ中央ニ於テ其上 面ヨリ航ノ上面ニ至ル深 積石數.....		尺	度	及	積	量	者 有 所
本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス本證書ハ 年 月 日 迄效力ヲ有スルモ其以前ニ於テ船籍港ニ到着シタルトキハ直ニ其效力ヲ失フ							
年 月 日							
日本帝國							
管海官廳名印							

第五號書式

假船舶國籍證書交付申請書

- 汽(帆)船何丸
- 一 船籍港 何府縣何郡市何町村
 - 二 造船地 何府縣何郡市何町村
 - 三 進水ノ年月 大正又ハ西曆 年 月
 - 四 甲板ノ層數 何層
 - 五 船 質 鋼、鐵、木又ハ木鐵等
 - 六 帆船ノ帆裝 三橋バーク、二橋トツブスルスクナー、二橋スク
ナー、一橋スループ等
 - 七 量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長 何呎何々
 - 八 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅 何呎何々
 - 九 長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深 何呎何々
 - 十 總噸數 何噸何々
- 船舶法施行細則

- 十一 控除噸數 何噸何々
- 十二 登簿噸數 何噸何々
- 十三 汽機ノ種類及數 單式、二聯成、三聯成、四聯成、「タービン」發動機何箇
外車又ハ螺旋推進器何箇
- 十四 推進器ノ種類及數
- 十五 所有者ノ氏名又ハ名稱、住所又共有ナルトキハ各共有者ノ持分
何府縣何郡市何町村何番地
何某又ハ何會社

右今般新造致（又ハ何國人何某ヨリ買受等）候ニ付假船舶國籍證書交付相成度船舶法第十五條（又ハ第十六條）及船舶法施行細則第三十七條ノ規定ニ依リ關係書類何通相添此段及申請候也

年 月 日

管海官廳宛

住 所

何

某印

備考

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ第四號書式乙ニ掲ケル事項ニ依ル本書式中ノ事項ヲ變更又ハ省略スヘシ

改正

船舶法取扱手續

明治三十三年 七月九日
遞信省公達第三百六十三號

改正
明治三十四年十二月（同三十五年一月）
公達第七三三號（一日ヨリ施行）
明治四拾四年二月
公達第三七號
大正三年七月（同年十月）
公達三五二號（一七日ヨリ施行）

第一章 總 則

- 第一條 船舶ノ名稱ニハ成ルヘク其ノ末尾ニ丸ノ文字ヲ附セシムヘシ
- 第二條 船舶ノ登録ヲ爲シ又ハ船舶國籍證書若ハ假船舶國籍證書ヲ調製スル場合ニ於テ不明ノ事項アルトキハ其ノ欄内ニ不詳ト記載シ記載スヘキ事項ナキ欄内ニハ斜線ヲ畫スヘシ
- 第三條 船舶ノ登録ヲ爲シ又ハ船舶國籍證書、假船舶國籍證書、英譯書、船舶件名書、船舶積量調度表、臨檢報告書、各種ノ謄本若ハ謄本ヲ調製スルニハ字畫ヲ明瞭ニスヘシ
- 第四條 數量及番號ヲ記載スルニハ〇壹貳參四五六七八九ノ文字ヲ用キ拾百千等ノ文字ヲ用ウヘカラス
- 第五條 但シ船舶原簿及船舶積量調度表ニハ亞刺比亞數字ヲ用ウヘシ
- 第六條 年月日ヲ記載スルニハ壹貳參四五六七八九拾百千等ノ文字ヲ用ウヘシ
- 第七條 文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ當該官吏之ニ捺印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ尙讀ミ得ヘキ様朱抹スヘシ但シ船舶ノ登録ヲ爲ストキハ欄外ニ記載スヘキ事項ヲ記事欄ニ記載スヘシ
- 第八條 船舶國籍證書、假船舶國籍證書及英譯書ノ文字ハ之ヲ改竄、訂正、挿入又ハ削除スルコトヲ得ス

第四條 管海官廳ニ於テ船舶法施行細則第四條ノ規定ニ依リ船舶航行ノ認可ヲ與フルトキハ試運轉ノ場合ヲ除クノ外附録書式ノ航行認可書ヲ交付スヘシ

第五條 各種ノ謄本又ハ抄本ヲ調製スルニハ當該官吏ハ用紙ノ末尾ニ原本ニ依リ謄寫シタル旨、其ノ年月日及官氏名ヲ記載シ之ニ捺印スヘシ

第六條 何時タリトモ検査官吏ニ於テ船舶ニ臨檢シタルトキハ船舶ノ標示ノ適法ナルヤ否ヤヲ注意スヘシ

第七條 左ニ掲タル書類ハ下ニ記載スル期間管海官廳ニ之ヲ保存スヘシ

- 一 船舶原簿、共同人名簿及船舶原簿見出帳 永久
- 二 第三十五條ノ書類 五年
- 三 第四十一條ノ書類及船舶國籍證書交付簿 三年
- 四 假船舶國籍證書交付簿及英譯書交付簿 二年
- 五 船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付申請書、船舶原簿閱覽申請書、登録稅納付書及手数料納付書 一年

前項ノ保存期間ハ第二號ノ書類ニ付テハ抹消ノ登録ヲ爲シタル年ノ翌年ヨリ、第三號及第四號ノ書類ニ付テハ記入ヲ了リタル年ノ翌年ヨリ第五號ノ書類ニ付テハ受理シタル年ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第二章 積量ノ測度

第八條 船舶法施行細則第八條第二項ノ規定ニ依リ差出サシメタル書面アルトキハ管海官廳ハ該書面ト船舶積量測度申請書トヲ對照シ若差違アルトキハ申請書ヲ補正セシムヘシ

第九條 管海官廳ニ於テ船舶法施行細則第八條又ハ第八條ノ二ノ規定ニ依リ測度又ハ改測ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テハ船舶件名ノ調査ハ測度又ハ改測ヲ爲ストキ之ヲ爲スヘシ

第十條 削除

第十一條 検査官吏船舶法施行細則第十二條ノ規定ニ依リ改測ヲ爲シタル場合ニ於テハ船舶積量測度表ニハ變更シタル部分ノミヲ記載スヘシ

第十二條 削除

第十三條 船舶法施行細則第十六條ノ場合ニ於テハ検査官吏ハ測度シ得タル事項ノミヲ船舶件名書及船舶積量測度表ニ記載スヘシ

第十四條 船舶法施行細則第八條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スル者同則第十六條第四項ノ規定ニ依リ船舶件名書及船舶積量測度表ノ謄本ヲ申請書ニ添附シテ差出シタル場合ニ於テハ検査官吏ハ其ノ書類ニ記載シタル事項ニ付測度ヲ省略スルコトヲ得

第十五條 検査官吏船舶法施行細則ノ規定ニ依リ船舶ニ臨檢シ船舶積量測度表ヲ調製シタルトキハ官海官廳ハ遲滞ナク其ノ謄本ヲ遞信省ニ送付スヘシ

船舶法施行細則第八條第三項又ハ同則第八條ノ二第二項ノ規定ニ依リ差出シタル圖面アルトキハ管海官廳ハ前項ノ謄本ト共ニ之ヲ遞信省ニ送付スヘシ

船舶法取扱手續

第十六條 削除

第三章 船舶ノ登録

第十七條 船舶原簿ノ用紙ハ左ノ三種トス

甲號用紙 總噸數百噸以上ノ汽船及總噸數百噸以上ノ機關ヲ有スル帆船ヲ登録スルニ用ウ
乙號用紙 總噸數百噸未滿ノ汽船及甲號用紙ニ登録スヘキ帆船以外ノ帆船ニシテ噸數ヲ以テ積
量ヲ表示スヘキモノヲ登録スルニ用ウ

丙號用紙 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ヲ登録スルニ用ウ

前項ノ用紙ハ逕信省ニ於テ之ヲ調製シ管海官廳ニ之ヲ配付ス

第十八條

管海官廳ニ於テ船舶原簿ニ各事項ヲ登録スルニハ次ノ規定ニ依ルヘシ

- 一 船名
- 二 船籍港
- 三 造船地
- 四 造船者
- 五 原名
- 六 左ノ事項ハ船舶積量測定申請書又ハ變更登録ノ申請書ヲ基礎トスヘシ
 - 一 種類

二 甲板ノ層數

三 船質

四 帆船ノ帆裝

五 汽機ノ種類及數

六 推進器ノ種類及數

七 進承ノ年月

左ノ事項ハ船舶積量測定表ヲ基礎トスヘシ

一 量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長

二 船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長

三 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅

四 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅

五 長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深

六 腰當梁ノ中央ニ於テ其ノ上面ヨリ舷ノ上面ニ至ル深

七 總噸數

上甲板下ノ噸數

上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數

船首樓ノ噸數

船舶法取扱手續

- 船橋樓ノ噸數
- 船尾樓ノ噸數
- 甲板室ノ噸數
- 艙口ノ超過噸數
- 機關室ノ噸數
- 其ノ他ノ場所ノ噸數
- 八 控除噸數
- 船員常用室ノ噸數
- 荷足水艙ノ噸數
- 機關室ノ噸數
- 帆船ノ帆庫ノ噸數
- 其ノ他ノ場所ノ噸數
- 九 登簿噸數
- 十 積石數

所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有者ノ持分ハ登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ基礎トスヘシ
 第十九條 船舶法施行細則第十七條ノ規定ニ依リ差出シタル登記ノ謄本ニ記載シタル事項カ船舶
 積量測度申請書又ハ船舶件名書ニ記載シタル事項ト符合セサルトキハ之ヲ調査シ申請書又ハ件

名書ニ誤謬アリタルトキハ之ヲ訂正セシメ又ハ之ヲ訂正シ又登記ニ誤謬アリタルトキハ申請者
 ヲシテ登記更正ノ手續ヲ爲サシメタル後登録ヲ爲スヘシ

第二十條 各管海官廳ニ於テ船舶ニ附スヘキ番號及信號符字ハ豫メ遞信省ヨリ之ヲ配付ス
 管海官廳ニ於テハ登録スヘキ船舶ノ種類ノ何タルヲ問ハス登録ノ順序ニ從ヒ各船舶毎ニ配付ヲ
 受ケタル番號及信號符字ヲ附スヘシ但シ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニハ信號符字ヲ附セル
 モノトス從來ノ船舶ニシテ既ニ番號及信號符字ノ定マレルモノニ付テハ船舶法施行ノ後ト雖モ
 之ヲ改ムヘカラス

第二十一條 船舶原簿ニ各事項ヲ登録スルニハ船舶法施行細則附錄第一號書式及第二號書式ニ示
 シタル各事項記載ノ振合ニ依ルヘシ但シ第三條及第二十二條ニ於テ別ニ記載ノ方法ヲ定メタル
 モノハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 船籍港及内國ニ於ケル造船地ヲ記載スルニハ市ニ在リテハ府縣名ヲ者略シ單ニ何市
 ト記載スヘシ

住所ヲ記載スルニハ市ニ在リテハ府縣名ヲ省略シ何市何區何町何番地ト記載スヘシ
 進水ノ年月八月ノ分明ナラサルトキハ年ノミヲ記載スヘシ
 原名ヲ有セサル船舶ニ付テハ原名ノ欄ハ空白ノ儘存スヘシ
 船舶共有者ノ持分ハ各共有者ノ氏名又ハ名稱ノ次ニ亞刺比亞數字ヲ以テ何分ノ何ト記載シ括弧
 ヲ附スヘシ但シ持分相等シキトキハ此ノ限ニ在ラス

船舶法取扱手續

振假名ハ船舶ノ名稱ニノミ附記スヘシ

外國文字ハ番號、信號符字及數量ヲ除クノ外船舶原簿ニ記入セサルモノトス

第二十三條 船舶共有者多數ニシテ船舶原簿ノ當該欄内ニ記入ヲ了スルコト能ハサルトキハ共同人名簿ヲ製シ置キ原簿ニハ筆頭ノ者ノ住所、氏名又ハ名稱及外何人ト記載シ置キ共同人名簿ニハ筆頭以外ノ者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載シ且其ノ船舶ノ番號、種類及名稱ヲ表記スヘシ

第二十四條 總テ登錄ヲ爲ストキハ用紙中登錄年月日ノ欄ニ登錄ヲ爲シタル年月日ヲ記載スヘシ
第二十五條 始テ船舶ノ登錄ヲ爲ストキハ記事欄ニ新造、船鑑札船ヨリ編入等登錄ノ事由ヲ記載シ外國船ヨリ編入シタルモノニ付テハ何國人何某ヨリ買受等國籍取得ノ原因ヲ記載スヘシ

第二十六條 削除
第二十七條 變更ノ登錄ヲ爲スニハ舊事項ヲ抹シ左ノ規定ニ從ヒテ新事項ヲ記載シ記事欄ニ變更ノ事由ヲ記載スヘシ

一 始テ變更ノ登錄ヲ爲ス場合ニハ抹シタル欄ノ次ノ欄ニ新事項ヲ記載スヘシ
二 第二回ニ變更ノ登錄ヲ爲ス場合ニハ前號ニ依リ記載シタル欄ノ次ノ欄ニ新事項ヲ記載スヘシ
三 第三回以後總テ之ニ倣フ

變更ノ登錄ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ登錄ヲ別種ノ原簿用紙ニ移シタルトキハ其ノ旨ヲ新原簿ノ記事欄ニ附記シ第三十一條ノ規定ニ依リ舊原簿ヲ閉鎖スヘシ
原名ヲ有セサル船舶ノ名稱ニ付始テ變更ノ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ舊船名ヲ原名ノ欄ニ記載ス

ヘシ

第二十七條ノ二 行政區畫、其ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタル行政區畫、其ノ名稱又ハ地番號ハ變更ノ登錄若ハ登錄ノ訂正ヲ爲ストキ、原簿ノ謄本若ハ抄本ヲ作成スルトキ其ノ他便宜ノトキ訂正ノ手續ヲ爲スヘシ字又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

第二十八條 船舶原簿ニ餘白ナキニ至リタルトキハ其ノ登錄ヲ新ナル原簿用紙ニ移スヘシ此ノ場合ニ於テハ前ノ原簿ノ欄外ニ「第一葉」ト記シ其ノ末尾ノ記事欄ニ第二葉用紙ニ移シタル旨ヲ附記シ新ナル用紙ノ欄外ニ「第二葉」ト記載シ其ノ最初ノ記事欄ニ第一葉ヨリ移シタル旨ヲ附記スヘシ第三葉以下亦之ニ倣フ

第二十九條 船舶法施行細則第二十條又ハ同則第二十一條ノ規定ニ依リ乙管海官廳ニ於テ船舶原簿ニ登錄ヲ移シタルトキハ記事欄ニ第二十條ノ場合ニ在リテハ何管海官廳管内ヨリ轉籍ノ旨及舊船籍港名ヲ記載シ第二十一條ノ場合ニ在リテハ管轄區域ノ變更ニ因リ何管海官廳ヨリ轉屬ノ旨ヲ記載スヘシ

第二十九條ノ二 抹消ノ登錄ヲ爲スニハ記事欄ニ何年何月何日某所ニ於テ沈没又ハ何年何月何日何國人何某ニ賣却ノ爲國籍喪失等抹消ノ登錄ヲ爲シタル原因ヲ記載シ其ノ記事欄及其ノ登錄年月日ノ欄ヲ除クノ外各欄ニ記載シタル事項ヲ抹スヘシ

前項ノ手續ヲ了リタルトキハ其ノ船舶原簿ハ之ヲ閉鎖シタルモノト看做ス
第三十條 登錄ヲ爲シタル官吏ハ記事欄ニ爲シタル記載ノ末尾ニ捺印スヘシ

船舶法取扱手續

第三十一條 船舶原簿ヲ閉鎖スルニハ記事欄ニ閉鎖ヲ爲シタル事由及何年何月何日閉鎖シタル旨ヲ記載シ其ノ記載事項ヲ除クノ外各欄ニ記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

第三十二條 管海官廳ハ船舶ノ登録ヲ爲シタルトキハ五日以内ニ逕信省ニ左ノ書類ヲ送付スヘシ

一 始テ登録ヲ爲シタルトキハ船舶原簿ノ謄本

二 變更ノ登録ヲ爲シタルトキハ船舶原簿ノ謄本又ハ船舶ノ番號、種類、名稱、所有者ノ氏名

若ハ名稱、變更ニ係ル新舊事、登録ノ年月日及記事欄ノ記事ヲ抄寫シタル船舶原簿ノ抄本

三 抹消ノ登録ヲ爲シタルトキハ船舶ノ番號、種類、名稱、所有者ノ氏名若ハ名稱、登録ノ年月日及記事欄ノ記事ヲ抄寫シタル船舶原簿ノ抄本

四 船舶法施行細則第二十條又ハ同則第二十一條ノ場合ニ於テハ船舶ノ番號、種類、名稱、船籍港、所有者ノ氏名若ハ名稱、登録ノ年月日及記事欄ノ記事ヲ抄寫シタル船舶原簿ノ抄本

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ前項ノ抄本中船舶ノ種類ノ下ニ(石)ト附記スヘシ

第三十三條 船舶法施行細則第二十條及第二十一條ノ場合ニ於テハ乙管海官廳ニ於テ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十四條 船舶法施行細則第二十條第一項ノ申請ト同時ニ船籍港以外ノ登録事項ニ付變更ノ登録ノ申請アリタルトキハ甲管海官廳ハ船籍港以外ノ登録事項ニ付變更ノ登録ヲ爲シタル上同條

第二項ノ手續ヲ爲スヘシ

船舶法施行細則第二十一號ノ場合ニ於テ船籍港以外ノ登録事項ニ付變更ノ登録ノ申請アリタル

トキ亦前項ニ同シ

第三十五條 登録ニ關スル申請書、船舶件名書、船舶積量測定表其ノ他一切ノ附屬書類ハ各船舶毎ニ其ノ取扱ヒタル順序ニ依リ之ヲ編綴シ何船舶ノ附屬書類タルコトヲ表示シテ之ヲ整理スヘシ

第三十六條 船舶法施行細則第十九條第三號ニ依リ船舶ノ名稱變更ノ許可ヲ受ケントスル者アリタルトキハ管海官廳ハ其ノ都度申請書ノ寫ニ意見書ヲ添ヘテ之ヲ逕信大臣ニ差出シ指揮ヲ請フヘシ

第三十七條 削除

第三十八條 船舶法施行細則第二十三條ノ臨檢報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ臨檢ヲ爲シタル検査官吏之ニ捺印スヘシ

一 船舶ノ番號、種類、名稱、積量及船籍港

二 船舶所有者又ハ共有者ノ氏名又ハ名稱

三 變更ニ係ル新舊事項

四 臨檢ヲ爲シタル場所及年月日

五 臨檢ヲ爲シタル検査官吏ノ官氏名

第三十九條 船舶法施行細則第二十八條ノ規定ニ依リ登録ノ訂正ヲ爲シタルトキハ何字ヲ訂正シタル旨、訂正ノ事由及年月日ヲ記事欄ニ記載シ其ノ末尾ニ捺印シ削除ニ係ル文字ハ尙讀ミ得ヘキ様朱抹スヘシ

船舶法取扱手續

五

登録ノ訂正ヲ爲シタルトキハ五日以内ニ訂正ニ係ル船舶ノ番號、種類、名稱、訂正ニ係ル新舊事項、所有者ノ氏名又ハ名稱及記事欄ノ記事ヲ抄寫シタル船舶原簿ノ抄本ヲ遞信省ニ送付スヘシ」前項ノ場合ニ於テハ第三十二條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四十條 管海官廳ヨリ遞信省ニ送付スル船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ニ記載スル氏名又ハ名稱ニハ振假名ヲ附記シ外國ノ名稱ニハ外國文字ヲ附記スヘシ但シ氏名又ハ名稱ノ讀方ノ明瞭ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條 管海官廳ニ於テ船舶番號及信號符字ノ配付ヲ受ケタルトキハ其ノ書類ヲ編綴シ置キ船舶ニ之ヲ點附スル毎ニ當該番號及信號符字ノ下ニ其ノ船舶ノ種類及名稱ヲ記入スヘシ

第四十二條 管海官廳ハ汽船、噸數帆船及石數帆船ニ區分シタル船舶原簿見出帳ヲ調製シイロハ順ニ依リ豫メイノ部ヨリスノ部マテヲ設ケ置キ船舶ノ登録ヲ爲ス毎ニ其ノ船名ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ船舶ノ番號及名稱ヲ記載スヘシ

船舶原簿ヲ閉鎖シタルトキハ見出帳中當該船舶ノ項適宜ノ場所ニ閉鎖ト朱記スヘシ

第四十二條ノ二 船舶原簿ハ汽船、噸數帆船及石數帆船ニ區分シ其ノ番號ノ順序ニ依リ之ヲ整理スヘシ

船舶原簿中閉鎖シタルモノハ前項ニ準シ別ニ之ヲ整理スヘシ

第四十三條 船舶原簿及附屬書類ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外管海官廳以外ニ持出スコトヲ得ス

第四章 船舶國籍證書及假船舶國籍證書

第四十四條 船舶國籍證書、假船舶國籍證書及英譯書ノ用紙ハ遞信省ニ於テ之ヲ調製シ各管海官廳ニ之ヲ配付ス

第四十四條ノ二 船舶法施行細則第四十二條又ハ同則第四十二條ノ三ノ規定ニ依リ船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ英譯書ノ訂正ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テハ更ニ之ヲ調製シ申請者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ證書ノ目附ニ依ルヘシ

第四十五條 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ各事項ヲ記載スルニハ第二十一條及第二十二條ノ例ニ依ルヘシ

所有者ノ欄ニハ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ但シ共有ノ場合ニ於テハ共有者中筆頭ノ者ノミヲ記載シ外何人ト附記スヘシ

船舶國籍證書及假船舶國籍證書ニハ振假名及外國文字ヲ記入スヘカラス但シ信號符字ハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 行政區畫、其ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル行政區畫、其ノ名稱又ハ地番號ハ證書ヲ書換、訂正又ハ再交付スルトキ新ナルモノヲ記載スヘシ字又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

第四十七條 削除

船舶法取扱手續

第四十八條 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ因リ該證書ヲ書換フル
場合ニ於テハ新證書ノ日附ハ其ノ作成ノ年月日ニ依ルヘシ
毀損又ハ滅失ニ因リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ書換又ハ再交付スル場合ニ於テハ證書
ノ日附ハ舊證書ノ日附ニ依ルヘシ此ノ場合ニ於テハ證書ノ欄外ニ何年何月何日書換又ハ再交付
ト朱記スヘシ

前項ノ場合ニ於テ舊證書ノ日附不明ナルトキハ新證書ノ日附ハ其ノ作成ノ年月日ニ依リ其ノ下
ニ書換又ハ再交付ト朱記スヘシ

第四十九條 第三十四條ノ場合ニ於テハ甲管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要セス

第五十條 管海官廳ニ於テ船舶法施行細則第三十七條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ交付スルト
キハ同時ニ所有權ノ取得ヲ證スル書面ヲ還付スヘシ

第五十一條 船舶法施行細則第四十二條第二項ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ
無効ナルコトヲ官報ニ公告スル必要アルトキハ管海官廳ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ遞信省
ニ差出スヘシ

- 一 船舶ノ番號、種類及名稱
 - 二 證書ノ種類及日附
 - 三 所有者ノ氏名又ハ名稱
- 前項ノ場合ニ於テ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ船舶ノ種類ノ下ニ(石)ト附記シ所有

者ノ氏名又ハ名稱ニ付テハ共有ナルトキハ筆頭ノ者ノ氏名ヲ記載シ外何人ト附記スヘシ

第五十二條 管海官廳ニ於テ船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ英譯書ノ返還ヲ受ケタルトキハ
之ヲ廢棄スヘシ第四十四條ノ二ノ場合ニ於ケル舊證書ニ付亦同シ

證書ノ廢棄ハ紋章ヲ切取り官廳ノ印ニ消印ヲ押捺シテ之ヲ爲スモノトス
第一項ノ場合ニ於テ返還ヲ受ケタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ英譯書カ他ノ管海官廳
ヨリ交付シタルモノナルトキハ其ノ船舶ノ番號、種類、名稱、證書交付ノ年月日、證書返還ノ
事由及其ノ年月日ヲ交付官廳ニ通知スヘシ

第五十三條乃至第五十五條 削除

第五十六條 管海官廳ハ船舶國籍證書交付簿、假船舶國籍證書交付簿及英譯書交付簿ヲ調製シ各
船舶毎ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 船舶ノ番號、種類及名稱
- 二 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付、再交付、書換、訂正又ハ返還ノ旨、其ノ事由及
年月日
- 三 英譯書ノ交付、訂正又ハ返還ノ旨及其ノ年月日

第五十七條 削除

附 則

第五十八條 検査官吏ニ於テ船舶法施行細則第五十八條ノ規定ニ依リ船舶ニ臨檢シタルトキハ從

船舶法取扱手續

來既ニ登録セラレタル事項ニ付テハ其ノ調査ヲ省略シ新ニ登録スヘキ事項ニ付テハ精密ニ調査スヘシ但シ從來登録セラレタル事項ト雖モ正確ナラサル疑アルトキハ必ス之ヲ調査スヘシ

第五十九條 船舶法施行細則第五十八條ノ規定ニ依リ臨檢ヲ爲シタル検査官廳ト船籍港ヲ管轄スル管轄官廳ト同一ナラサル場合ニ於テハ検査官廳ハ遲滞ナク積量測定申請書、船舶件名書、積量測定表及其ノ他一切ノ附屬書類ヲ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ送付スヘシ但シ測定表ニハ船舶法施行細則第五十八條第二項ニヨリ省略セシ部分ヲ記載スルニ及ハス

第六十條 船舶法施行細則第五十八條第二項ノ規定ニ依リ測定ノ一部ヲ省略シタルトキ又ハ造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル長幅深ノ三點ノミヲ測リ積量測定表ヲ調製セサルトキハ第五條ニ依リ本省ヘ送付スル船舶件名書ノ謄本、其ノ送付書又ハ附箋ニ其ノ船舶ノ番號、船籍港、所有者ノ氏名又ハ名稱ヲ記入スヘシ

第六十一條 管海官廳ニ於テ船舶法施行細則第五十九條第一項ノ申請ニ依リ登録ヲ爲ス場合ニ於テ船舶原簿ニ記載ヲ爲スニハ左ノ書類ヲ基礎トスヘシ

- 一 船舶法施行細則第五十九條第二項ノ申請書
- 二 船舶法施行細則第六十條ノ書面
- 三 船舶法施行細則第五十八條ノ規定ニ依リ検査官吏ノ作りタル船舶件名書及積量測定表

前項ノ書類ニ記載セサル事項ニ付テハ從來ノ登録簿原簿ノ寫ニ記載シタル事項ヲ基礎トスヘシ

第六十二條 前條ニ依リ登録シタル船舶原簿ノ謄本ヲ第三十二條ニ依リ遞信大臣ニ差出スニ當リ

前條第二項ニ依リ基礎トシタル事項ニ變更ヲ生シ若ハ訂正ヲナシタル場合ニハ其ノ事由ヲ其ノ欄外又ハ附箋ニ記載スヘシ

第六十三條 登録船免狀ノ處分ニ關シテハ船舶法施行細則第四十一條第二項及本手續第五十一條第五十二條ノ規定ヲ準用スヘシ但シ本手續第五十二條ニ交付官廳トアルハ此ノ場合ニ於テハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ヲ指スモノトス

第六十四條 登録船免狀ヲ受有スル船舶ニシテ船舶法施行細則第五十九條ニ依リ登録ヲ申請スルトキハ新規登録稅ヲ徵收スヘカラス

第六十五條 登録船免狀ヲ受有スル船舶ニシテ船舶法第三十七條第一項及同施行細則第五十九條ノ規定ニヨリ登録ノ申請ヲナシタル場合ニ於テ登録簿原簿ニ登録セル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ官ノ誤記又ハ誤測ニ起因セサル限り同施行細則第四十八條第二號以下ニヨリ登録稅ヲ徵收スヘシ

第六十六條 登録船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ニシテ甲管海官廳ノ管内ヨリ乙管海官廳ノ管内ニ船籍港ヲ變更スル場合又ハ之ト同時ニ船籍港以外ノ登録事項ニ付變更ヲ生シタル場合ニ於テハ積量ノ測定ハ甲管海官廳ニ申請セシムヘシ

前項ノ積量ノ測定ニ關シテハ船舶法施行細則第九條及第十四條ノ規定ヲ準用ス但シ乙管海官廳カ測定ノ囑託ヲ受ケタル場合ニ於テハ船鑑札受有船ニ在リテハ船舶件名書等ヲ送付セスシテ測定ヲ結了シタルコト及其ノ船舶ノ總噸數又ハ積石數ヲ甲管海官廳ニ通知スヘシ

船舶法取扱手續

前二項ノ規定ニ依リ測度ヲ結了シタルトキハ甲管海官廳ニ登録及船舶國籍證書ノ交付ヲ申請セシメ甲管海官廳ハ登簿船免狀受有船ニ在リテハ船舶原簿ニ一旦登録シタル後船舶法施行細則第二十條第二項第三項ノ手續ヲ爲シ船鑑札受有船ニ在リテハ船舶原簿ニ登録スル事ナク單ニ關係書類ヲ乙管海官廳ニ移送スヘシ乙管海官廳ハ之ニ據リ船舶原簿ニ登録シ船舶國籍證書ヲ交付スヘシ

第六十七條 前條第三項ノ場合ニ於テハ甲管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルノ限ニ在ラス

第六十八條 船舶法施行細則第五十九條ニヨリ始テ原簿ニ登録ヲ爲ストキハ第一欄ニ記入シ其ノ記事欄ニ「船舶法施行細則第五十九條ニヨリ登録ス」ト記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ石數ヲ噸數ニ改算シタル船舶ナルトキハ「船舶法施行細則第五十九條ニヨリ登録ス但シ検査ノ上石數ヲ噸數ニ改算シタルモノ」ト記載スヘシ

第六十九條 船舶法施行細則第六十條第一號ノ登記謄本ニ記載シタル事項方積量測度申請書又ハ船舶件名書ニ記載シタル事項ト符合セサルトキハ本手續第十九條ノ手續ヲ準用スヘシ船舶法施行細則第六十條第三號ノ證明書ト積量測度申請書ト符合セサルトキ亦同シ

附則 (大正三年七月三十一日遞信省公達第三五二號附則)

第一條 本公達ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 第七條ニ掲クル書類ハ本公達施行前ニ受理又ハ結了シタルモノト雖モ管海官廳ハ同條ノ規定ニ準シ之ヲ處理スヘシ

第三條 船舶積量測度表、船舶原簿及英譯書ノ書式ハ船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依ル改測前ノ船舶ニ付テハ從前ノ例ニ依ル

第四條 第三條第二十一條第二十二條第二十三條第二十六條第二十八條第三十二條第三十九條第四十二條及第四十二條ノニニ規定スル事項ニシテ前條ノ規定ニ依ル船舶原簿ニ適用シ難キモノニ付テハ從前ノ例ニ依ル

第五條 船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依リ改測ヲ爲シタル爲變更ノ登録ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨船舶原簿ノ記事欄ニ記載スヘシ

第六條 船舶法施行細則附則第七條第二項ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ書換ノ申請ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ同則附錄第三號書式丙又ハ第四號書式乙ノ證書ヲ交付スヘシ

第七條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ本公達施行ノ日ヨリ三月以内ニ其ノ登録ヲ新ナル原簿用紙ニ移スヘシ

附錄

書式

航行認可書

住所

所有者

某

一 汽(帆)船何丸

船舶法取扱手續

五九

右船舶法施行細則第四條第何號ノ規定ニ依リ何地ヨリ何地マテ航行セシムルコトヲ認可ス此ノ證書ハ 年 月 日限り無効トス

年 月 日

管海官廳名印

備考

船舶カ共有ナルトキハ所有者ノ項ニハ共有者ノ一人ノ氏名ヲ記載シ外何人ト附記スヘシ

船主ノ氏名ハ船主ノ氏名ニテ記載スルコトヲ要ス 船主ノ氏名ハ船主ノ氏名ニテ記載スルコトヲ要ス 船主ノ氏名ハ船主ノ氏名ニテ記載スルコトヲ要ス 船主ノ氏名ハ船主ノ氏名ニテ記載スルコトヲ要ス

○朝鮮臺灣關東州ノ船舶ニシテ戰時陸海軍

使用ノモノ内地不開港場ニ寄港方

大正三年九月一日
遞信省令第二十五號

朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニシテ戰時陸海軍ノ使用ニ供セラルルモノハ陸海軍ノ必要ニ因リ内地ノ不開港場ニ寄港スルコトヲ得
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮臺灣關東州ノ船舶ニシテ戰時陸海軍
使用ノモノ内地不開港場ニ寄港方

本令ハ公市ノ目ヨリシテ...

本令ハ公市ノ目ヨリシテ... 大正三年三月三十一日...

○陸軍省關東州ノ陸軍ニシテ...

○船舶積量測度法

大正三年三月三十一日 法律第三十四號 總、農、大、司、遞大臣副署

- 第一條 船舶ノ積量ハ百立方「フート」ヲ以テ一噸トシ之ヲ測度ス
- 第二條 甲板二層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板ヲ、三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ最下層甲板ヨリ第二層ニ在ル甲板ヲ量噸甲板トス
- 第三條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ、甲板三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ噸數及上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ總噸數トス但シ左ニ掲クル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入セス
 - 一 操舵機具、繫船機具、掃錨機具及主機關ト連結セサル副汽鐘副汽機ニ供用セラルル場所
 - 二 機關室、操舵室、賄室及出入口室
 - 三 採光通風ニ要スル場所及便所
 - 四 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所
- 前項ニ掲クル機關室ノ噸數ハ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ總噸數ニ算入スルコトヲ得
- 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷端以下ノ噸數ニ舷端以上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノ

船舶積量測度法

ノヲ總噸數トス

第四條 總噸數ヨリ左ニ掲クル場所ノ噸數ヲ控除シタルモノヲ登簿噸數トス但シ總噸數ニ算入ヤサル場所ノ噸數ハ之ヲ控除セス

一 船員常用室及海圖室

二 荷足水艙

三 機關室

四 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主唧筒ト連結シタル副汽罐副汽機ニ供用セラルル場所

五 水夫長倉庫

六 帆船ノ帆庫

七 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

第五條 前二條ニ掲クル場所ノ限域ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第六條 登簿噸數ノ算定ニ付機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スヘキ噸數ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ定ム

一 螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ十三ヲ越エ百分ノ二十未滿ナルトキハ總噸數ノ百分ノ三十二、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ二十ヲ越エ百分ノ三十未滿ナルトキハ總噸數ノ百分ノ三十七

二 前號ニ該當セサル場合ニ於テハ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數ニ其ノ四分ノ三、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數ニ其ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ但シ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ前號ノ割合ニ依ルコトヲ得

トヲ得

前項ノ規定ニ依リ算定シタル噸數カ登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ機關以室外ノ場所ノ噸數ヲ總噸數ヨリ減シタル噸數ノ百分ノ五十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ五十五ニ止ム

第七條 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ帆庫ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ二十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ二十五ニ止ム

第八條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スヘキ船舶ノ積量ハ十立方尺ヲ以テ一石トシ之ヲ測度シ回漕船ニ在リテハ船梁上下ノ船艙ノ石數、其ノ他ノモノニ在リテハ舷端以下ノ船艙ノ石數ヲ積石數トス

第九條 積量測度ノ方法ハ主務大臣之ヲ定ム

附 則

第十條 本法ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 明治十七年布告第十號船舶積量測度規則ハ之ヲ廢止ス

第十二條 舊法ニ依リ噸數ヲ以テ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ニ付テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ積量ヲ改測ス

第十三條 前條ノ規定ニ依ル改測前ニ於テ船舶法第九條ノ申請ニ因リ積量ヲ改測スル場合ニ於テ船舶積量測度法

船舶積量測度法

ハ舊法ニ依リ之ヲ測度スルコトヲ得

第十四條 舊法ニ依リ測度シタル船舶ノ積量ハ本法ノ測度方法ニ依リ之ヲ改測スル迄本法ニ依リ測度シタルモノト看做ス

第十五條 本法公布前造船獎勵法ニ依リ認許證書ノ交付ヲ申請シ本法施行前其ノ交付ヲ受ケ製造ニ著手シタル船舶ノ噸數ハ造船獎勵法第二條ノ規定ノ適用ニ付テハ舊法ニ依ル

第十六條 本法施行ノ際現ニ遠洋航路補助法ニ依リ補助航海ニ使用スル船舶ノ噸數ハ同法ノ適用ニ付テハ其ノ補助年限内舊法ニ依ル

第十七條 本法施行ノ際現ニ遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋ニ於ケル漁獵業又ハ漁獲物ノ處理運搬業ニ使用スル船舶ノ噸數ハ同法ノ適用ニ付テハ獎勵金下付ノ許可期間内舊法ニ依ル

第十八條 第十二條ノ規定ニ依リ改測ヲ爲シタル爲登記又ハ登録ヲ爲ス場合ニ於テハ登録稅ヲ課セス

第十九條 所有權及船舶管理人以外ノ事項ニ付登記アル船舶カ第十二條ノ規定ニ依リ又ハ船舶法第九條ノ申請ニ因リ改測セラレタル爲登記スヘカラサル船舶ト爲リタルトキト雖仍其ノ事項ニ付登記ノ存スル間ハ之ニ關スル登記及所有權ニ關スル登記ヲ爲スヘキモノトス

○船舶積量測度規程

大正三年七月十七日(同年十月一日) 遞信省令第十六號ヨリ施行

第一章 總則

第一條 長、幅、深、高及厚ヲ測定スルニハ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ呎ヲ以テ單位トシ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ尺ヲ以テ單位トシ單位下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入スヘシ但シ分長點及分深點ノ間隔ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ四位以下ハ四捨五入スヘシ

面積、容積及噸數ヲ算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入シ石數ヲ算定スルニハ單位ニ止メ單位下ハ四捨五入スヘシ

第二條 量噸甲板ノ長ト稱スルハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

一 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ量噸甲板上ニ沿ヒ船首内張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル距離ヲ測リ之ヨリ船首ニ於テハ甲板ノ厚ニ從ヒ船首材ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シ、船尾ニ於テハ甲板ノ厚ニ終尾船梁梁矢ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノニ從ヒ船尾肋骨ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シタルモノ

二 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ニ於テ中心線ニテ船首内張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル距離

第三條 分長點下稱スルハ量噸甲板ノ長ヲ左表ニ依リ等分シタル點及首尾兩端ノ點ヲ謂フ

船舶積量測度規程

量噸甲板ノ長	等分數
五十呎以下	四
五十呎ヲ超エ百二十呎以下	六
百二十呎ヲ超エ百八十呎以下	八
百八十呎ヲ超エ二百二十五呎以下	十
二百二十五呎ヲ超ユルモノ	十二

第四條

分長點ノ深ト稱スルハ左ノ各號ニ掲タルモノヲ謂フ

- 一 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ量噸甲板ノ下面ヨリ二重底内底板、肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底内張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ
- 二 前號ノ船舶ノ二重底内底板カ凸面ナルトキハ中心線ニ於テ量噸甲板ノ下面ヨリ内底板迄ト縁板ノ上面迄トノ平均ノ深ヲ測リ之ヨリ船底内張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ
- 三 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヨリ肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底内張板ノ平均ノ厚ヲ減シタルモノ

第五條 分深點ト稱スルハ量噸甲板ノ長ノ中央ニ於ケルハ長點ノ深ニ應シ左表ニ依リ各分長點ノ深ヲ等分シタル點及上下兩端ノ點ヲ謂フ

量噸甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深	等分數	
	二重底内底板カ凹面ナルトキ	其ノ他ノ場合
十六呎以下	五	四
十六呎ヲ超ユルモノ	七	六

副分深點ト稱スルハ二重底内底板カ凹面ナル場合ニ於テ最下ノ分深點間隔ヲ四等分シタル點ヲ謂フ

第六條 分深點及副分深點ノ幅ト稱スルハ各點ニ於ケル船側内張板ノ内面ヨリ内面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

第七條 船側内張板ノ厚ニ差異アルトキハ其ノ平均ノ厚ノ所ヲ船側内張板ノ内面ト看做ス

遮浪甲板ト稱スルハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ヲ有スル全通船樓甲板ヲ謂フ

第八條 遮浪甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ掲クル甲板ノ層數ニ加ヘス

船舶積量測度法第三條及第四條ニ掲クル場所ノ限域ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外検査官吏ノ相當ト認ムル所ニ依ル

第九條 形状正整ナル場所ノ噸數ヲ算定スルニハ第三章乃至第五章ノ規定ニ拘ラス其ノ内面ニ於

ケル平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第十條 第三章乃至第五章ノ規定ニ於テ一區分トシテ容積ヲ算定スヘキ場所ニシテ形状複雑ナル

モノニ在リテハ検査官吏ニ於テ計算上精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合ニ限り之ヲ二箇以上ニ

區分シ各區分毎ニ當該規定ヲ適用シ其ノ容積ヲ算定スルコトヲ得

第十一條 特殊ノ構造ヲ有シ又ハ特別ノ事由アルカ爲本令ノ測度方法ニ依リ難キ船舶ニ付テハ遞信

大臣ノ相當ト認ムル測度方法ニ依ル

第二章 量噸甲板下ノ噸數及舷端以下ノ噸數

第十二條 分長點ニ於ケル横截面積ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

一 分長點ノ深ヲ四等分又ハ六等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ

上下兩端ヲ除キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點間隔ノ三分

ノ一ヲ乘スヘシ

二 分長點ノ深ヲ五等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ五分深點以上ノ部分ニ付テハ前

號ノ規定ヲ適用シ最下分深點間隔ノ部分ニ付テハ五分深點及第六分深點ノ幅ノ四分ノ一

ト副分深點ヲ上端ヨリ數ヘ其ノ第一及第三ノ幅ト第二ノ幅ノ二分ノ一トヲ加ヘ之ニ分深點ノ

間隔ヲ三分ノ一ヲ乘シ各部分ヲ加フヘシ

三 分長點ノ深ヲ七等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ第七分深點以上ノ部分ニ付テハ第

一號ノ規定ヲ適用シ最下分深點間隔ノ部分ニ付テハ前號ノ規定ヲ準用シ各部分ヲ加フヘシ

第十三條 量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スルニハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外分長點ニ於ケル横截面

積ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル面積ハ四倍シ首尾兩端ヲ除キ奇數ニ當ル面積ハ二倍シ其ノ和ニ首

尾兩端ニ當ル面積ヲ加ヘ之ニ分長點間隔ノ三分ノ一ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第十四條 船首尾艙ヲ除キ二重底内底板又ハ肋板ノ高ニ階段アル船舶ノ量噸甲板下ノ噸數ヲ算定

スルニハ各階段ニ從ヒ船體ヲ區分シ各區分毎ニ量噸甲板ノ長ヲ測リ之ヲ第三條ノ量噸甲板ノ長

ニ充テ分長點ヲ定メ第五條ノ規定ニ依リ定メタル分深點ノ等分數ヲ以テ各區分ノ分深點ヲ定メ

前條ノ規定ヲ適用シ各容積ヲ算定シ之ヲ加ヘタルモノヲ百ニテ除スヘシ但シ各區分毎ニ測リタ

ル量噸甲板ノ長カ三十呎以下ナルトキハ之ヲ二等分シ各分長點ニ於ケル横截面積ヲ算定シ中央

ノ面積ノ四倍ニ前後ノ面積ヲ加ヘ之ニ分長點間隔ノ三分ノ一ヲ乘シ該區分ノ容積ヲ算定スヘシ

第十五條 鋤鈍溝ヲ有スル浚漉船ノ量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スルニハ鋤鈍溝ノ末端隔壁ヲ境界ト

シテ船體ヲ區分シ各區分毎ニ前二條ニ規定スル方法ニ依リ算定シタル各容積ヲ加ヘタルモノヲ

百ニテ除スヘシ

第十六條 舷端以下ノ噸數ヲ算定スルニハ量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スル方法ヲ準用スヘシ

第三章 量噸甲板上ノ噸數及舷端以上ノ噸數

第十七條 量噸甲板上各甲板間ノ噸數ヲ算定スルニハ甲板間ノ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船首内

張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル長ヲ測リ之ヲ量噸甲板ノ長ノ等分數ニテ等分シ各分長

船舶積量測度規程

點ノ高ノ中央ニ於テ内面ノ幅ヲ測リ之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ首尾兩端ヲ除キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ首尾兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔ノ三分ノ一及甲板間ノ平均ノ高ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第十八條 上甲板及舷端以上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

- 一 量噸甲板ノ長ノ二分ノ一以下ノ長ヲ有スル船樓、甲板室其ノ他蔽圍シタル場所ニ在リテハ高ノ中央ニテ前後及中央ニ於ケル内面ノ幅ヲ測リ中央ノ幅ノ四倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平均ノ長ノ六分ノ一ト平均ノ高トヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ
- 二 量噸甲板ノ長ノ二分ノ一ヲ超ユル長ヲ有スル船樓、甲板室其ノ他蔽圍シタル場所ニ在リテハ其ノ長ヲ四等分シ前條ニ規定スル方法ヲ準用スヘシ

第十九條 船舶積量測度法第三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル場合ニ於テ上

甲板上ノ機關室ノ噸數ノ全部又ハ三部ヲ總噸數ニ算入スルハ登簿噸數ヲ減少スル結果ヲ生スル場合ニ限ル

前項ノ機關室ノ噸數ニハ上甲板上ニ在ル機關室圍壁及之ニ附屬スル蔽圍シタル場所ノ噸數ヲモ包含ス

第一項ノ機關室ノ噸數ノ一部トハ機關室ノ一部ニシテ甲板又ハ甲板ノ延長面及圍壁ニ依リ區畫シタル場所ノ噸數ヲ謂フ

第四章 總噸數ニ算入セサル上甲板上ノ場所

第二十條 船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ其ノ側壁又ハ端壁ニ幅三呎以上高四呎以上(緣材ヲ附スルトキハ其ノ高二呎以下)ナル一箇以上ノ出入口ヲ有シ之ニ扉又ハ之ニ準スヘキ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサルトキハ其ノ噸數ヲ總噸數ニ算入セス但シ旅客ニ供用セラルル場合又ハ出入口一箇ノミヲ有スル船樓ニシテ其ノ兩舷側ニ適當ノ排水口及排水孔ヲ備ヘサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 遮浪甲板ト上甲板トノ間ノ場所ニシテ左ノ規定ニ適合スル部分ノ噸數ハ之ヲ總噸數

- 一 遮浪甲板ニ長四呎以上幅同甲板ノ後部正艙口ノ幅ヨリ少カラサル常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ヲ有シ該口直下ノ兩舷側ニ適當ノ排水口ヲ設ケ且甲板間ニ於テ適當ノ間隔ニ徑三吋半以上ノ排水孔ヲ備フルコト
- 二 前號ノ甲板口ヲ船尾ニ設クルトキハ其ノ後端ヲ船尾材ノ後面ヨリ船ノ長ノ二十分ノ一ヨリ少カラサル距離ニ、船首ニ設クルトキハ其ノ前端ヲ船首材ノ前面ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ヨリ少カラサル距離ニ設クルコト

前項ノ船ノ長トハ量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

- 三 第一號ノ甲板口ヲ船尾ニ設クルトキハ其ノ直下ノ甲板間ニ於テ該口ヨリ船首ニ在ル橫通圍壁ニハ前條ノ規定ニ依ル出入口二箇以上ヲ設クルコト
- 四 第一號ノ甲板口ノ緣材ノ高ハ甲板上平均十二吋ヲ超ヘサルコト又該口ノ周圍ニハ之ヲ水密

ニ閉鎖シ得サル様柵欄ヲ設クルコト

第二十二條 賄室トハ厨室及麵麴燒室ヲ謂フ

第二十三條 艙口ノ噸數カ總噸數ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ噸數ノ千分ノ五以下ナルトキハ之ヲ總噸數ニ算入セス

艙口ノ噸數カ總噸數ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ噸數ノ千分ノ五ヲ超ユルトキハ其ノ超過噸數ニ限リテ總噸數ニ算入ス

第二十四條 飲料水蒸溜機、消防消毒用瓦斯發生機、「サーモタンク」、探海燈及燈塔ニ供用セララル場所ノ噸數ハ算入セス

遞信大臣ハ前項ニ掲クル場所ノ外船舶積量測定法第三條第一項第四號ノ規定ニ依リ同項第一號乃至第三號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第五章 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ノ噸數

第二十五條 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ノ算定ニ付テハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條 船員常用室トハ船長ノ専用スル諸室、海員ノ専用スル寢室、食堂、食器室、飲食料倉庫、洗面室、浴室、病室、藥局、厨室、麵麴燒室及便所並以上各室ニ專屬スル通路及採光通風ニ要スル場所ヲ謂フ

第二十七條 海圖室トハ海圖、信號器具其ノ他航海用器具ニ供用セララル場所ヲ謂フ

第二十八條 荷足水艙トハ二重底水艙ヲ除クノ外人孔ノミヲ備ヘ貨物、倉庫品及燃料ヲ積載スルニ適セサル構造ヲ有スル水艙ヲ謂フ

第二十九條 荷足水艙ノ噸數ヲ算定スルニハ水艙ノ頂板ノ長ヲ測リ其ノ長三十呎以下ナルトキハ之ヲ二等分シ三十呎ヲ超ユルトキハ之ヲ第三條ノ量噸甲板ノ長ニ充テ之ヲ等分シ又船ノ中央ニ近キ分長點ノ深ヲ測リ其ノ深十六呎以下ナルトキハ之ヲ二等分シ十六呎ヲ超ユルトキハ之ヲ四等分シ第十二條及第十三條ノ規定ヲ準用スヘシ

第三十條 機關室ノ噸數トハ第三十一條及第三十二條ニ掲クル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ謂フ一船舶所有者ノ申請ニ依リ上甲板ノ機關室ノ噸數ノ全部又ハ一部ヲ總噸數ニ算入シタルトキハ之ヲ機關室ノ噸數ニ算入スヘシ

第三十一條 機關室ノ冠頂下ノ場所、冠頂ト上甲板トノ間ノ場所、上甲板上ノ場所及車軸隧道ノ噸數ヲ算定スルニハ平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第三十二條 螺旋推進器ヲ有シ車軸隧道ヲ設ケサル船舶ニ於テ車軸ニ供用セララル場所ノ噸數ヲ算定スルニハ中間軸ノ徑ノ三倍ヲ自乘シ之ニ機關室後端隔壁ヨリ船尾管前端ニ至ル長ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第三十三條 機關室内ニ船舶ノ推進ニ關係ナキ場所アルトキハ其ノ平均ノ長、幅、深ヲ乘シテ得タル容積ヲ機關室ノ容積ヨリ除去スヘシ

第三十四條 船舶積量測定法第六條第一項第二號但書ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル船舶積量測定規程

場合ニ於テ同項第一號ノ規定ヲ適用スルハ機關室ノ噸數カ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ
總噸數ノ百分ノ十三以下、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ總噸數ノ百分ノ二十以下ニシテ特別ノ
事由アル場合ニ限ル

第三十五條 水夫長倉庫トハ甲板用諸器具、覆布、滑車類、端艇用附屬具、救命具及索類ヲ藏置
スル場所ヲ謂フ

第三十六條 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ水夫長倉庫ノ噸數ハ總噸數ニ應シ左表ニ
掲タル控除噸數ヲ距ユルトキハ之ヲ該噸數ニ止ム但シ七十五噸ヲ超ユルコトヲ得ス

總噸數	噸數	控除噸數
百五十噸未滿	三噸	
百五十噸以上五百噸未滿	總噸數ノ百分ノ二	
五百噸以上千噸未滿	十噸	
千噸以上	總噸數ノ百分ノ一	

第三十七條 無線電氣機具、其ノ從事員室、飲料水蒸溜機、消防消毒用瓦斯發生機「サーモタン
ク」及「コッフアードラム」ニ供用セラルル場所ノ噸數ハ登簿噸數ノ算定ニ付キ總噸數ヨリ之ヲ控
除スヘシ

遞信大船ハ前項ニ掲クル場所ノ外船舶積量測度法第四條第七號ノ規定ニ依リ同條第一號乃至第
六號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第六章 積石數

第三十八條 同漕船ノ船梁上ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニハ船舷ノ上端ヲ境界トシ之ヨリ船梁ノ上
・面ニ至ル平均ノ高ト船首室ノ境界ヨリ船尾室ノ境界ニ至ル長ト船舷ノ内面ヨリ内面ニ至ル平
均ノ幅トヲ乘シテ得タル容積ヲ十ニテ除スヘシ

船梁下ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニハ船首室ノ境界ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底ノ長ヲ測リ之ヲ四
等分シ其ノ各等分點及首尾兩端ニ於テ深ヲ測リ又各深ノ上下及中間等分點ニ於テ平均ノ幅ヲ測
リ其ノ深、幅ヲ平均シ此ノ平均ノ深、幅ト長トヲ乘シテ得タル容積ヲ十ニテ除スヘシ

第三十九條 同漕船以外ノ船舶ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニハ船首ノ内面ヨク船尾ノ内面ニ至ル船
底ノ長ヲ測リ之ヲ四等分シ其ノ各等分點及首尾兩端ニ於テ船舷上端ヲ境界トシ深ヲ測リ又各深
ノ上下及中間等分點ニ於テ平均ノ幅ヲ測リ其ノ深、幅ヲ平均シ此ノ平均ノ深、幅ト長トヲ乘シ
テ得タル容積ヲ十ニテ除スヘシ

大正三年七月十七日(同年十月一日)施行
第一章 總則
第一條 船舶ノ積量ハ登記登録ノ基礎トナリ諸稅手數料賦課ノ標準トナルモノナレハ之カ誤測アルニ於テハ訂正ノ手續容易ナラサルニ付測度ニ際シテハ特ニ周密ナル注意ヲ拂ヒ精確ヲ期スヘシ
第二條 測度ニ當リ疑義ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ詳細ヲ具シ必要ト認ムルトキハ圖面ヲ添ヘ本省ノ指揮ヲ受クヘシ
第三條 製造中ノ検査ヲ行フ船舶ニ付テハ成ルヘク適當ナル時期ニ於テ部分測度ヲ行ヒ測度申請アリタル場合ノ參考ニ供スヘシ
第四條 管海官廳ニ於テハ豫メ標準距離ヲ設定シ時々測度用卷尺ヲ之ト照合シ其ノ尺差ヲ檢定シタル上使用スヘシ
第五條 卷尺ヲ濕潤セシメタルトキハ之ヲ掃拭シ充分乾燥セシメタル後更ニ油布ヲ以テ清拭スヘシ
第六條 下層甲板カ貨物艙又ハ横置燃料艙ニ於テ斷切スルトキハ該甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ掲クル甲板ノ層數ニ加ヘス
第七條 低船首尾樓甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ該船樓ノ部分ニ於テ該甲板ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ船舶積量測度法第二條及第三條ニ掲クル上甲板ト看做ス

○船舶積量測度心得

第一章 總則

第一條 船舶ノ積量ハ登記登録ノ基礎トナリ諸稅手數料賦課ノ標準トナルモノナレハ之カ誤測アルニ於テハ訂正ノ手續容易ナラサルニ付測度ニ際シテハ特ニ周密ナル注意ヲ拂ヒ精確ヲ期スヘシ

第二條 測度ニ當リ疑義ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ詳細ヲ具シ必要ト認ムルトキハ圖面ヲ添ヘ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

第三條 製造中ノ検査ヲ行フ船舶ニ付テハ成ルヘク適當ナル時期ニ於テ部分測度ヲ行ヒ測度申請アリタル場合ノ參考ニ供スヘシ

第四條 管海官廳ニ於テハ豫メ標準距離ヲ設定シ時々測度用卷尺ヲ之ト照合シ其ノ尺差ヲ檢定シタル上使用スヘシ

第五條 卷尺ヲ濕潤セシメタルトキハ之ヲ掃拭シ充分乾燥セシメタル後更ニ油布ヲ以テ清拭スヘシ

第六條 下層甲板カ貨物艙又ハ横置燃料艙ニ於テ斷切スルトキハ該甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ掲クル甲板ノ層數ニ加ヘス

第七條 低船首尾樓甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ該船樓ノ部分ニ於テ該甲板ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ船舶積量測度法第二條及第三條ニ掲クル上甲板ト看做ス

第七條 船舶積量測度規程第二條ノ規定ニ依リ量噸甲板ノ長ヲ測ルニハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 船首内張板及船尾内張板ト稱スルハ量噸甲板ノ直下ニ於ケル内張板ヲ謂フ

二 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ量噸甲板上ニ於テ船首ヨリ船尾ニ至ル水平距離ヲ測リ得ルトキハ量噸甲板上ニ沿ヒタル距離ノ代リニ該距離ヲ採ルモ妨ナシ

甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテモ前項ニ準シ取扱フヘシ

三 船舶尾ニ戸建ヲ有スル木製帆船ニ在リテハ量噸甲板ノ長ハ戸建ノ内面迄測ルヘシ

四 船首ニ於テ上甲板ニ傾斜アル木製帆船ニ左リテハ量噸甲板ノ長ハ該甲板ノ下面ト船首材トノ交又部ヲ標準トシテ測ルヘシ

第八條 船首尾艙ニ於ケル分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スルニ重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第九條 鐵鋼船ノ船底内張板及船内船側内張板ノ厚カ三吋ヲ超ユルトキハ之ヲ三吋ト看做シ測ルヘシ

鐵鋼船ノ冷藏艙ニ設タル内張板ニ付テモ前項ニ準シ取扱フヘシ

鐵鋼船ノ船底内張板ノ横木ノ高ハ之ヲ内張板ノ厚ニ算入ス

第十條 木船ノ内張板ノ厚ハ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

木船ノ肋根材上ニ設ケタル横木ノ高ハ内張板ノ厚ニ算入セス

木船ノ梁受板、艙内縦通材及彎曲部縦通材ハ内張板ノ一部ト看做シ船艙ノ幅ヲ側ルヘシ

第十一條 船舶積量測度規程第六條第二項ニ掲ケル船側内張板ノ平均ノ厚ハ内張板又ハ「バツテ」ノ間隔カ一呎以下ナルトキハ其ノ厚ノ平均ヲ、一呎ヲ超ユルトキハ其ノ厚ヲ全心距ニ等布シタルモノヲ採ルヘシ

前項ノ間隔カ三呎ヲ超ユルトキハ内張板ナキモノト看做シ取扱フヘシ

第十二條 内張板ヲ備ヘサル船艙ノ深ハ二重底内底板、肋板又ハ肋根材ノ上面迄、其ノ幅ハ肋骨ノ内面迄測ルヘシ但シ肋骨ノ心距四呎ヲ超ユル木船ノ船艙ノ深又ハ幅ハ外板ノ内面迄測ルヘシ

第十三條 艙内ニ内張板ヲ有シ船首尾艙又ハ機關室等ニ内張板ヲ有セサル船舶ノ船艙ノ深及幅ハ測度スヘキ箇所ノ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

第十四條 分深點カ「ボツス」ノ位置ニ在ル場合ニ於テハ分深點ノ幅ハ「ボツス」ヲ構成スル肋骨ノ内面ヨリ内面迄測ルヘシ

第十五條 肋骨ノ深ニ階段アル船舶ノ船艙ノ幅ハ測度スヘキ箇所ノ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

肋骨一本置キニ肋骨ノ深ヲ異ニスル船舶ノ船艙ノ幅ハ深ノ大ナル肋骨迄測ルヘシ

第十六條 二重底ヲ備ヘサル船舶ノ船底ノ幅ハ肋板又ハ肋根材ニ水平ナル部分アルトキハ該部分ノ幅ヲ採リ、肋板又ハ肋根材カ傾斜スルトキハ内龍骨ノ幅ヲ採ルヘシ

第十七條 二重底内底板カ凸面ナル場合ニ於テハ分長點ノ深ハ中心線ニ於ケル「底板迄ノ深ニ山形ナルトキハ縁板上ヨリ測リタル山形ノ高ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ、蒲鋒形ナルトキハ縁板上ヨリ測リタル蒲鋒形ノ高ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノヲ採ルヘシ

船舶積量測度心得

八一

前項ノ場合ニ於テ最下分深點ノ幅ハ縁板ヨリ縁板ニ至ル水平距離ヲ測ルヘシ
二重底内底板カ船側ニ違スル場合ニ於テハ船側肋骨ヲ内底板ニ固著スル肘板ノ内縁ヲ前二項ノ
縁板ノ位置ト看做ス

第十八條 船舶積量測度規程第五條ノ規定ノ適用ニ當リ中心線内底板ト縁板トノ高ノ差カ六吋未
滿ナルトキ又ハ内底板カ凹面ナルモ彎曲セサルトキハ副分深點ヲ設ケスシテ前條ニ準シ測度ス
ルモ妨ナシ

第十九條 上甲板上蔽圍シタル場所及登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ニシテ其ノ
形狀複雑ナルモノニ在リテハ検査官吏ハ計算上便宜ニシテ且精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合
ニ限り先ツ全容積ヲ測リ之ヨリ算入スヘカラサル部分ノ容積ヲ減シ其ノ場所ノ容積ヲ算定スル
モ妨ナシ

第二十條 船舶積量測度法第三條及第四條ニ掲ケル副汽機トハ蒸汽唧筒及唧筒ト連結シタル汽機
ヲ謂フ

第二十一條 船舶積量測度規程第二十條及第二十一條ニ掲ケル場所ニシテ旅客ニ供用セサルカ爲
總噸數ニ算入セサル場所及船員常用室トシテ登簿噸數ヲ算定スル爲總噸數ヨリ控除シタル場所
ヲ旅客ニ供用スルトキハ移民船検査及臨時旅客検査ノ場合ト雖改測ノ申請ヲ爲サシムヘシ

第二章 量噸甲板下ノ噸數及舷端以下ノ噸數
第二十二條 船舶積量測度規程第十四條ノ規定ヲ適用スルニハ左ノ規定ニ依ルヘシ

- 一 全通二重底ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ下部ニ於ケル二重底ニ一呎以下、機關室ノ下
部以外ノ二重底ニ六吋以下ノ階段アルモ區分測度ヲ爲スニ及ハス
 - 二 車軸隧道端室ニ於テ二重底又ハ普通肋板ニ階段アルモ區分測度ヲ爲スニ及ハス
 - 三 二重底ヲ備フル船舶ニシテ汽鐘室ノ下部ノミニ二重底内底板ヲ張ラサルカ又ハ普通肋板ヲ
有スルトキハ區分測度ヲ爲サスシテ他ノ部分ト同一ノ高ヲ有スル二重底ヲ備フルモノト看
做シ測度スヘシ
 - 四 普通肋板ノミヲ有スル船舶ニシテ機關室ノ下部ニ於ケル肋板ニ高低アルモ區分測度ヲ爲サ
スシテ他ノ部分ト同一ノ高ヲ有スル普通肋板ヲ有スルモノト看做シ測度スヘシ
 - 五 二重底ノ階段カ漸次傾斜スルモノニ在リテハ該傾斜部ハ二重底ノ高ノ低キ部分ト同一區畫
トシテ取扱フヘシ
- 第二十三條 漁船ノ生洲及浚漂船ノ泥艙ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入ス
前項ノ生洲及泥艙ニ付テハ區分測度ヲ爲サスシテ其ノ部分ノ分長點ノ深ハ其ノ前後ニ於ケル二
重底内底板、肋板又ハ肋根材ノ頂面延長面迄測ルヘシ
- 第三章 量噸甲板上ノ噸數及舷端以上ノ噸數
- 第二十四條 船舶積量測度規程第十七條ニ掲ケル甲板間ノ平均ノ高トハ各分長點ニ於テ中心線ヨ
リ船ノ幅ノ約四分ノ一ノ所ニテ測リタル上層甲板ノ下面ヨリ下層甲板ノ上面ニ至ル平均ノ高ノ
平均ヲ謂フ

第二十五條 上甲板上及舷端以上蔽圍シタル場所ニシテ二箇以上ノ室ヨリ成ルモノト雖相連續セ

ル圍壁ヲ有スルトキハ一區畫室トシテ取扱ヒ其ノ長及幅ハ圍壁ノ内面ヨリ内面迄測ルヘシ

第二十六條 船舶積量測度規程第十八條ノ規定ニ依リ後端圓形ナル船尾樓又ハ低船尾樓ノ噸數ヲ

算定スル場合ニ於テハ平均ノ長ハ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船樓ノ前内面ヨリ船尾ノ内面迄

測リタルモノヲ、後端ノ幅ハ船尾端ノ幅ノ代リニ高ノ中央ニ於テ船尾材ノ前面ニテ測リタルモ

ノヲ探ルヘシ

船舶積量測度規程第十七條ノ規定ニ依リ後端圓形ナル甲板間ノ噸數ヲ算定スル場合ニ於テモ亦

前項ニ準シ取扱フヘシ

前二項ノ方法ニ依ルヲ特ニ不適當ナリト認ムルトキハ検査官吏ハ適當ノ方法ニ依リ後端ノ幅ヲ

算定スヘシ

第二十七條 船樓端ニ於テ舷側ニ外板ヲ有スル突出部アルトキハ其ノ容積ハ之ヲ船樓ノ容積ニ加

ヘ其ノ他ノ突出部ハ小ナルモノニ在リテハ其ノ容積ハ之ヲ船樓ノ容積ニ加ヘ大ナルモノニ在リ

テハ之ヲ甲板室ノ一部トシテ取扱フヘシ

第四章 總噸數ニ算入セサル上甲板ノ場所

第二十八條 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及副汽鐘副汽機ニ供用セラルル場所トハ此等ノ機具機

關ニ供用スル爲特ニ設ケタル室又ハ區畫アルトキハ該室又ハ該區畫ヲ、室又ハ區畫ナキトキハ

其ノ實際占有スル場所及検査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所ヲ加ヘタルモノヲ

謂フ

第二十九條 船舶積量測度規程第二十條ニ掲ケル扉ニ準スヘキ常設閉鎖裝置トハ引戸及振止釘又

ハ鉤形止釘ヲ以テ閉鎖シ得ル板戸ヲ謂フ

出入口ノ兩側ニ設ケタル堅溝形材ニ挿板ヲ爲セル裝置ハ之ヲ前項ノ常設閉鎖裝置ト看做サス

船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ出入口一箇ヲ有スルモノト雖該出入口ノ面積カ

特ニ大ニシテ出入口二箇以上ヲ有スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認メ得ヘキ場所ノ取扱ニ付テ

ハ圖面ヲ添ヘ意見ヲ具シ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十條 船舶積量測度規程第二十一條ニ掲ケル適當ノ排水口トハ高約二十吋幅約十五吋ノモノ

トシ甲板間ニ設ケル排水孔ノ間隔ハ約三十呎ニ付各舷一箇ノ割合トス但シ部分隔壁ヲ以テ區分

セララルル場合ニ於テハ該區分毎ニ各舷一箇以上ノ排水孔ヲ設クヘキモノトス

船舶積量測度規程第二十條ニ掲ケル排水口ノ寸法及排水孔ノ間隔ニ付テモ亦前項ニ準ス

第三十一條 厨室トハ「ガレト」ス「カレリ」及流シ場ヲ謂フ

第三十二條 上甲板以上ニ在ル出入口ノミニ供用セラルル場所ハ之ヲ出入口室ノ一部ト看做シ其

ノ噸數ヲ總噸數ニ算入セス

第三十三條 船舶積量測度規程第二十三條ニ掲ケル艙口ノ噸數トハ暴露甲板ニ在ル艙口及載炭口

ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

圍壁艙口ニ非サル艙口又ハ載炭口ノ徑、長又ハ幅三呎以下ナルトキハ其ノ噸數ハ之ヲ前項ノ艙

船舶積量測度心得

八五

口ノ噸數ニ算入セス

圍壁艙口ノ噸數ハ暴露甲板以上ニ在ルモノハ之ヲ艙口ノ噸數ニ算入ス

遮浪甲板下又ハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル船樓下ノ上甲板ハ前二項ニ掲クル暴露甲板ト看做ス

艙口ノ一部ニ出入口室ヲ假設スルトキハ該出入口室ナキモノト看做シ艙口ノ噸數ヲ算定ス

第三十四條 上甲板上ニ在ル採光通風ニ要スル場所ノ噸數トハ天窗、其ノ圍壁内及通風圍壁内ノ噸數ヲ謂フ

「カウル」「マツシユルーム」「グースネツク」其ノ他專賣式ノ頭部ヲ有スル通風管ニシテ蔽圍シタル場所ニ在ル部分ノ噸數ハ之ヲ該場所ノ噸數ニ算入ス

第三十五條 大型旅客船ニ在リテハ上甲板以上ニ於テ食堂上ノ「ドーム」ト食堂直上ノ甲板トノ間ニ中間ノ場所アルトキハ圍壁ナキモノト雖圍壁アルモノト看做シテ其ノ噸數ヲ算定シ之ヲ採光通風ニ要スル場所ノ噸數ニ算入スヘシ

第三十六條 浴室ト便所トヲ同室内ニ設ケタルトキハ便所トシテ要スル場所ノ噸數ノミヲ便所ノ噸數トシテ算定スヘシ

第三十七條 操舵室ト海圖室トヲ同室内ニ設ケタルトキハ操舵ノ爲要スル場所ノ噸數ノミヲ操舵室ノ噸數トシテ算定スヘシ

第五章 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ノ噸數

第三十八條 船員常用室ノ噸數ハ各室毎ニ内法寸法ヲ測リ算定スヘシ

第三十九條 海員ノ事務室並水先人、郵便官吏、稅關官吏、檢疫官吏、買辦、漁船ニ於テ漁獵ノミニ從事スル者、理髮人及海員ニ非スシテ船中ニ於テ職務ヲ行フ者ニ供用セラルル諸室ノ噸數ハ之ヲ船員常用室ノ噸數ニ算入セス

船員及旅客ニ供用スル場所ノ噸數ハ之ヲ船員常用室ノ噸數ニ算入セス但シ旅客船ニ非サル船舶又ハ臨時旅客ヲ搭載シタル爲旅客船ト爲リタル船舶ニ於テ船員及旅客ニ併用スル場所ノ噸數並旅客船ニ臨時旅客ヲ搭載シタル場合ニ於テ船員及臨時旅客ニ併用スル場所ノ噸數ハ之ヲ船員常用室ノ噸數ニ算入ス

第四十條 船首尾水艙ハ淡水艙ノミニ用キラルル場合ト雖モ之ヲ荷足水艙ト看做ス

第四十一條 船舶積量測度規程第二十九條ノ規定ニ依リ船首尾水艙ノ噸數ヲ算定スル場合ニ於テ各分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第四十二條 機關室カニ室以上アル場合ニ於ケル各室間ノ通路機關室又ハ車軸隧道ヨリ上甲板ニ至ル通路ノ噸數ハ之ヲ機關室ノ噸數ニ算入ス

第四十三條 船舶積量測度法第四條ニ掲クル主唧筒トハ塗水排出ニ供用セラルル蒸汽唧筒ヲ謂フ

第四十四條 主機關ト連結シタル副汽罐ニ供用セラルル場所ノ噸數ハ之ヲ機關室ノ噸數トシテ取扱フヘシ

第四十五條 船舶積量測度規程第三十三條ニ掲クル機關室内ニ於ケル船舶ノ推進ニ關係ナキ場所トハ該室内ニ於テ主機關ト連結セサル副汽罐、發電機、製水機、倉庫、工作場、操舵機、消防

船舶積量測度心得

八七

消毒用瓦斯發生機、飲料水蒸溜機、船内風機ニ供用セラルル場所又ハ特ニ構成シタル豫備螺旋軸置場ニシテ區畫アルトキハ該區畫ヲ、區畫ナキトキハ其ノ實際占有スル場所及檢査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所ヲ加ヘタルモノヲ謂フ淺深船其ノ他特殊ノ船舶ニ於テ特殊ノ目的ニ供用セラルル機械ヲ据付ケタル場合亦同シ

第四十六條 石炭庫及燃料油庫ノ噸數ハ機關室ノ噸數ニ算入スヘカラス

第四十七條 船舶積量測度規程第三十四條ノ場合ニ於テ船舶所有者ヨリ申請アリタルトキハ檢査官吏ハ意見ヲ具シ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

第六章 積石數

第四十八條 石數船ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル船艙室ノ境界ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底ノ長ハ船首ニ在リテハ船首室ノ境界カ内軸ト船底トノ交叉部ヨリ後方ニ在ルトキハ該交叉部ヨリ船首室ノ境界カ該交叉部ヨリ前方ニ在ルトキハ實際ノ境界ヨリ測リ船尾ニ在リテハ船尾戸建ト航ノ交叉部ヨリ測ルヘシ

第四十九條 石數船ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ハ加敷ヲ有スル船舶ニ在リテハ加敷ト外板トノ接合部ヨリ、加敷ヲ有セサル船舶ニ在リテハ航ト外板トノ接合部ヨリ測ルヘシ

第五十條 回漕船ノ船梁下ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ノ上下及中間等分點ニ於ケル平均ノ幅トハ上下及三箇所ノ中間等分點ニテ測リタル幅ノ平均ヲ謂フ
回漕船以外ノ船舶ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ノ上下及中間等分點ニ於ケル平均ノ幅ハ船ノ大小ニ應シ四箇所若ハ五箇所ニテ測リタル幅ノ平均ヲ謂フ

○船舶積量測度圖解

大正三年八月十二日決定

目次

- 第一圖其ノ一 甲板ノ層數及量噸甲板(測度法第二條心得第五條)
- 第一圖其ノ二 甲板ノ層數及量噸甲板(測度法第二條心得第五條)
- 第二圖其ノ一 量噸甲板ノ長(規程第二條)
- 第二圖其ノ二 量噸甲板ノ長(規程第二條)
- 第三圖 噸數木船ノ量噸甲板ノ長(心得第七條第三號及第四號)
- 第四圖 分長點及分長點ノ深(規程第三條及第四條)
- 第五圖 船首尾艙ニ於ケル分長點ノ深(心得第八條)
- 第六圖 船側内張板又ハ「バツテン」ノ規程ノ厚(心得第九條第二項心得第十一條第一項)
- 第七圖 鐵鋼船ノ船底内張板下ニ横木アル場合ノ内張板ノ規定ノ厚(心得第九條第三項)
- 第八圖 二重底内底板カ凸面ナル場合ノ分長點ノ深及最下分深點ノ幅(規程第四條第二號心得第十七條第一項及第二項)
- 第九圖 二重底内底板カ凹面ナル場合ノ分深點及副分深點(規程第五條)
- 第十圖 二重底内底板カ船側ニ達スル場合ニ於ケル最下分深點ノ幅(心得第十七條第三項)
- 第十一圖 二重底内底板カ凹面ニシテ彎曲セサル場合及彎曲セルモ中心線内底板ト縁板トノ

船舶積量測度圖解

第十二圖

高ノ差カ六吋未滿ナル場合ノ分長點ノ深(心得第十八條)
木船分深點ノ幅(心得第十條)

第十三圖

分深點カ「ボツス」ノ位置ニ在ル場合ノ分深點ノ幅(心得第十四條)

第十四圖

遮浪甲板ヲ有スル船舶(規程第七條及第二十一條心得第三十條)

第十五圖

形狀正整ナル場所ノ噸數ノ算定(規程第九條)

第十六圖

二重底内底板又ハ肋板ノ高ニ階段アル船舶ノ噸量甲板下ノ噸數ヲ算定スル場合ノ

第十七圖

區分測度(規程第十四條心得第二十二條第一號及第五號)

第十八圖

鋤鏈溝ヲ有スル淺濶船ノ量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スル場合ノ區分測度(規程第十

第十九圖

五條)
分長點ニ於ケル甲板間ノ平均ノ高(規程第十七條心得第二十四條)

第二十圖

後端圓形ナル船尾樓及低船尾樓ノ平均ノ長及後端ノ幅(心得第二十六條第一項)

第二十一圖

上甲板ノ機關室ノ一部(規程第十九條)
甲板ノ延長面ニ依リ區畫サレタル機關室ノ部分(規程第十九條第三項)

第二十二圖

扉ニ準スル常設閉鎖裝置(規程第二十條心得第二十九條第一項及第二項)

第二十三圖

出入口ニ常設閉鎖裝置ヲ供ヘサルモ船樓甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ

第二十四圖其ノ一

旅客ニ供用スルトキハ其ノ噸數ヲ總噸數ニ算入スル場合(規程第二十條關係)

第二十四圖其ノ二

上甲板以上ニ在ル出入口室及出入口ニノミ供用セラルル場所トシテ總噸數

第二十四圖其ノ三

ニ算入セサルモノ(測度法第三條心得第三十二條)

第二十四圖其ノ四

上甲板以上ニ在ル出入口室及出入口ニノミ供用セラルル場所トシテ總噸數

第二十五圖

ニ算入セサルモノ(測度法第三條心得第三十二條)

第二十六圖

圍壁艙口内ノ場所ニシテ艙口噸數ニ算入スヘキモノ(心得第三十三條第三項及第

第二十七圖

四項)
食堂上ノ「ドーム」食堂直上ノ甲板トノ間ニ在ル中間ノ場所ニシテ採光通風ニ要ス

第二十八圖

ルモノトシテ總噸數ニ算入セサル場所(心得第三十五條)

第二十九圖

浴室ト便所トヲ同室内ニ設ケタル場合ニ於テ便所ニノミ要スル場合トシテ總噸數

第三十圖

ニ算入セサルモノ(心得第三十六條)

第三十一圖

海圖室ト操舵室トヲ同室内ニ設ケタル場合ニ於テ操舵ニノミ要スル場所トシテ總

第三十二圖

噸數ニ算入セサルモノ(心得第三十七條)

第三十三圖

機關室ノ冠頂下ノ場所、冠頂ト上甲板トノ間ノ場所及上甲板上ノ場所(規程第三

第三十四圖

十一條)

第三十五圖

十一條)

第三十六圖

十一條)

第三十七圖

十一條)

第三十八圖

十一條)

第三十九圖

十一條)

第四十圖

十一條)

第四十一圖

十一條)

第四十二圖

十一條)

第四十三圖

十一條)

第四十四圖

十一條)

第四十五圖

十一條)

第四十六圖

十一條)

第四十七圖

十一條)

第四十八圖

十一條)

第四十九圖

十一條)

第五十圖

十一條)

第五十一圖

十一條)

第五十二圖

十一條)

第五十三圖

十一條)

第五十四圖

十一條)

第三十圖

機關室内ニ於テ推進ニ關係ナキ場所トシテ機關室ヨリ控除スヘキモノ (規程第三十三條心得第四十五條)

第三十一圖

石數船ノ船首室ノ境界ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底ノ長 (規程第三十八條第二項心得第四十八條)

第三十二圖

回漕船ノ船梁下ノ船艙ノ石數ノ算定 (規程第三十八條第二項心得第五十條)

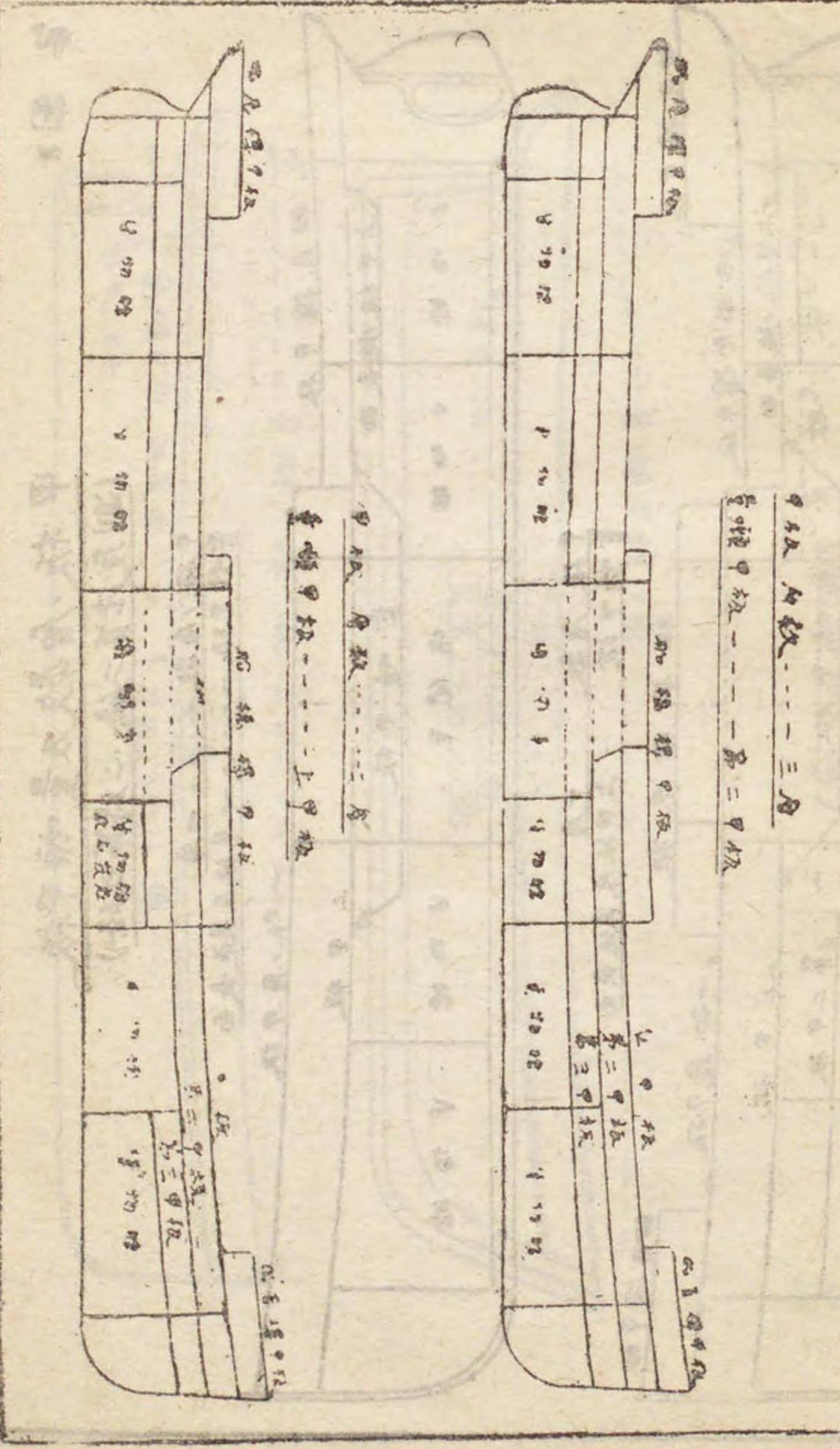
第三十三圖

石數船ノ船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長

第二十六圖
第二十七圖
第二十八圖
第二十九圖
第三十圖
第三十一圖
第三十二圖
第三十三圖

第一圖

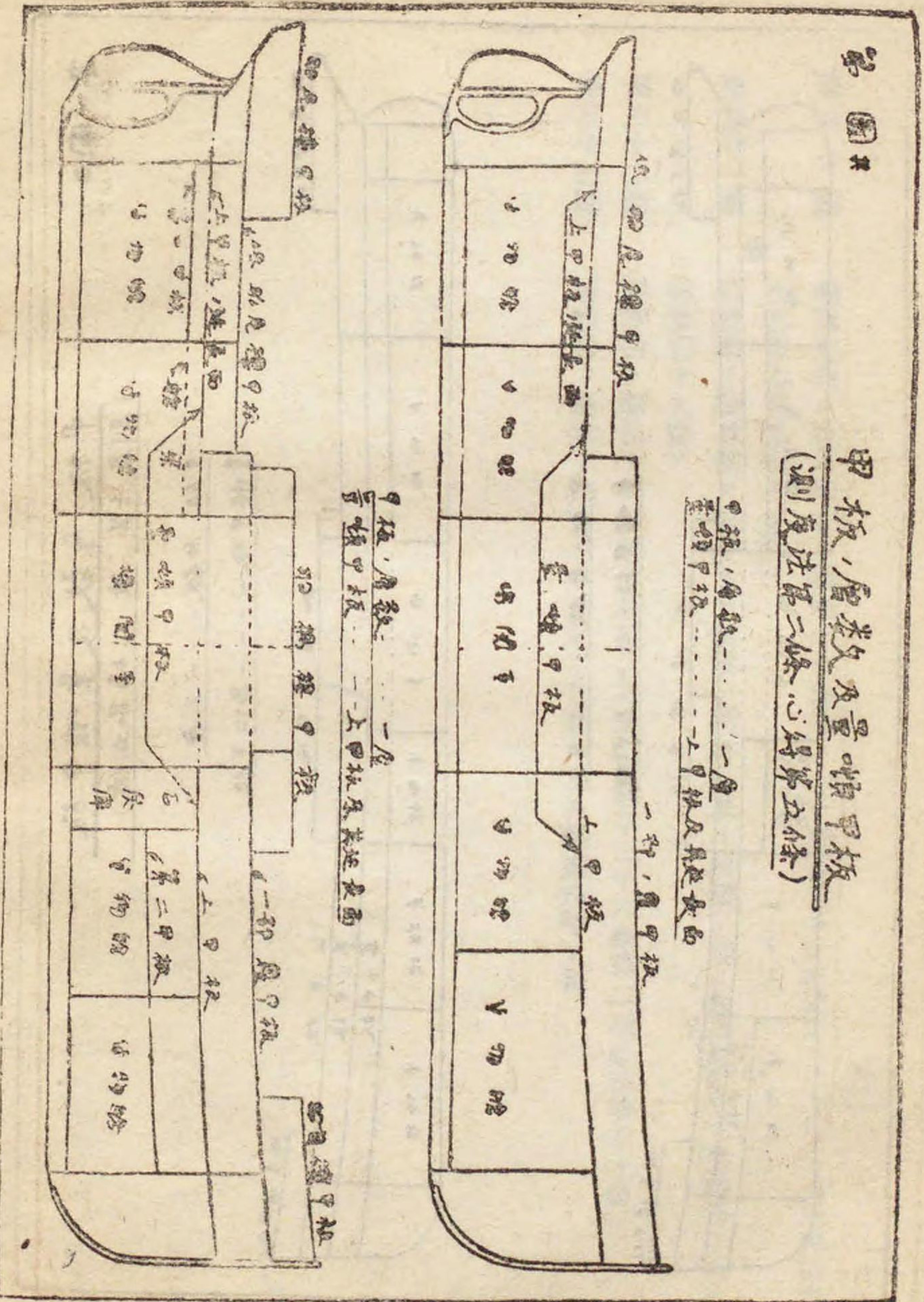
甲板層數及量噸甲板 (測度法第一條之得五條)



第 圖 共

甲板、層數及量噴甲板

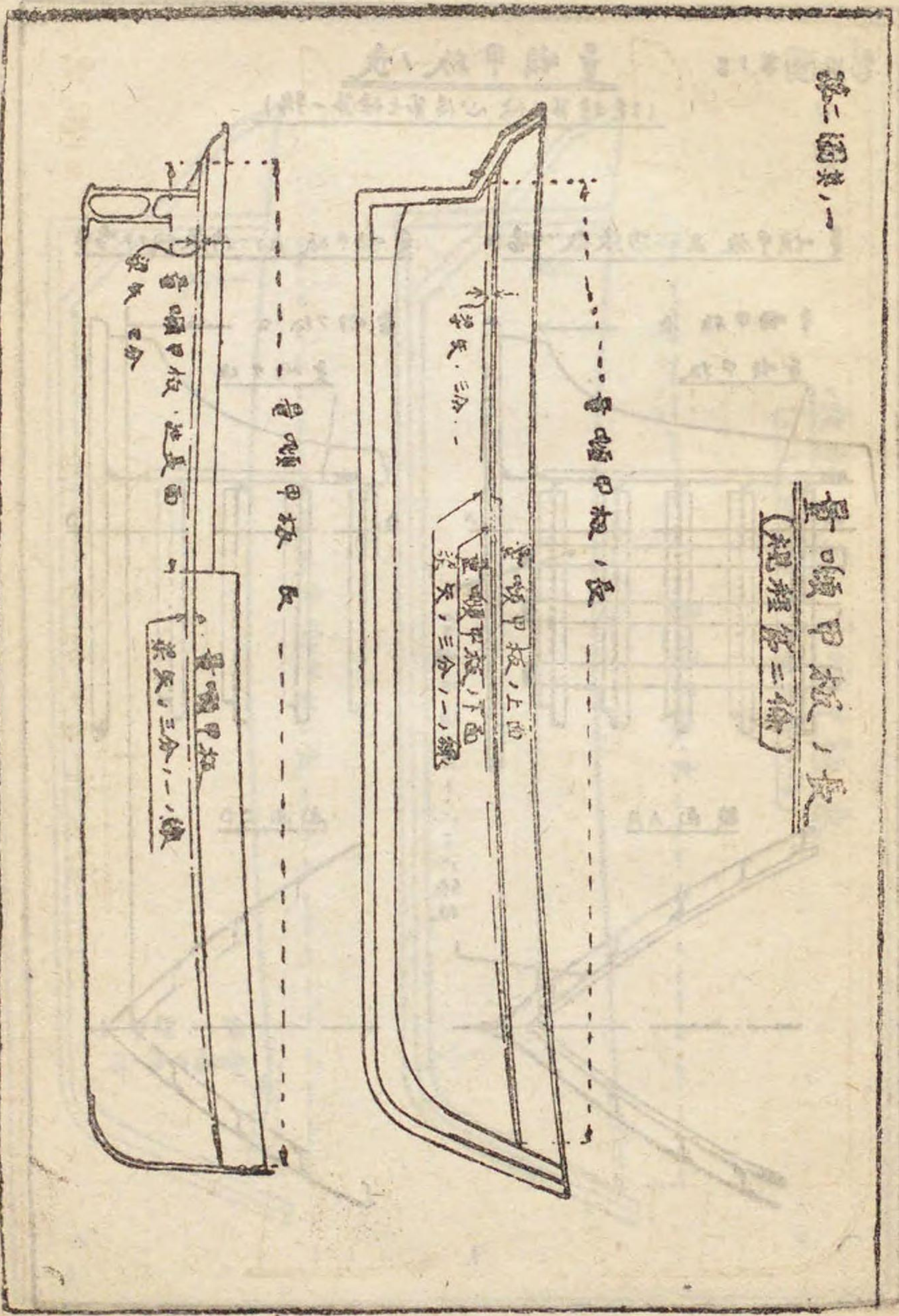
(測度法第二條、心得第五條)

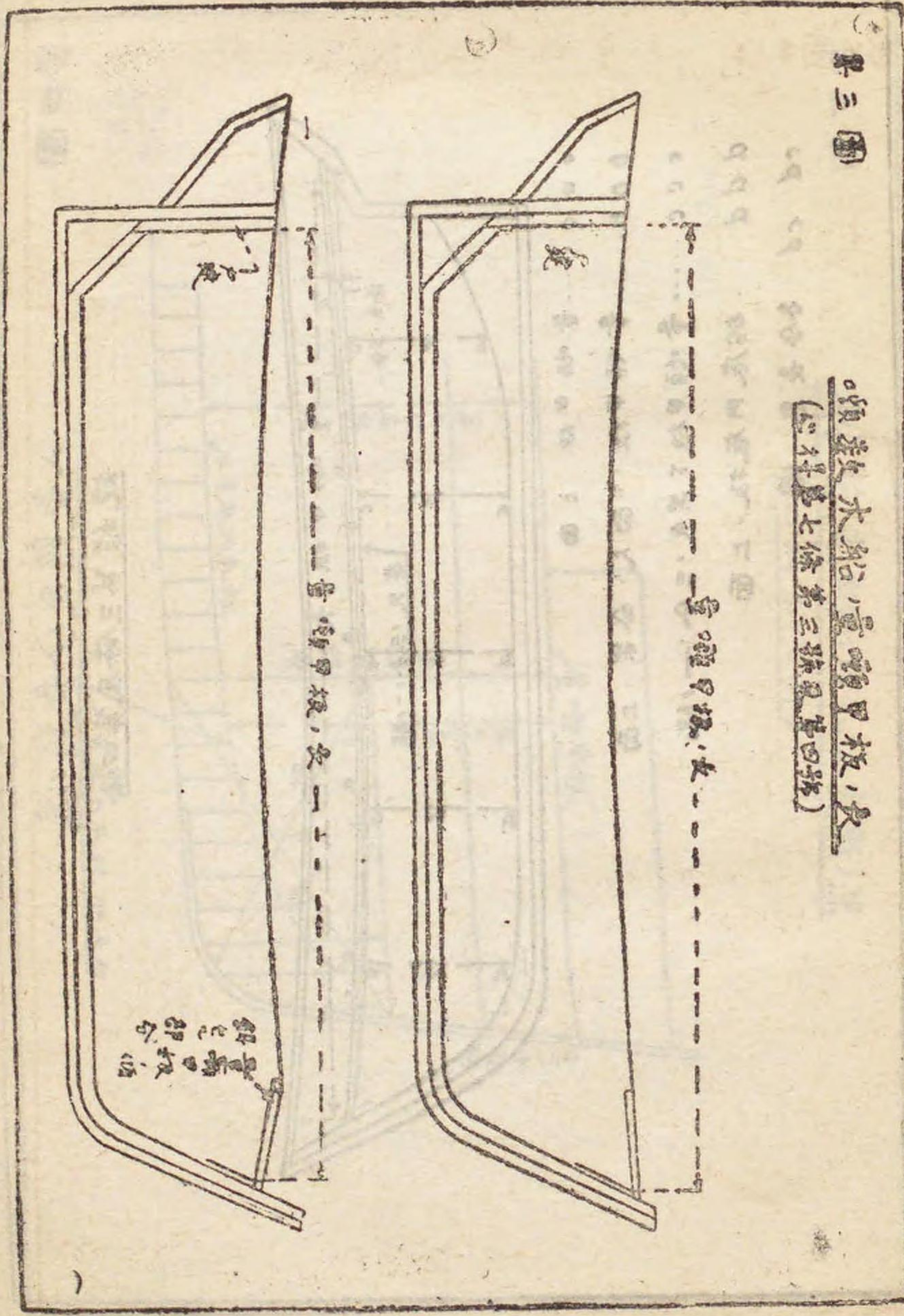


第 圖 共 一

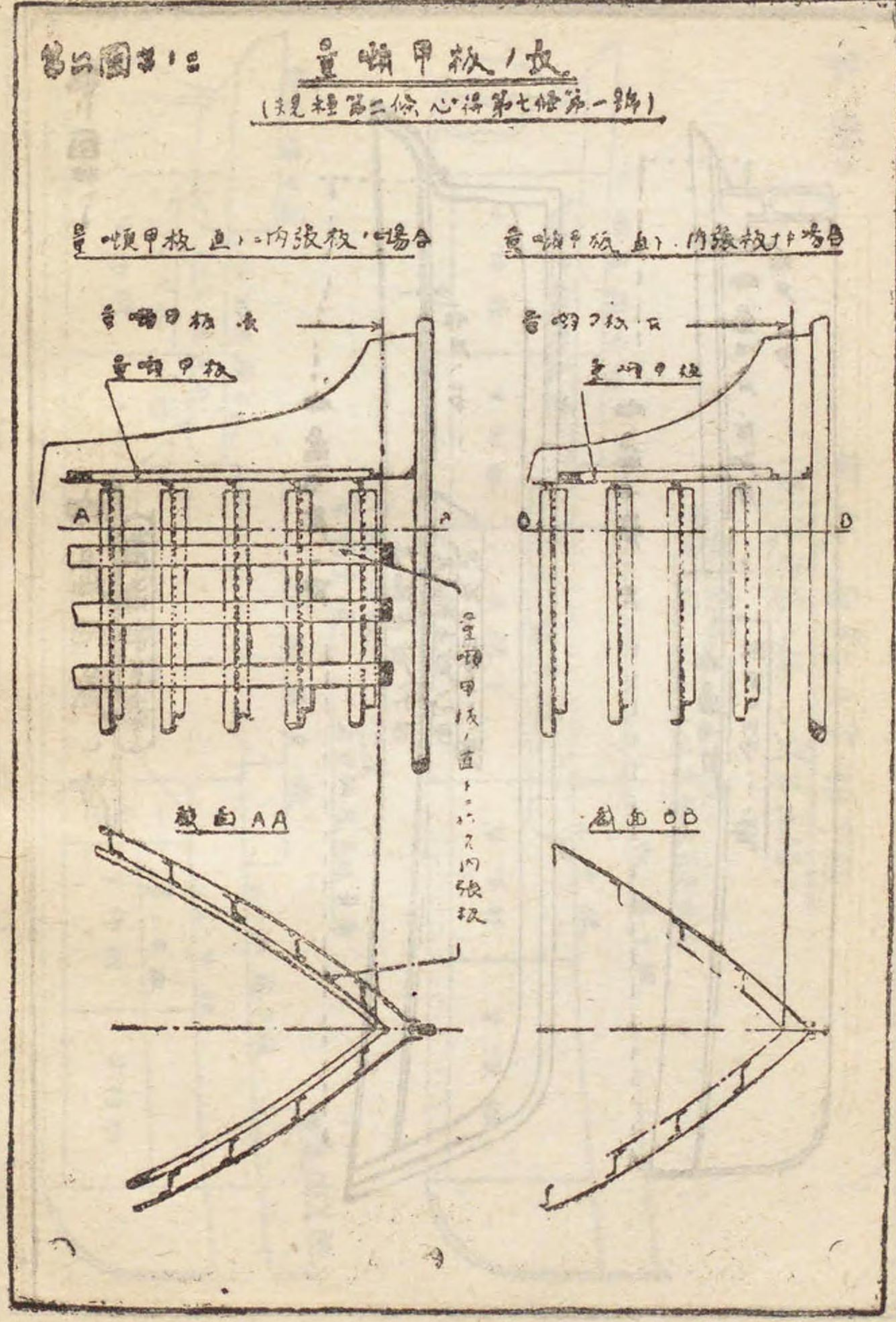
量噴甲板, 長

(規程第二條)





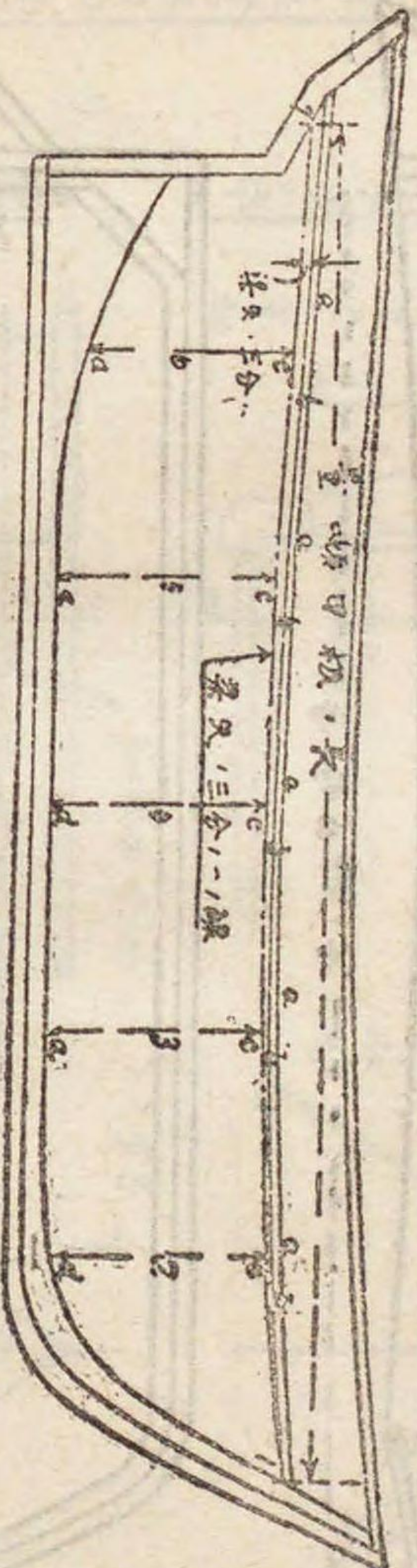
噸數大船量噸甲板(女)
(心桿第七條第三條第四條)



量噸甲板(直)
(規程第二條 心得第七條第一節)

第四圖

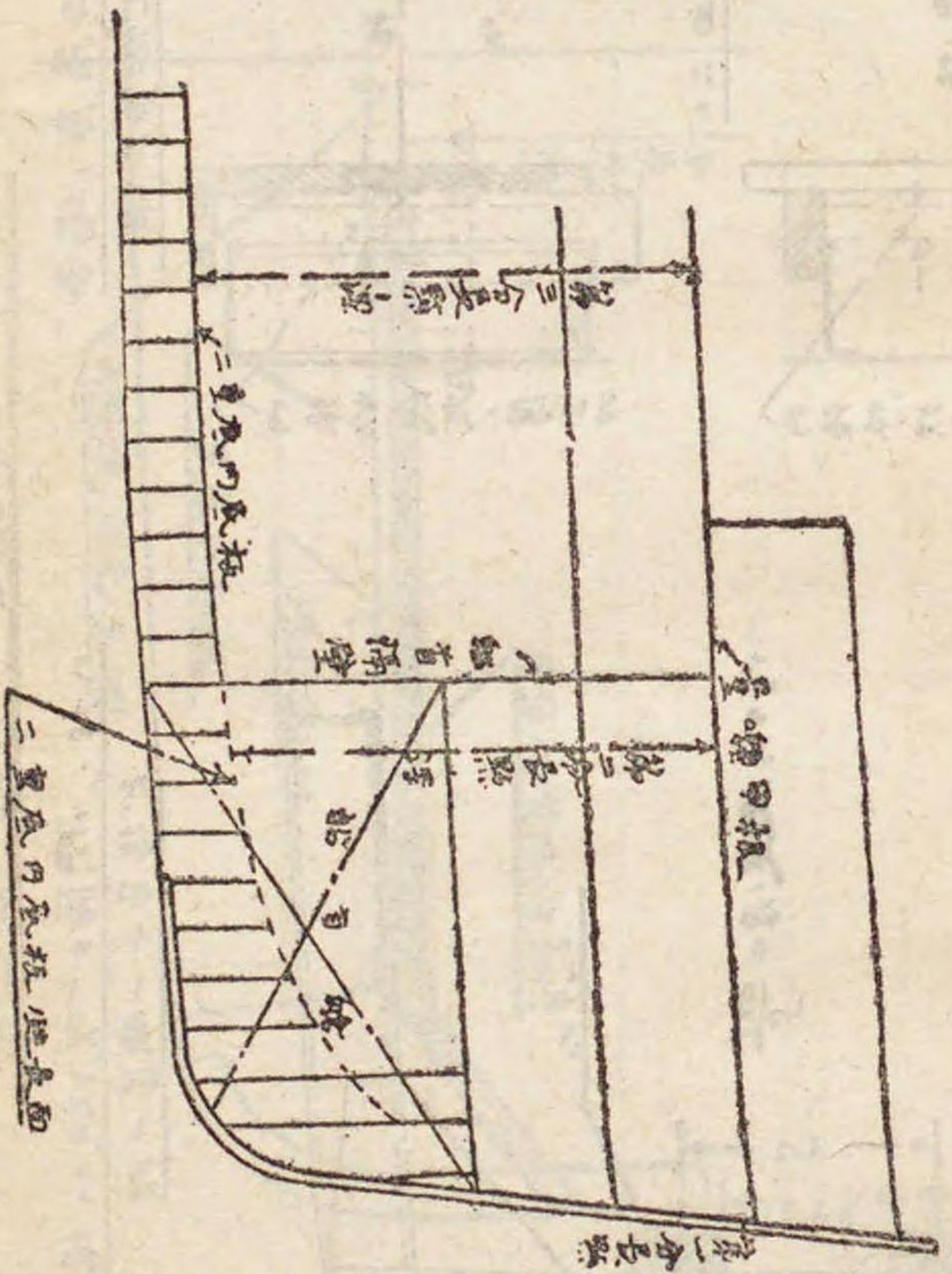
八長點及分長點
規程第二條及第四條



ooo... 量甲板上 上面
 oob... 量甲板上 下面
 eee... 量甲板下 量及三合二線
 ddd... 量甲板內底板上 上面
 cd cd 各分長點

第五圖

船首尾船於分長點
(心得第八條)

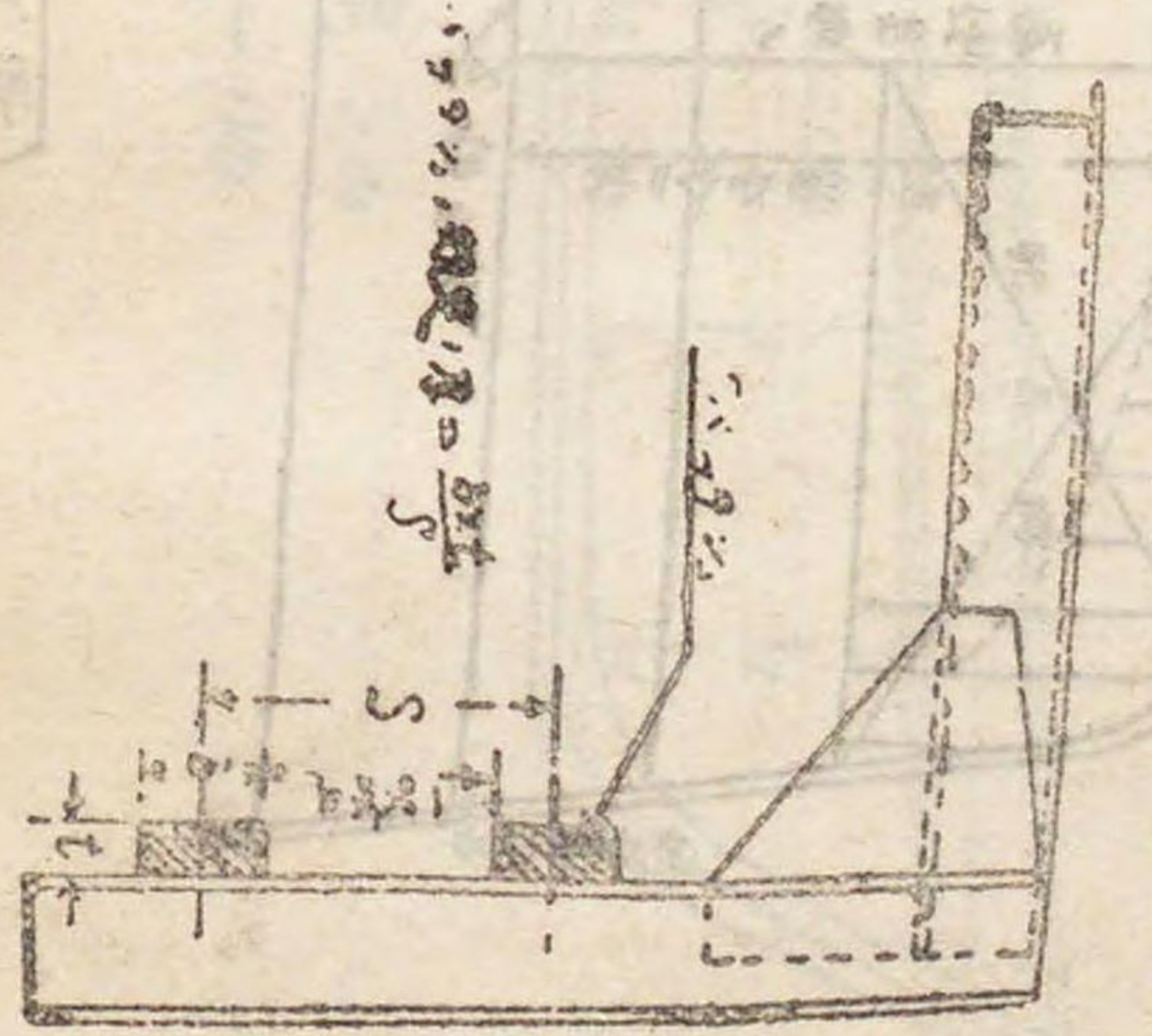
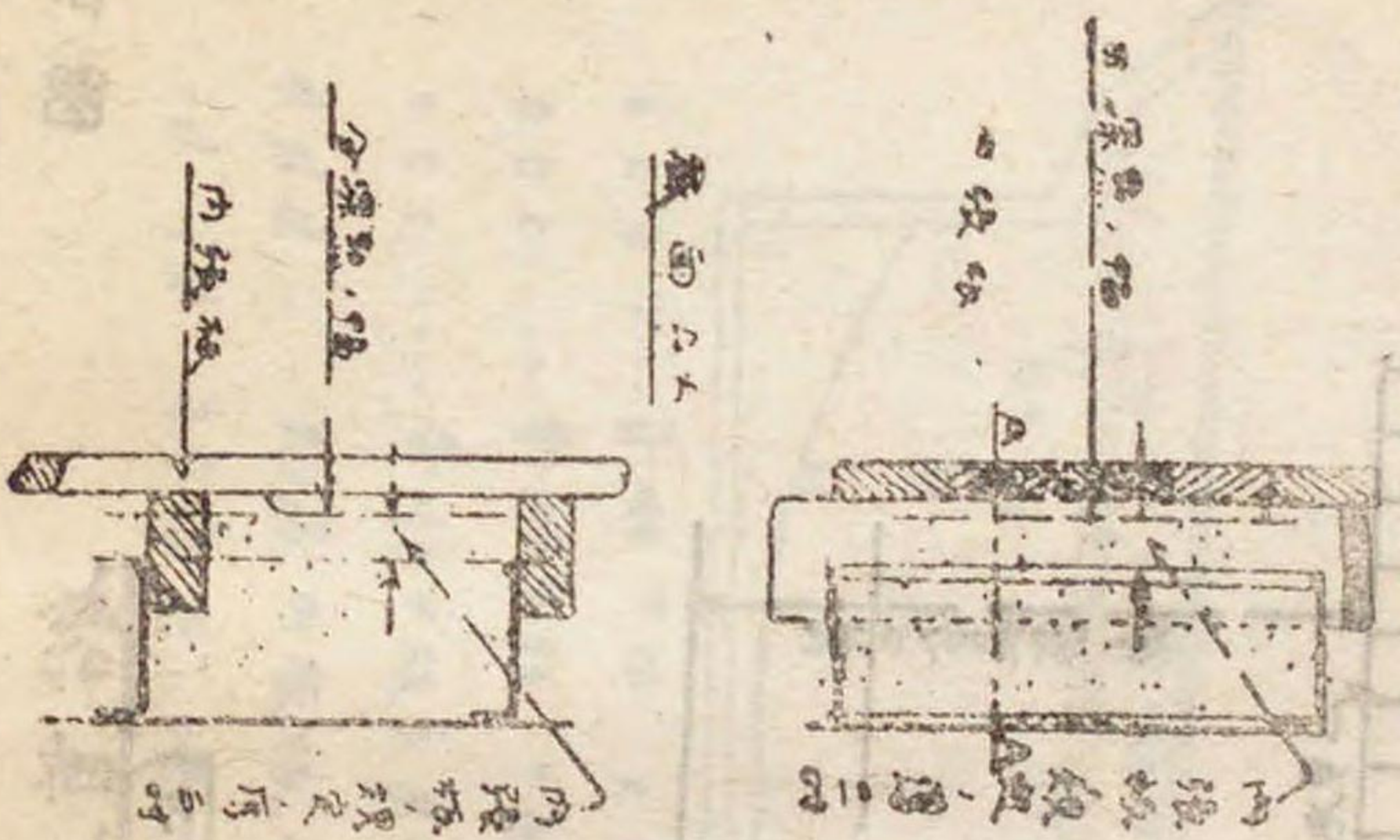


第六圖

船側内張板又ハバツテノ規定ノ厚

鐵鋼船ノ内張板ノ場合
心得第九條第二項

ハバツテノ間隔カ一呎ノ場合
心得第十一條第一項



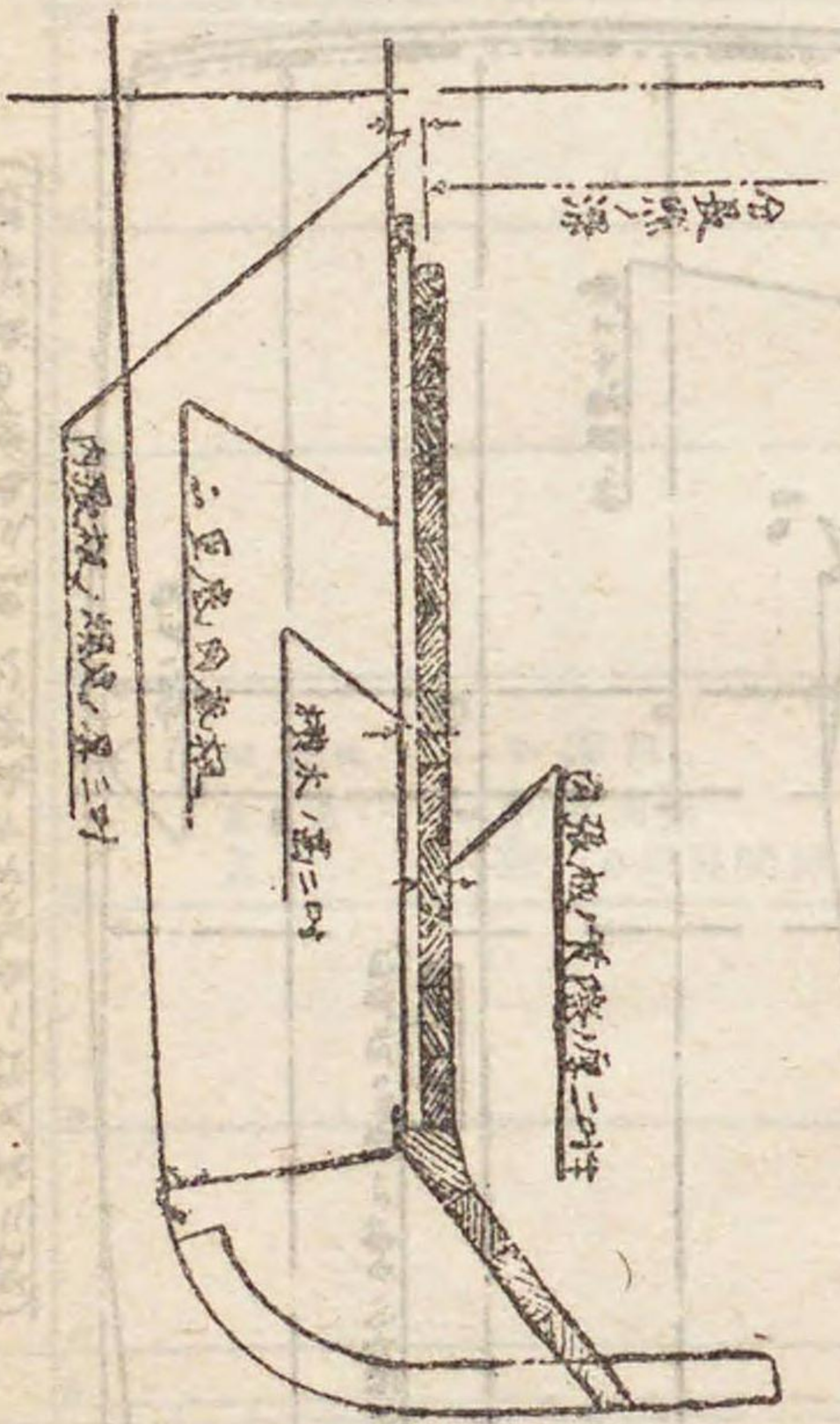
鐵鋼船

ハバツテノ間隔ノ規定

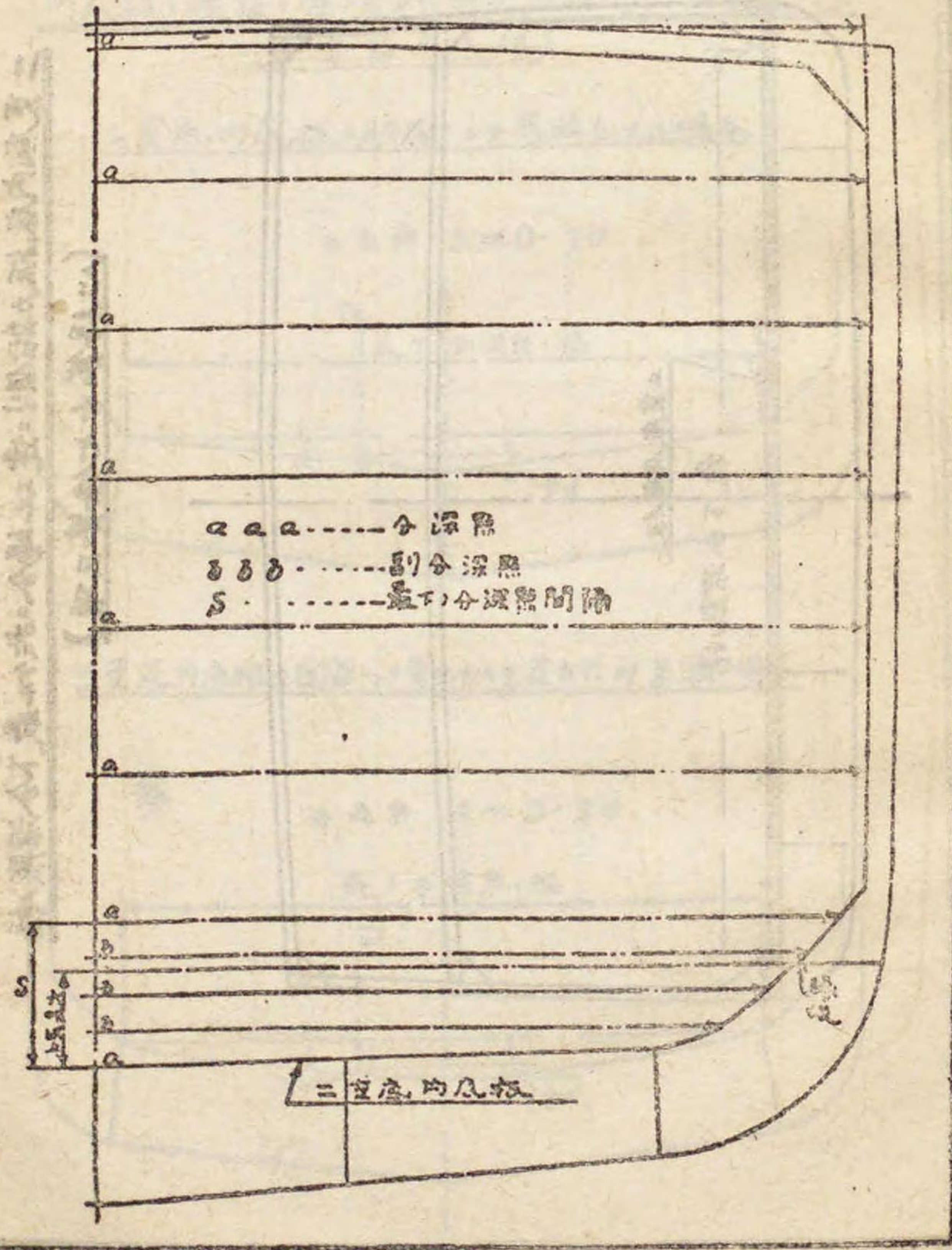
第七圖

鐵鋼船ノ内張板下ニ横木ノ場合ノ内張板ノ規定ノ厚

(心得第九條第三項)

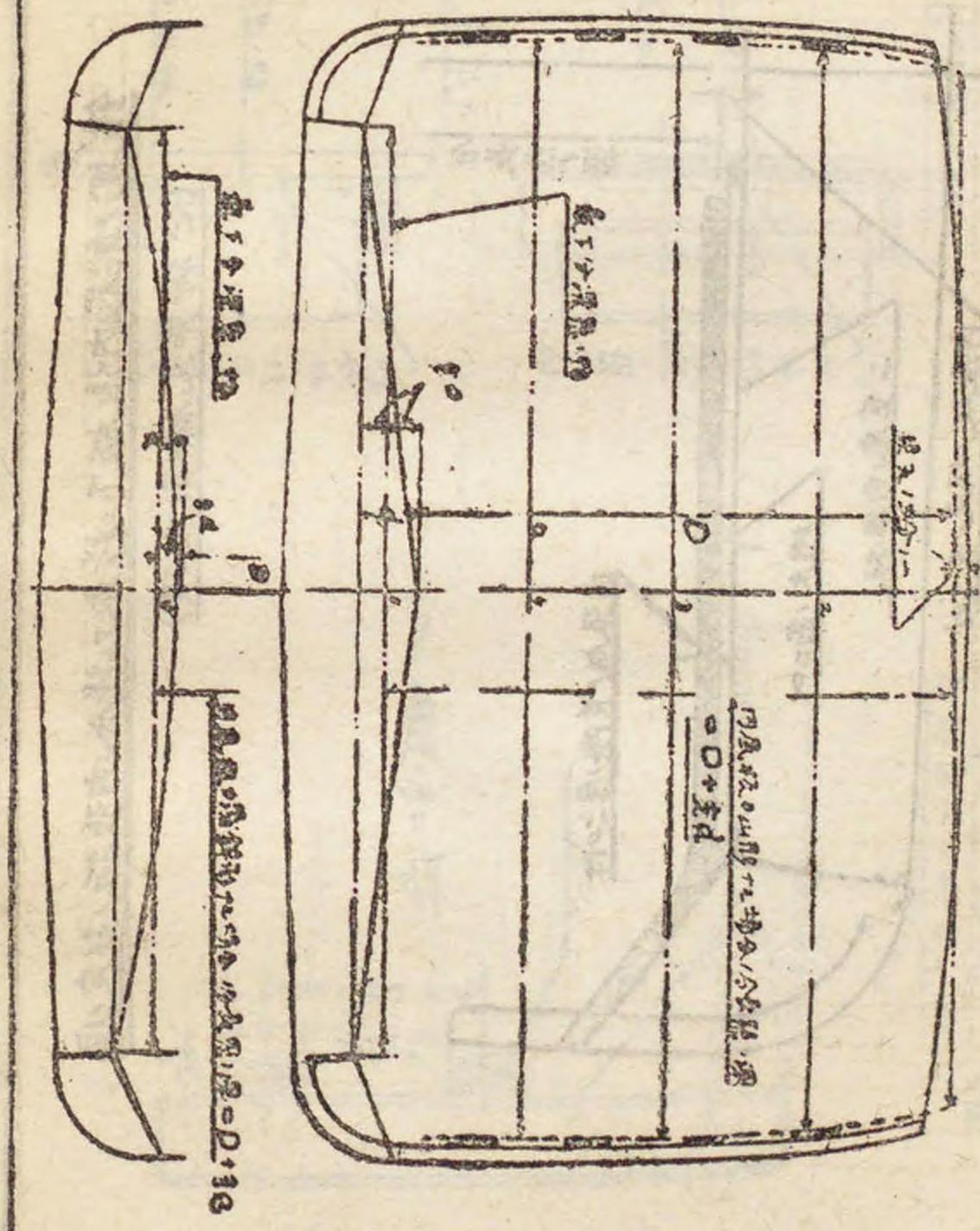


第九圖 二重底內底板凸面坑場各分深點及剖合深點
(規程第五條)



第八圖

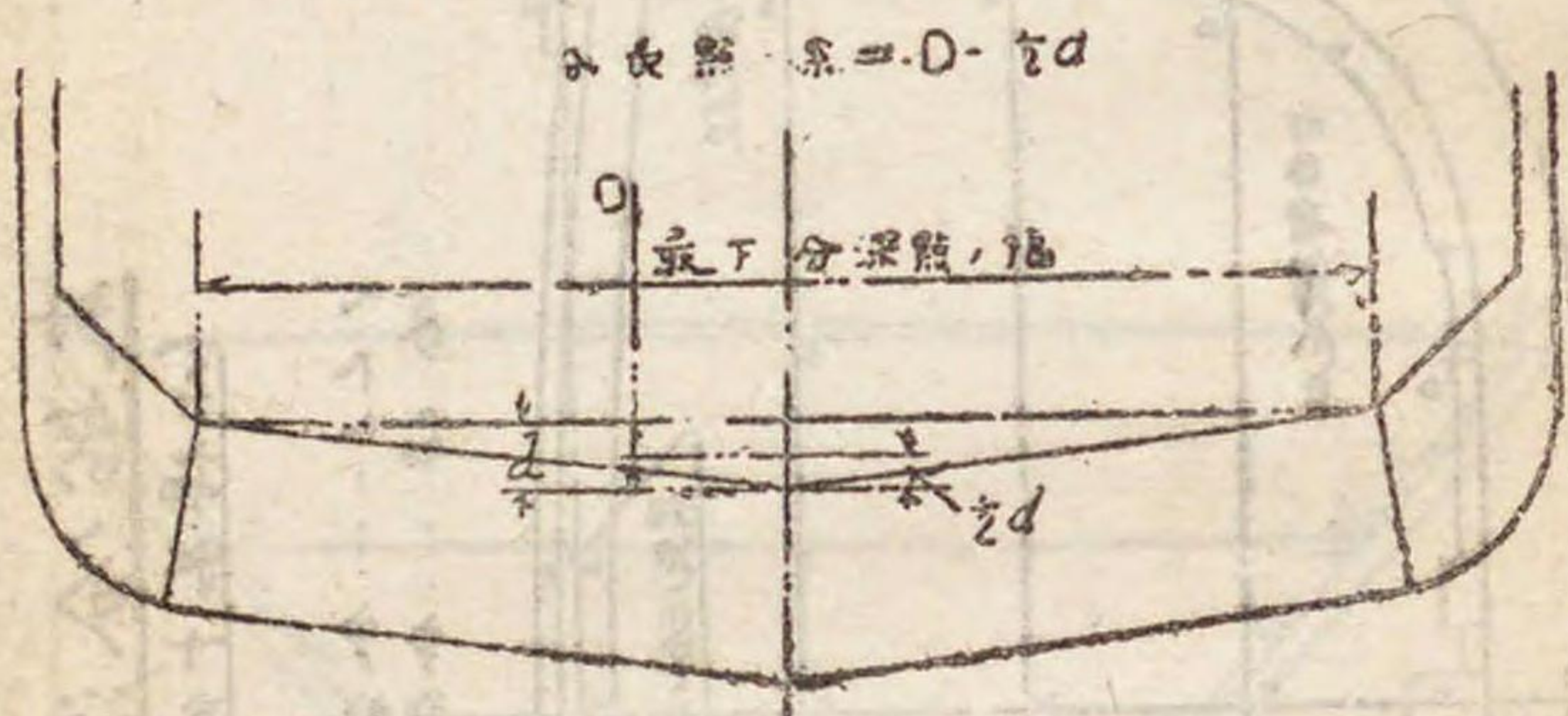
二重底內底板凸面坑場各分長點及最下分深點
(規程第四條第二項 心轉第十七條第一項及第二項)



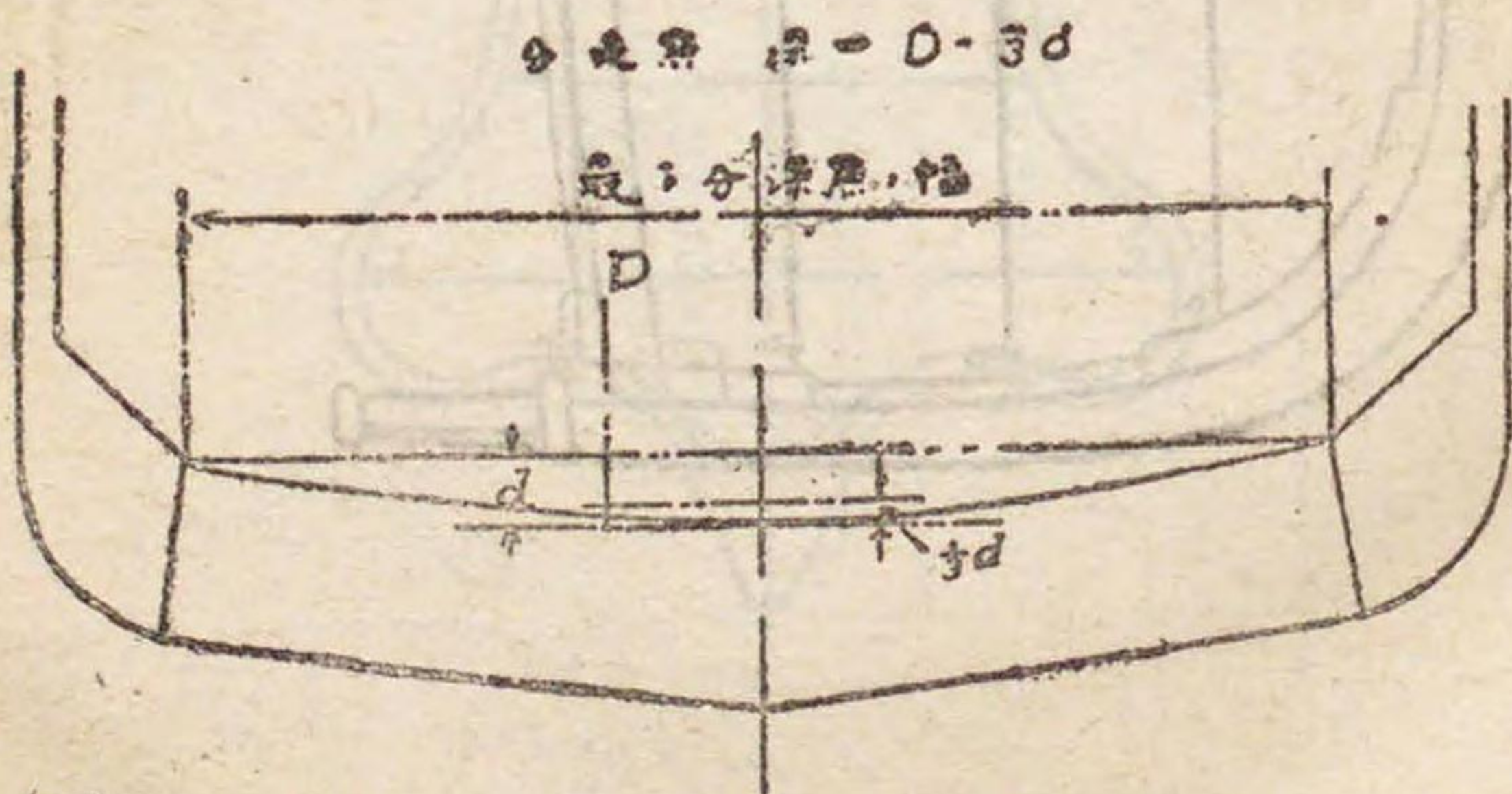
第十一圖

二重底内底板の凹面、シ彎曲せしめ場合及彎曲中心線
内底板、縁板、高さ不同时未滿の場合、分度點、深
(心得第十八條)

二重底内底板の凹面、シ彎曲せしめ場合

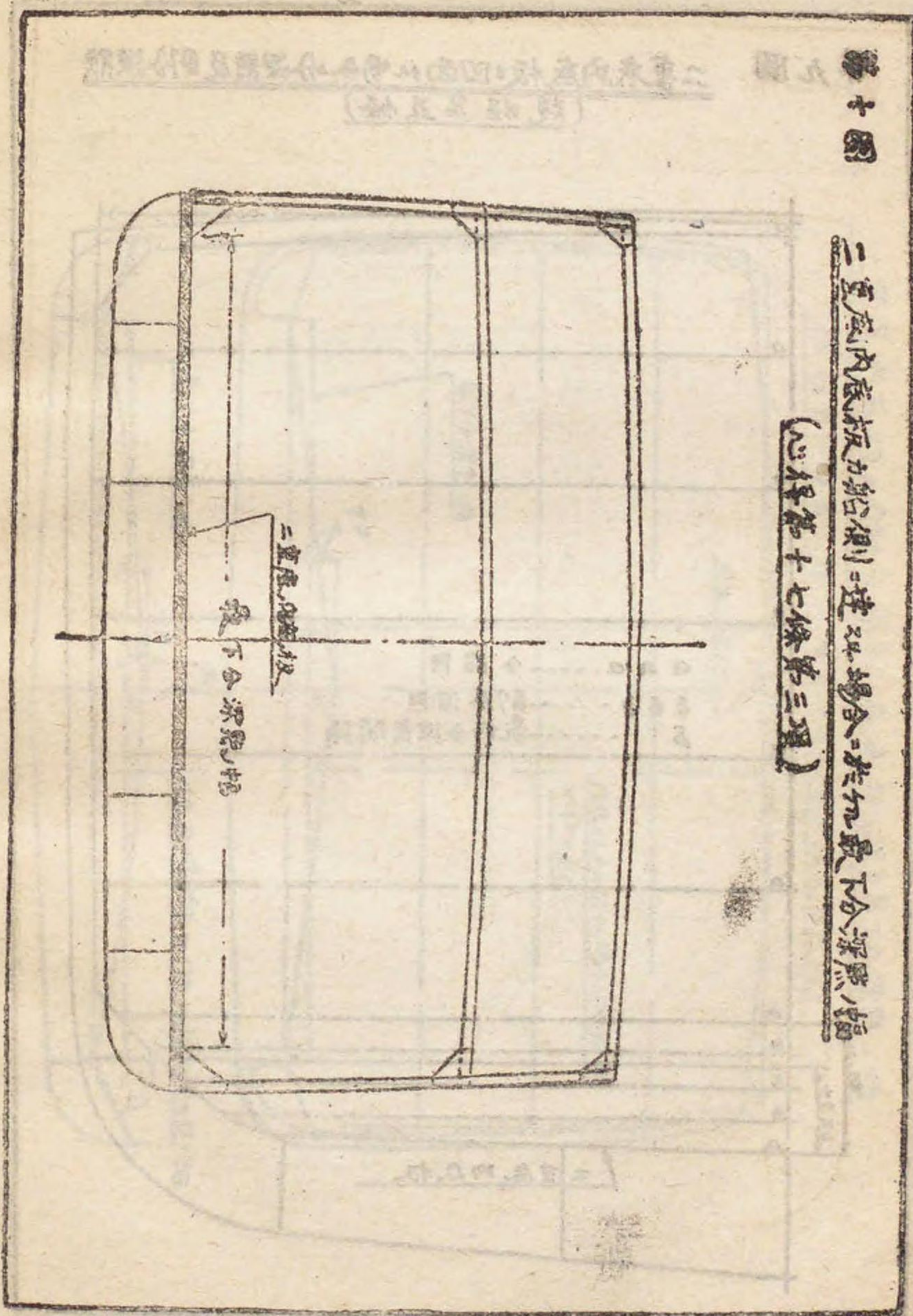


二重底内底板の凹面、シ彎曲せしめ高さ不同时未滿の場合



第十圖

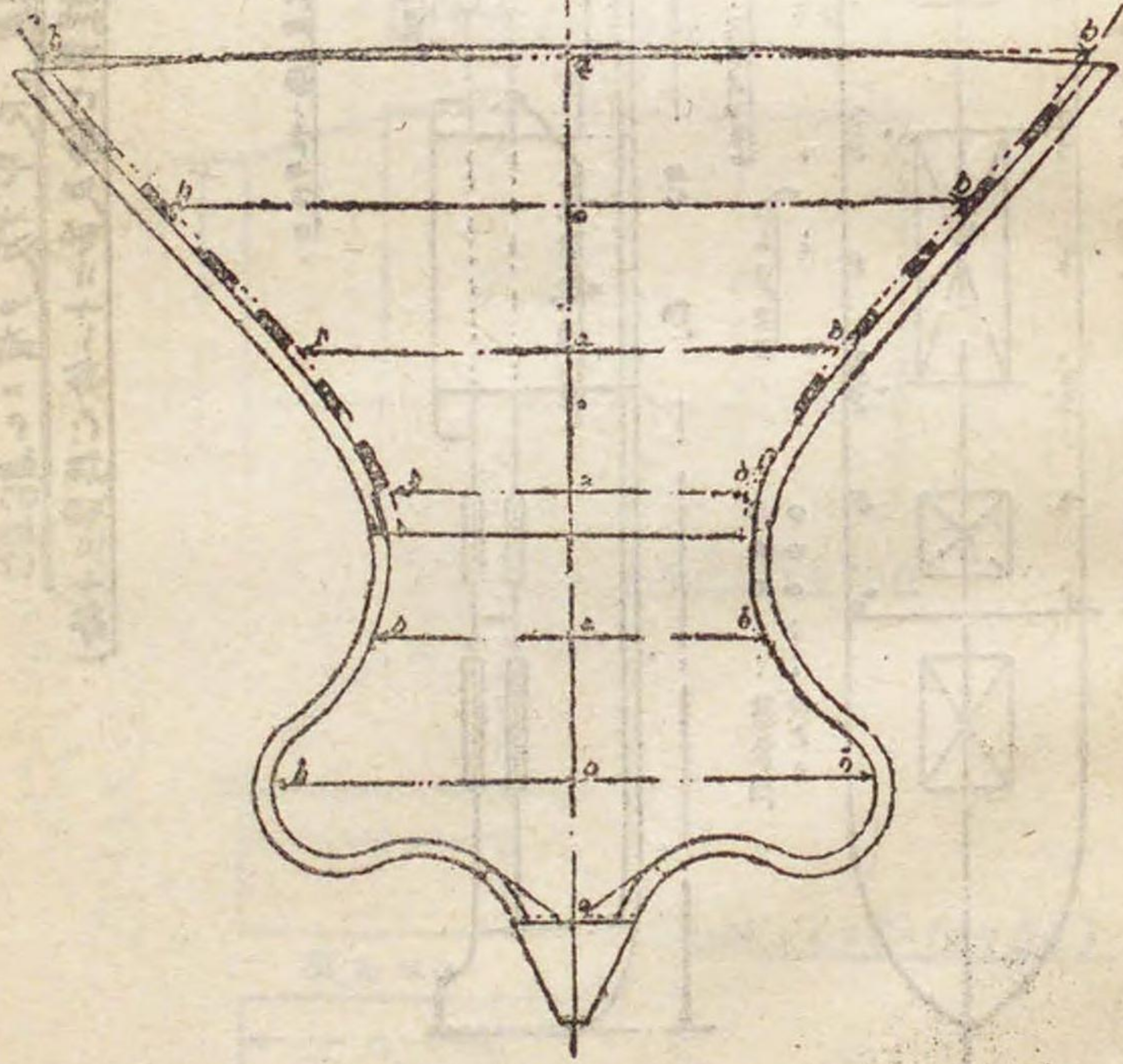
二重底内底板の船側、シ彎曲せしめ場合、分度點、最下分度點、幅
(心得第十七條第三項)



第十三圖

分深點、木、石、位置、在、時、合、分深點、幅
(心得第十四條)

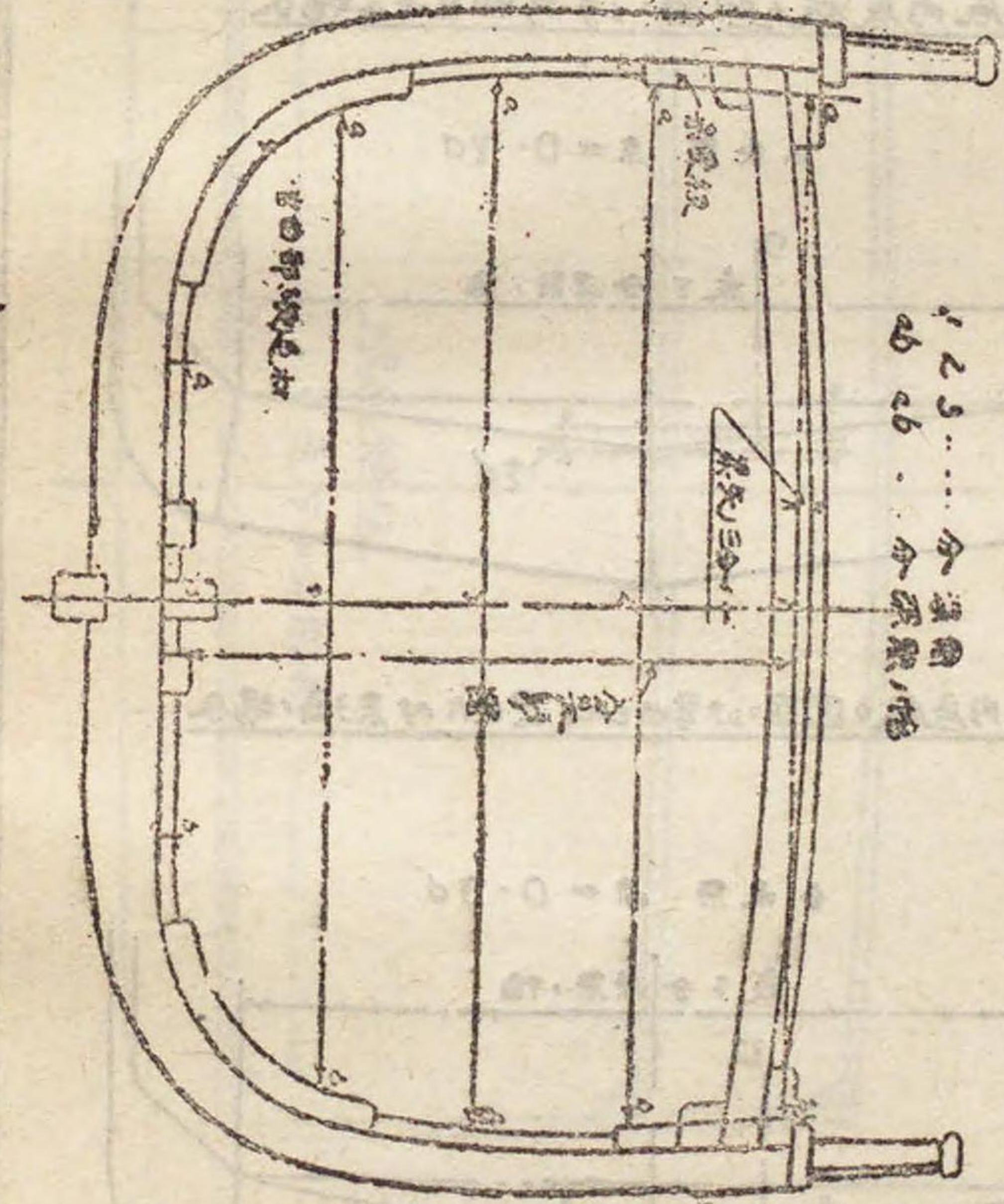
aaa... 分深點
bb bb' - 分深點、幅



第十四圖

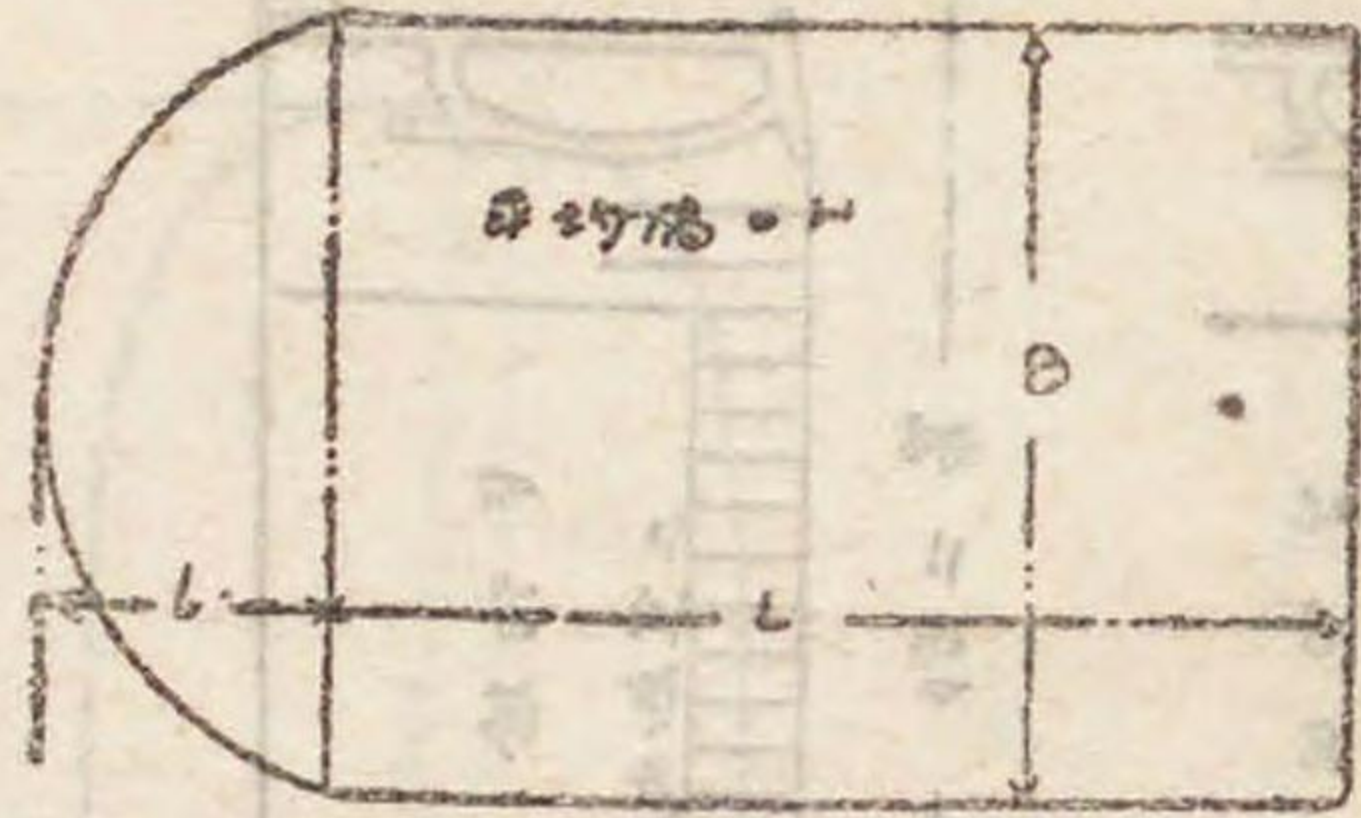
木船、分深點、幅
(心得第十四條)

1 2 3... 分深點
ab ab' ... 分深點、幅

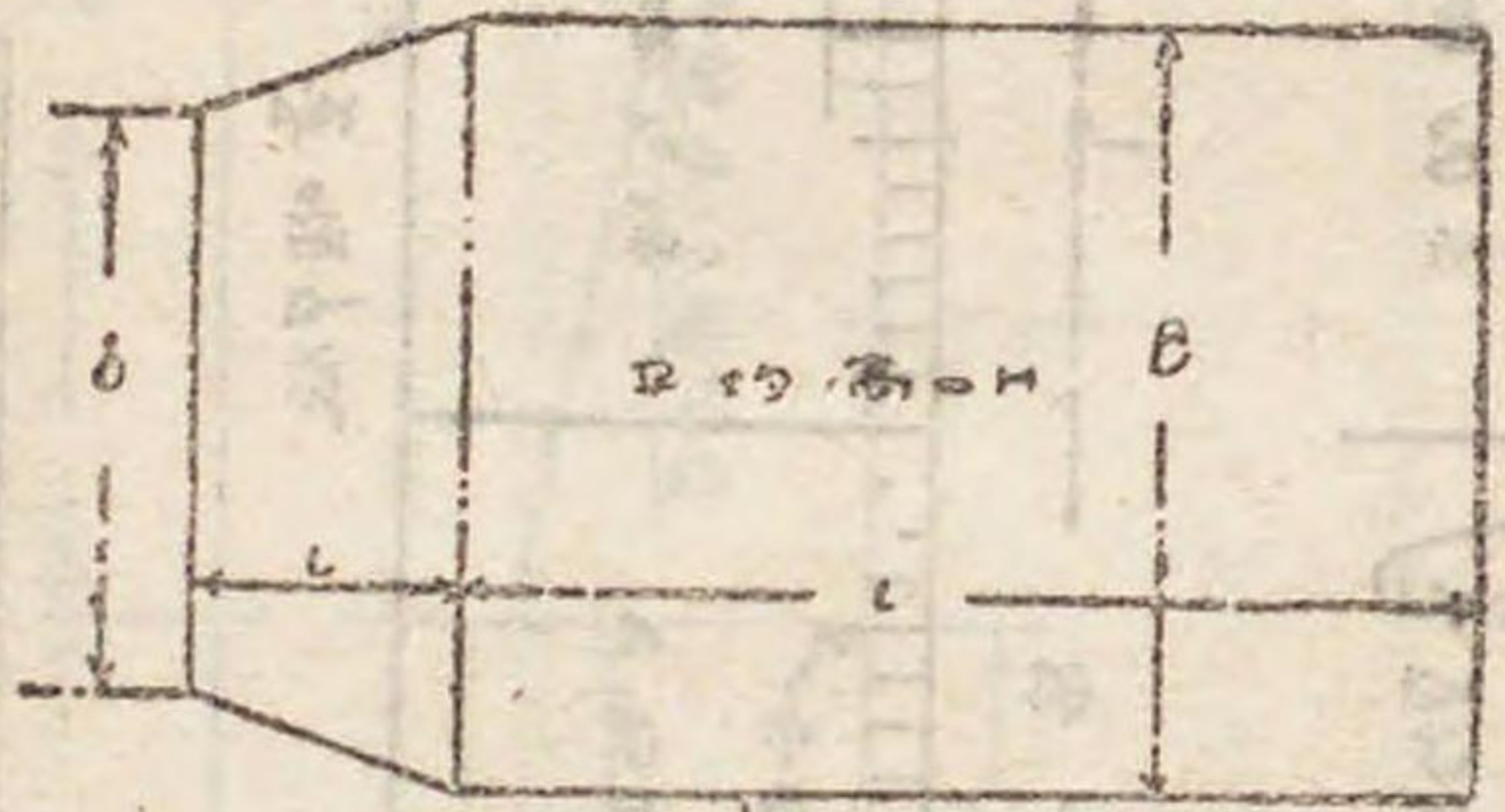


第十五圖

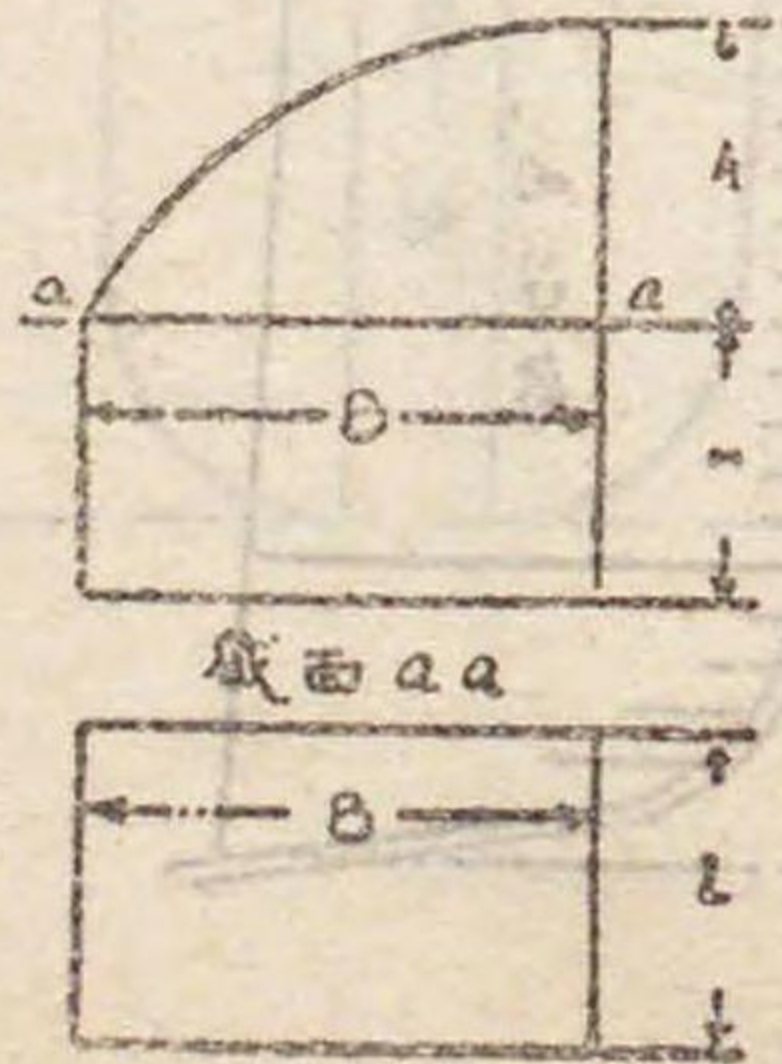
形狀正整地場所，噸數算定
(規程第九條)



容積 = $(L + \frac{1}{2}L) \times B \times H$



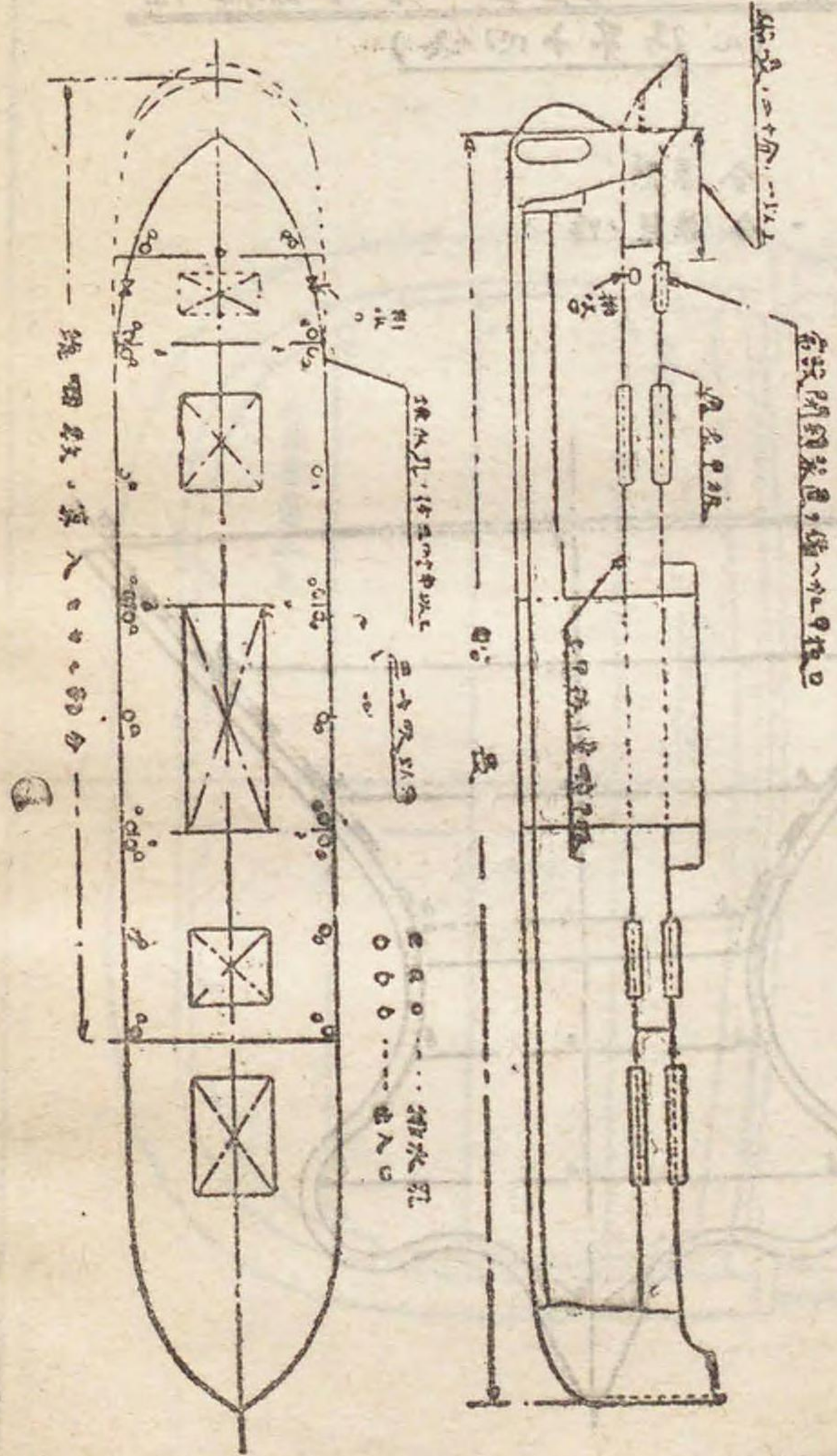
容積 = $(L \times B + \frac{B+d}{2} \times L) \times H$



容積 = $L \times B \times (H + \frac{1}{2}h)$

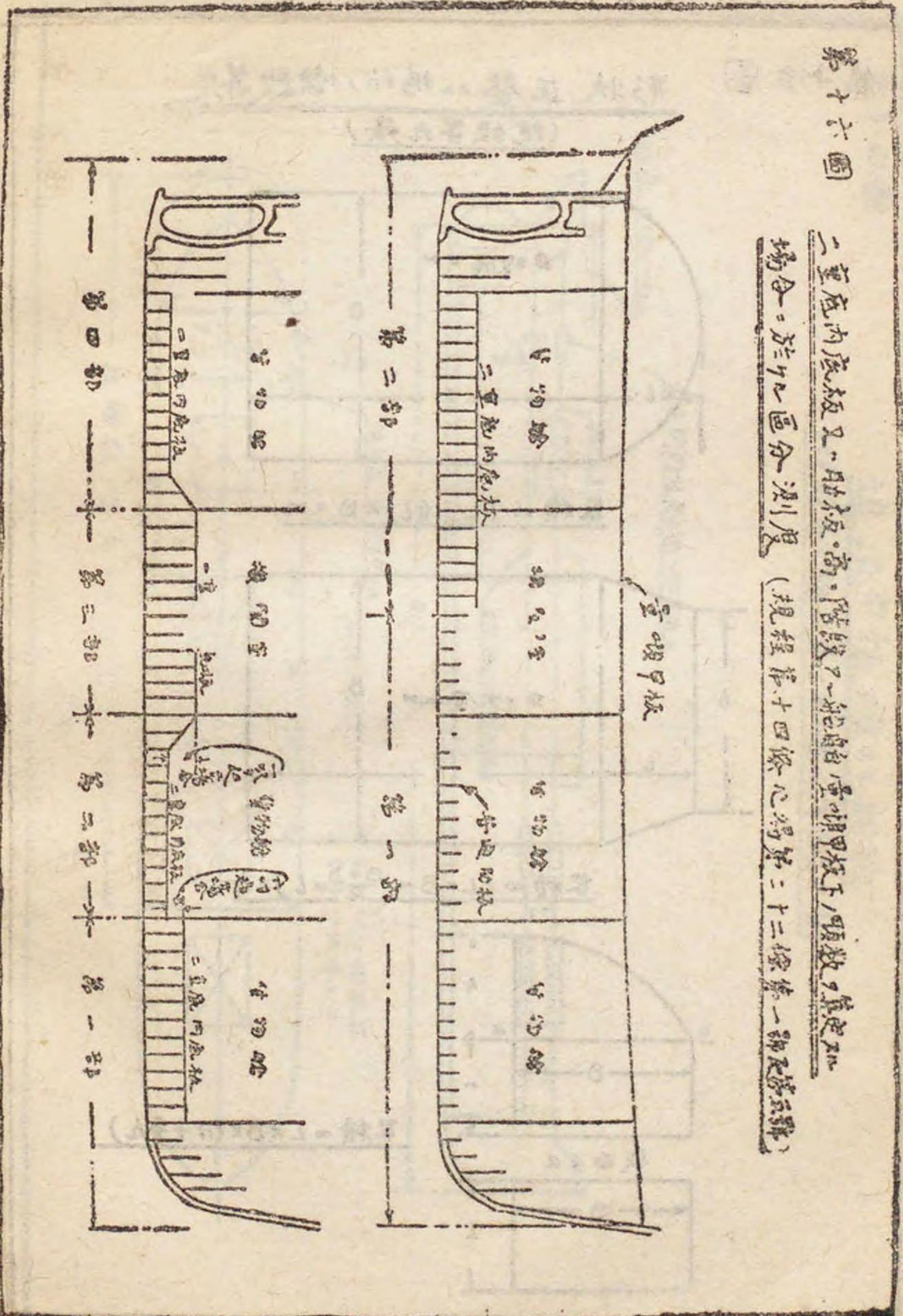
第十四圖

適浪甲板有八七船身
(規程第七條及第二十一條心得第三十條)



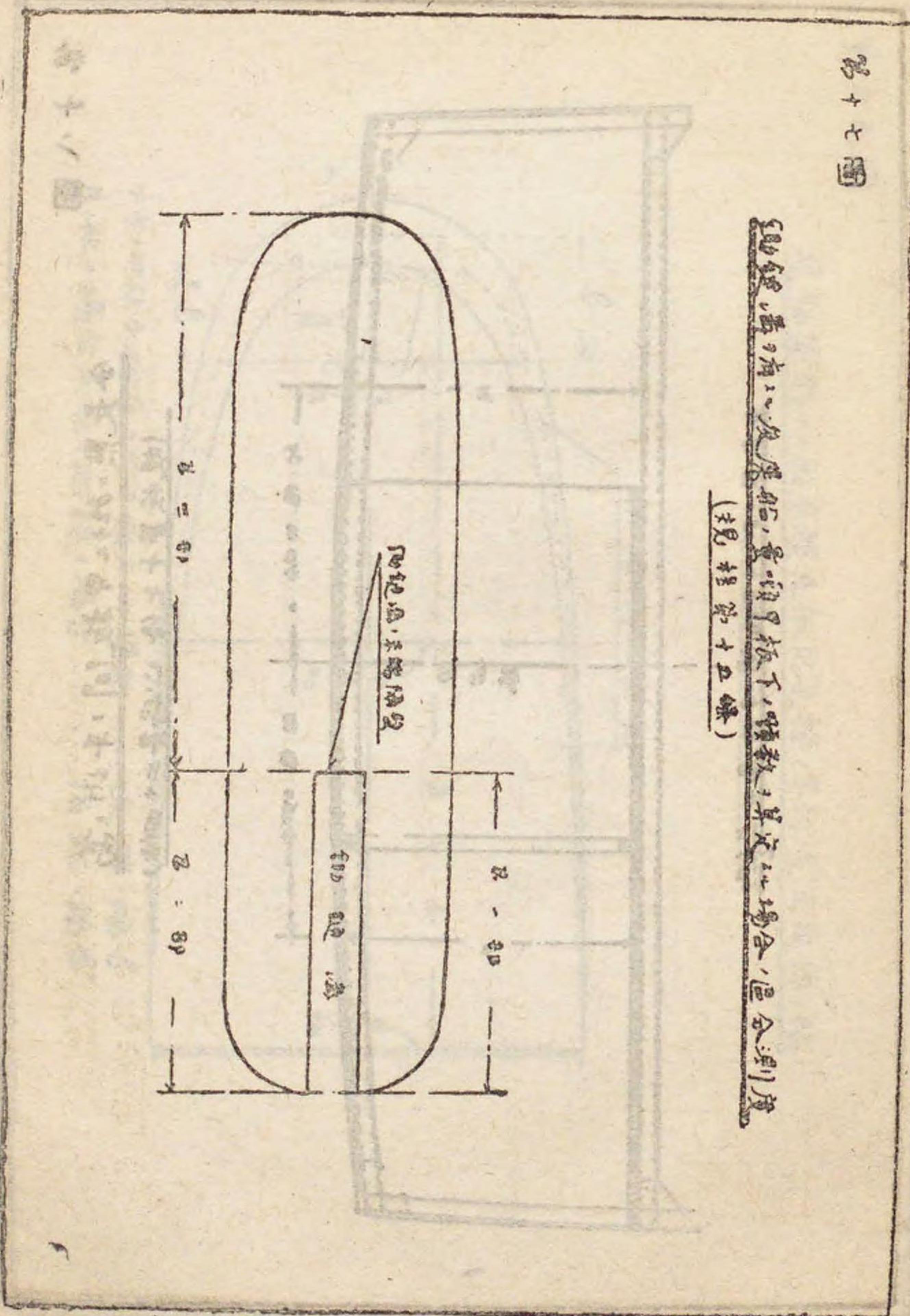
第十六圖

二重底内底板又・舳板・高・階線之・船身自・量取甲板下・噸數・算定也
場合・方・於・此・區・分・測・度 (規程第十四條・凡・得・第・二・十・二・條・第・一・節・及・第・五・條)



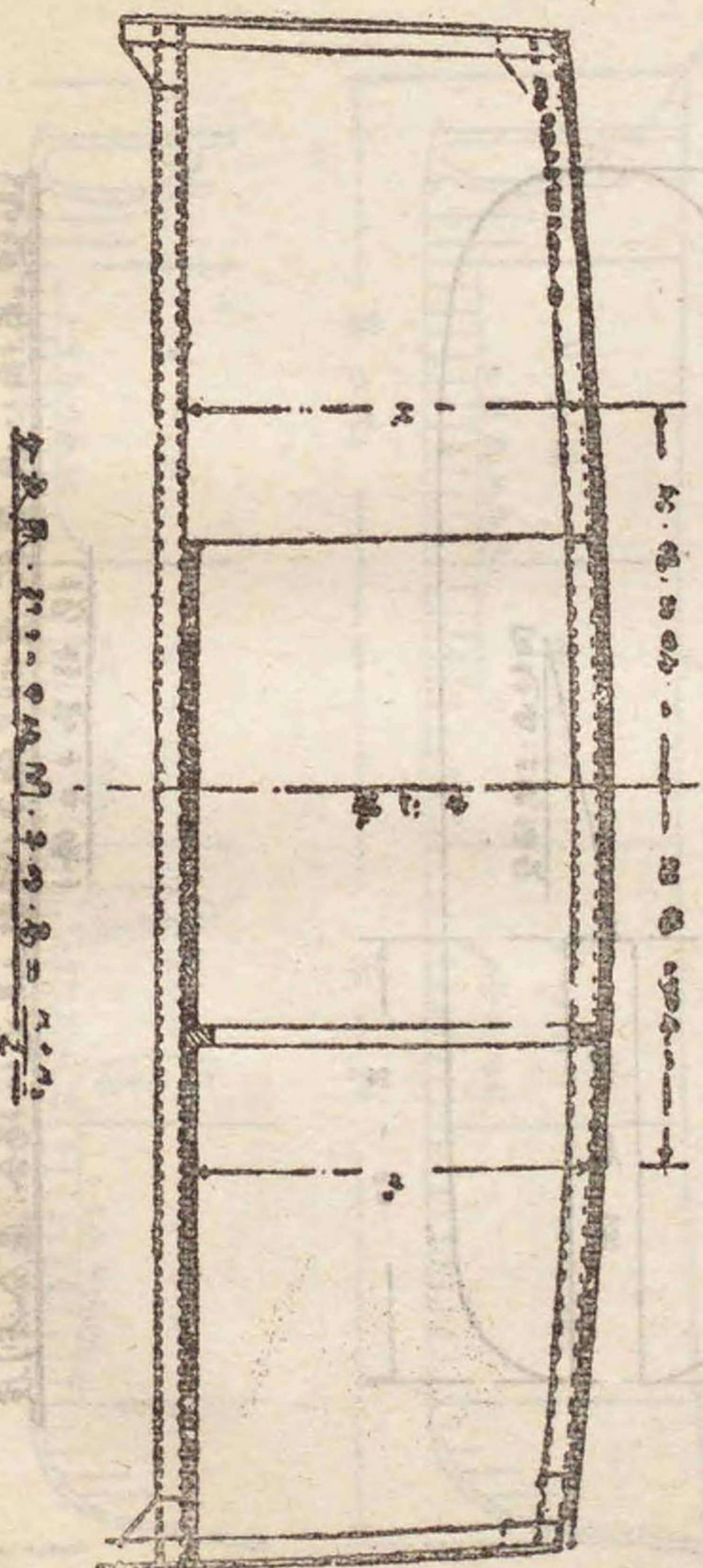
第十七圖

船身・量取・噸數・算定・場合・區・分・測・度
(規程第十五條)



第十八圖

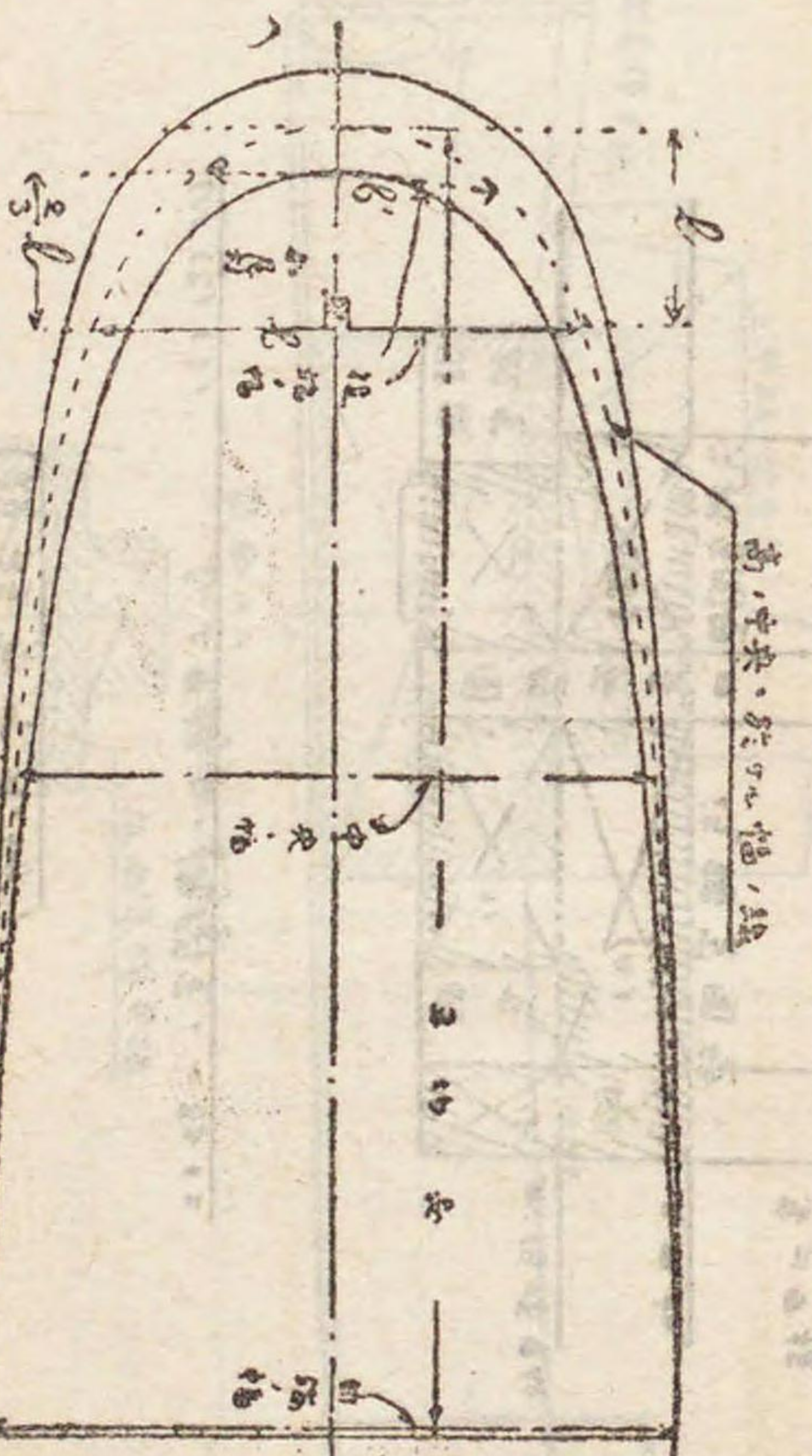
分度點之加甲板間，平均，高
 (規程第十七條，心編第二十四條)



分度點之加甲板間，平均，高 = $\frac{h_1 + h_2}{2}$

第十九圖

船端圓形之船尾樓及後端，平均，高及後端，幅
 (心編第二十六條，第一項)

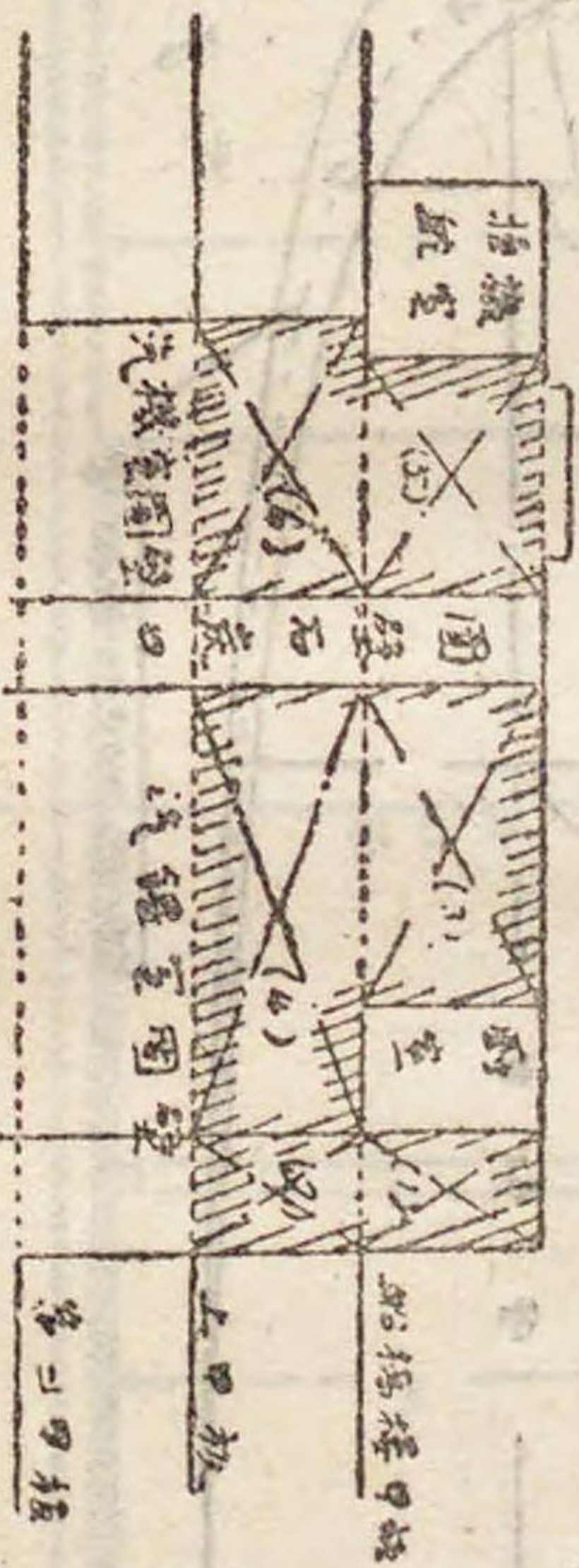


下方，甲板力，船尾，之，於，于，船，大，此，場合，……，後，端，幅，長，
 其，他，場，合，及，短，于，船，樓，場，合，……，後，端，幅，長，

第二十圖

上甲板上一機閉室一部
(規程第十九條)

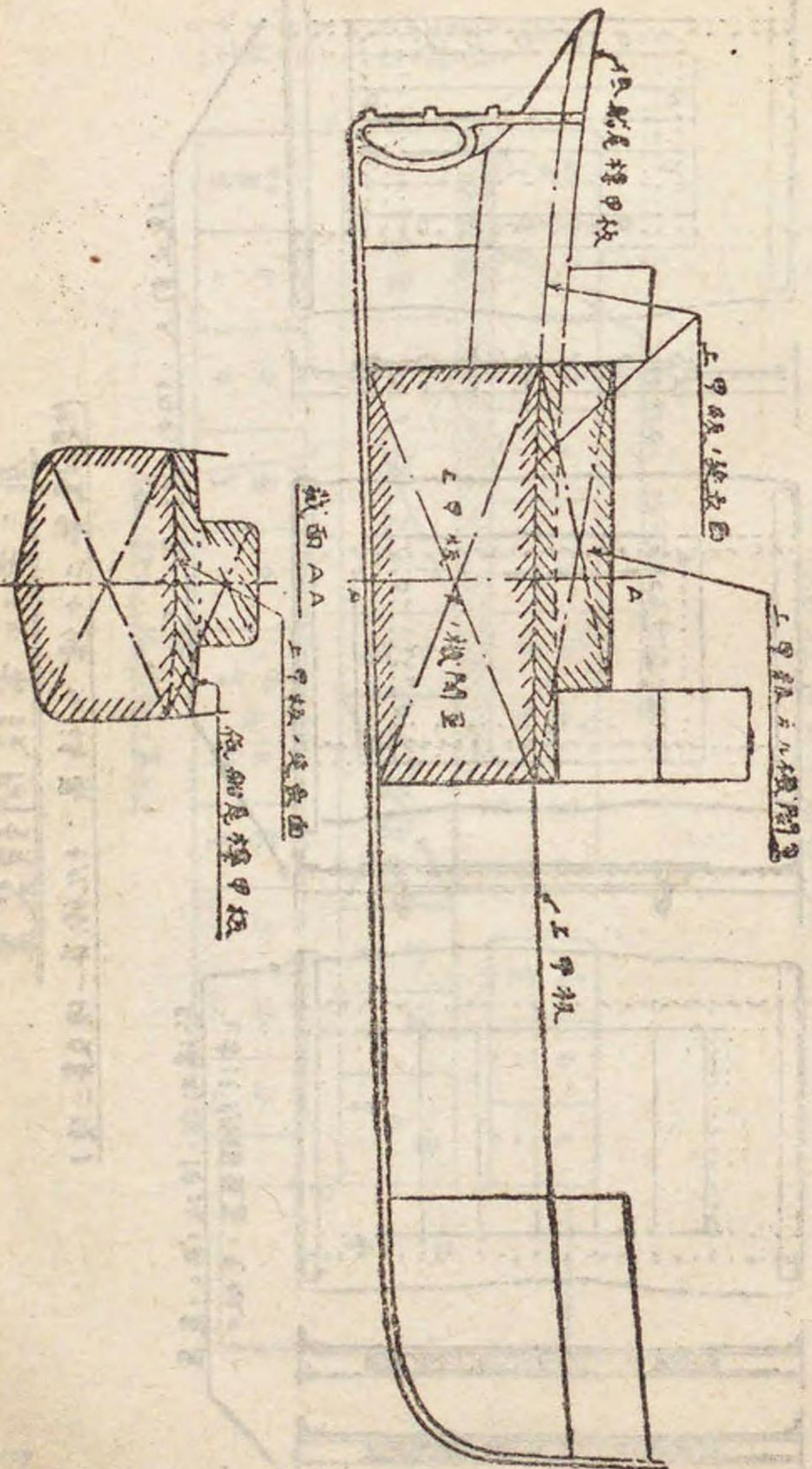
(1) (2) (3) 各上甲板上機閉室一部



第二十圖

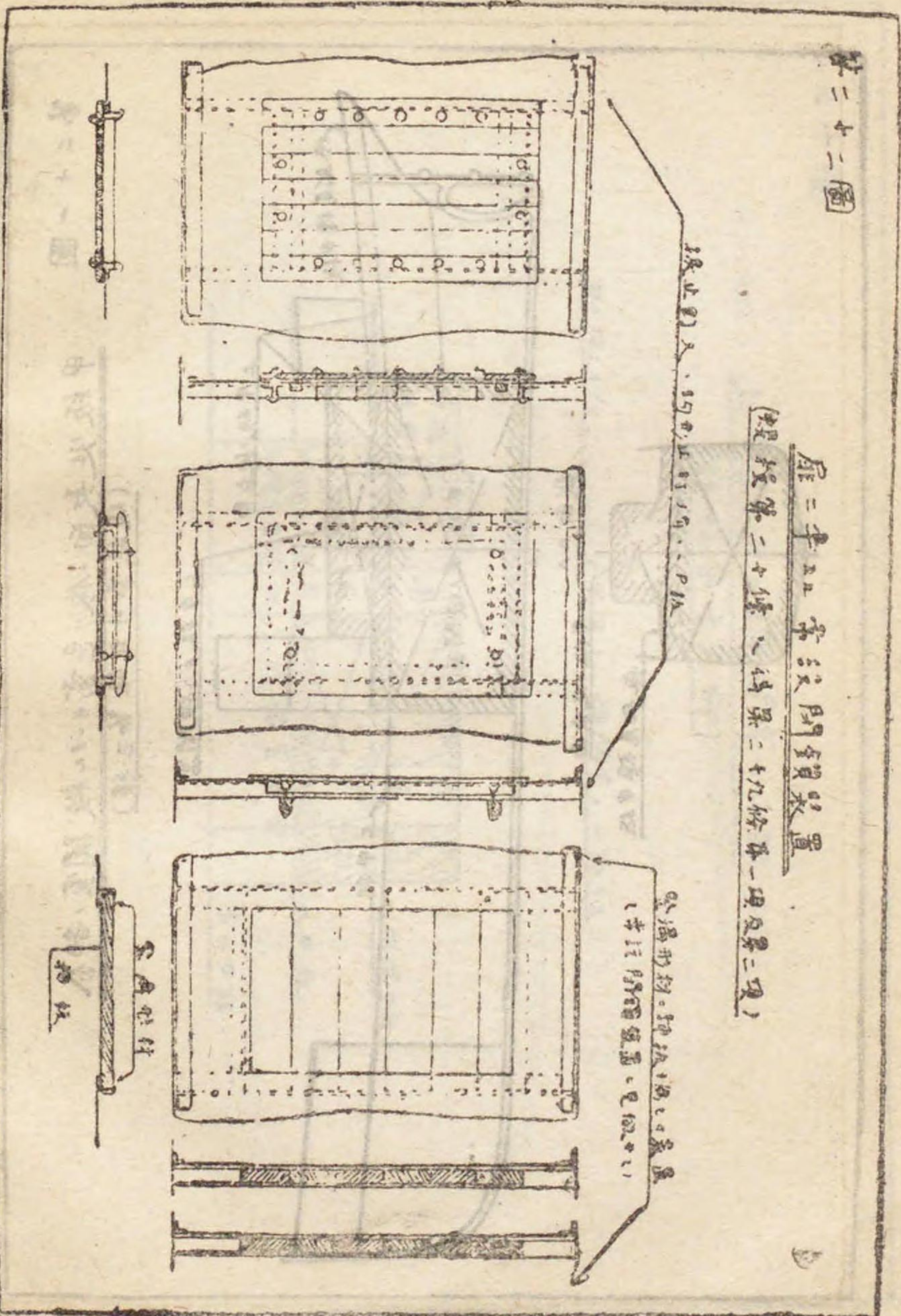
第二十一圖

甲板延長面：依川邑露丸機閉室部分
(規程第十九條第三項)



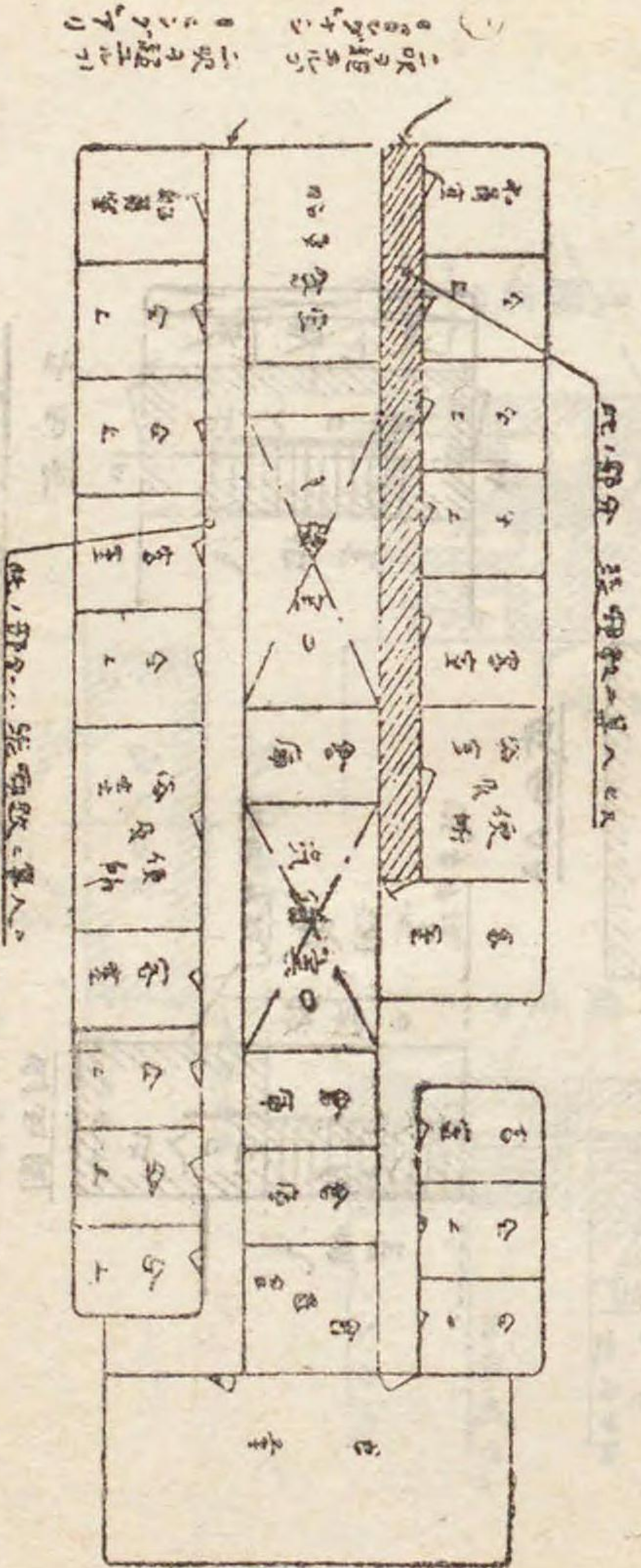
第二十二圖

扉二半以上常設閉鎖裝置
(規程第二十九條、結果二十九條第一項及第二項)



第二十三圖

出入口常設閉鎖裝置概略圖
出入口常設閉鎖裝置概略圖
出入口常設閉鎖裝置概略圖
出入口常設閉鎖裝置概略圖
(規程第二十九條同條)

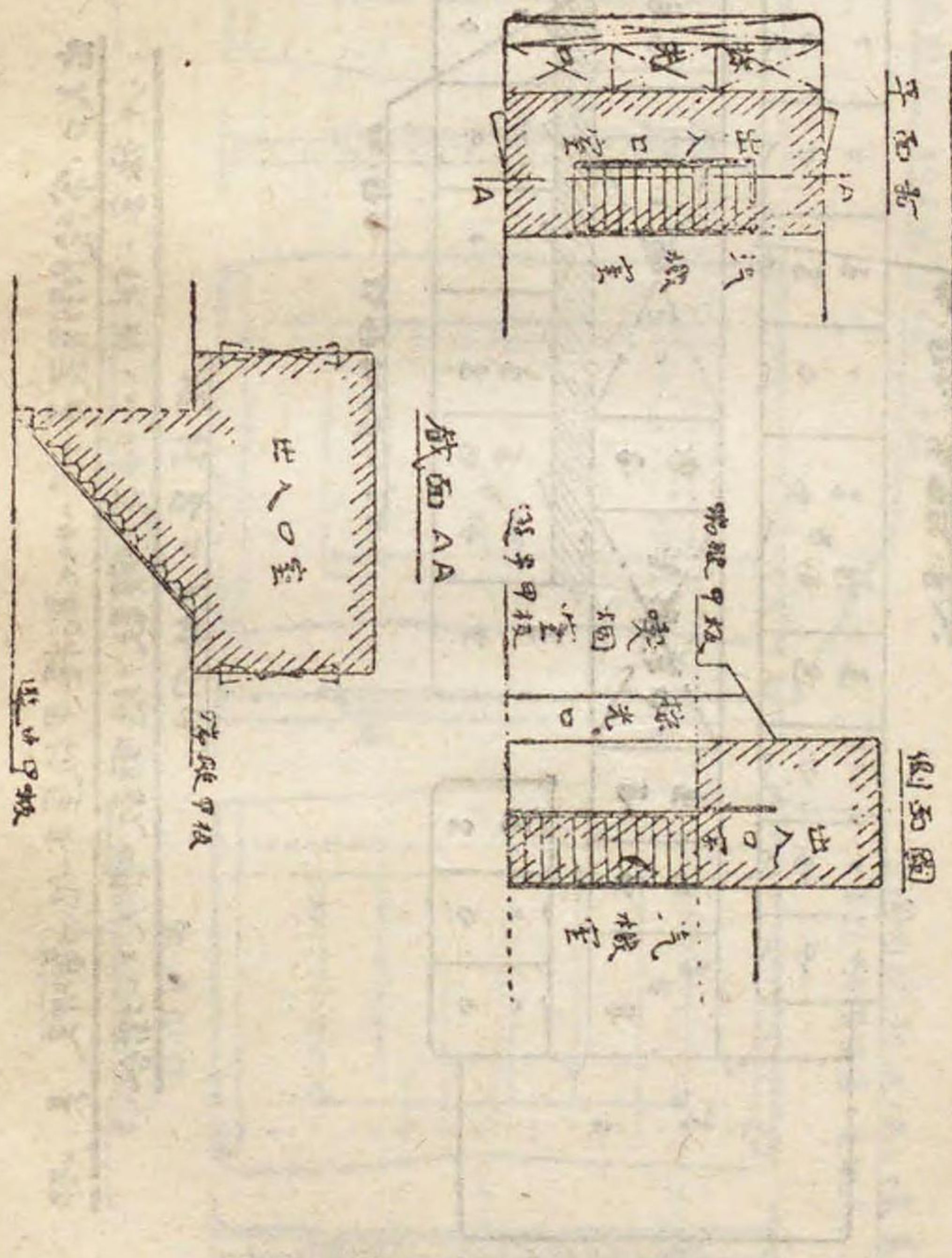


第二十四圖

出入口常設閉鎖裝置概略圖
出入口常設閉鎖裝置概略圖
出入口常設閉鎖裝置概略圖
出入口常設閉鎖裝置概略圖
(規程第二十九條同條)

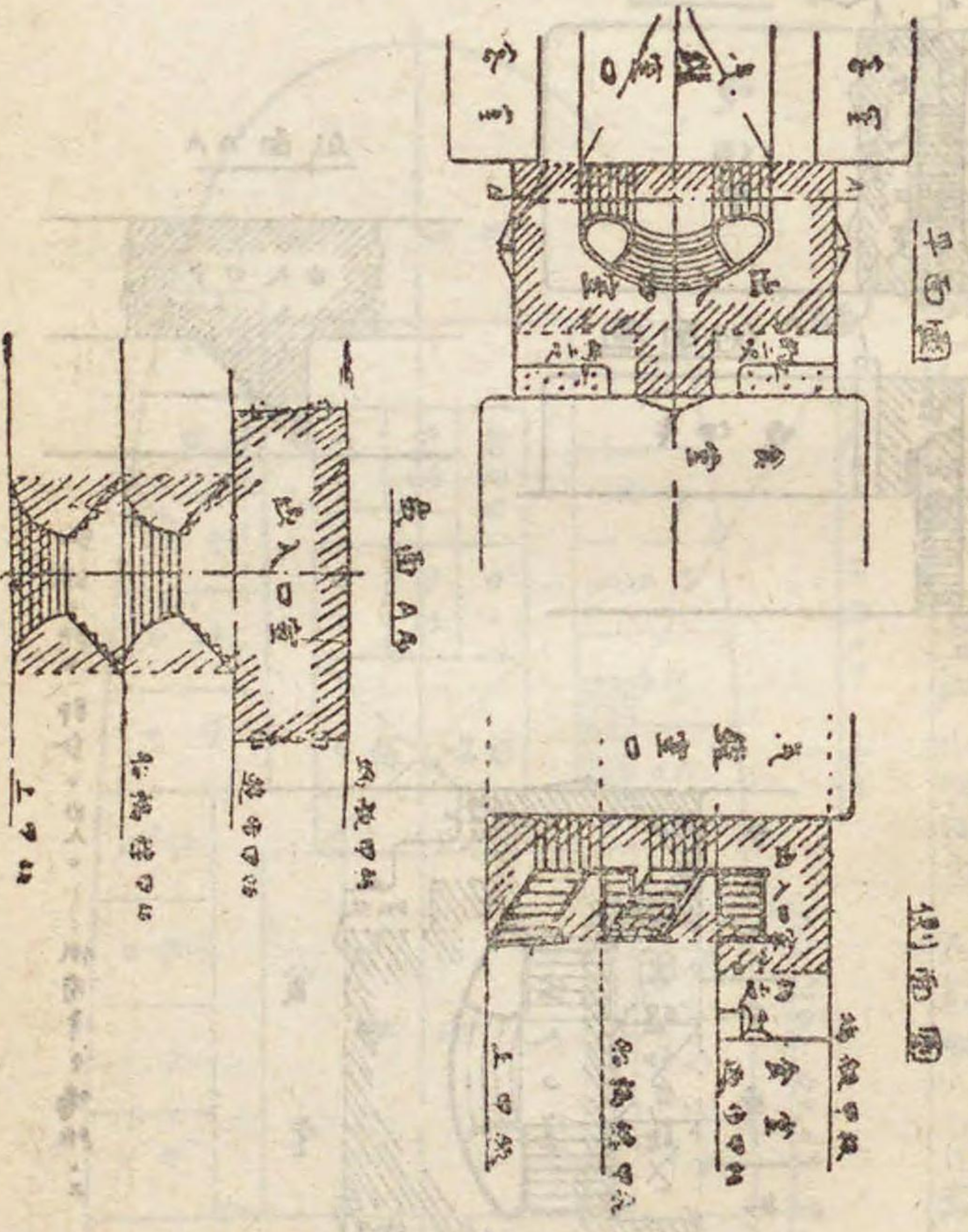
第二十四圖其一

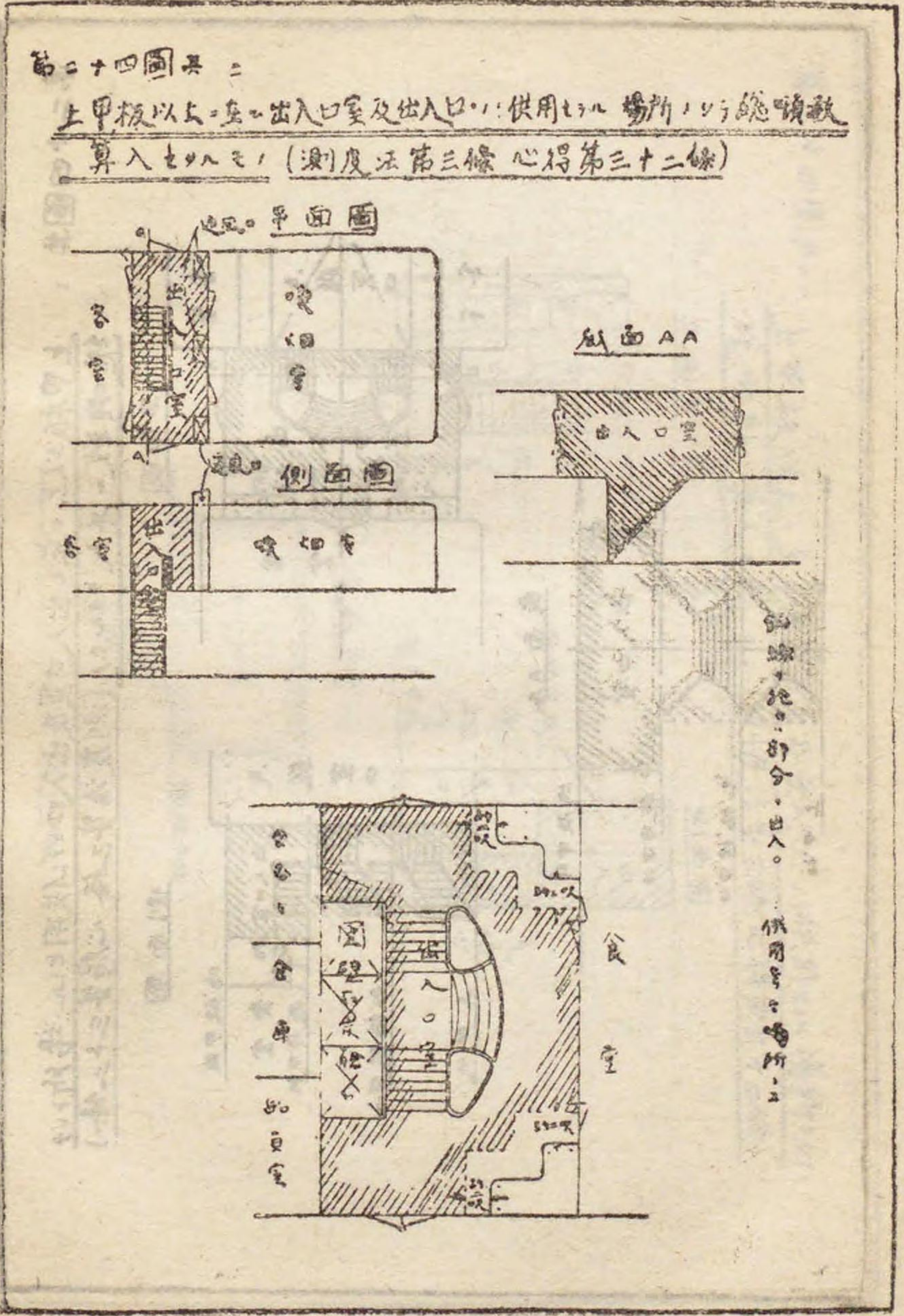
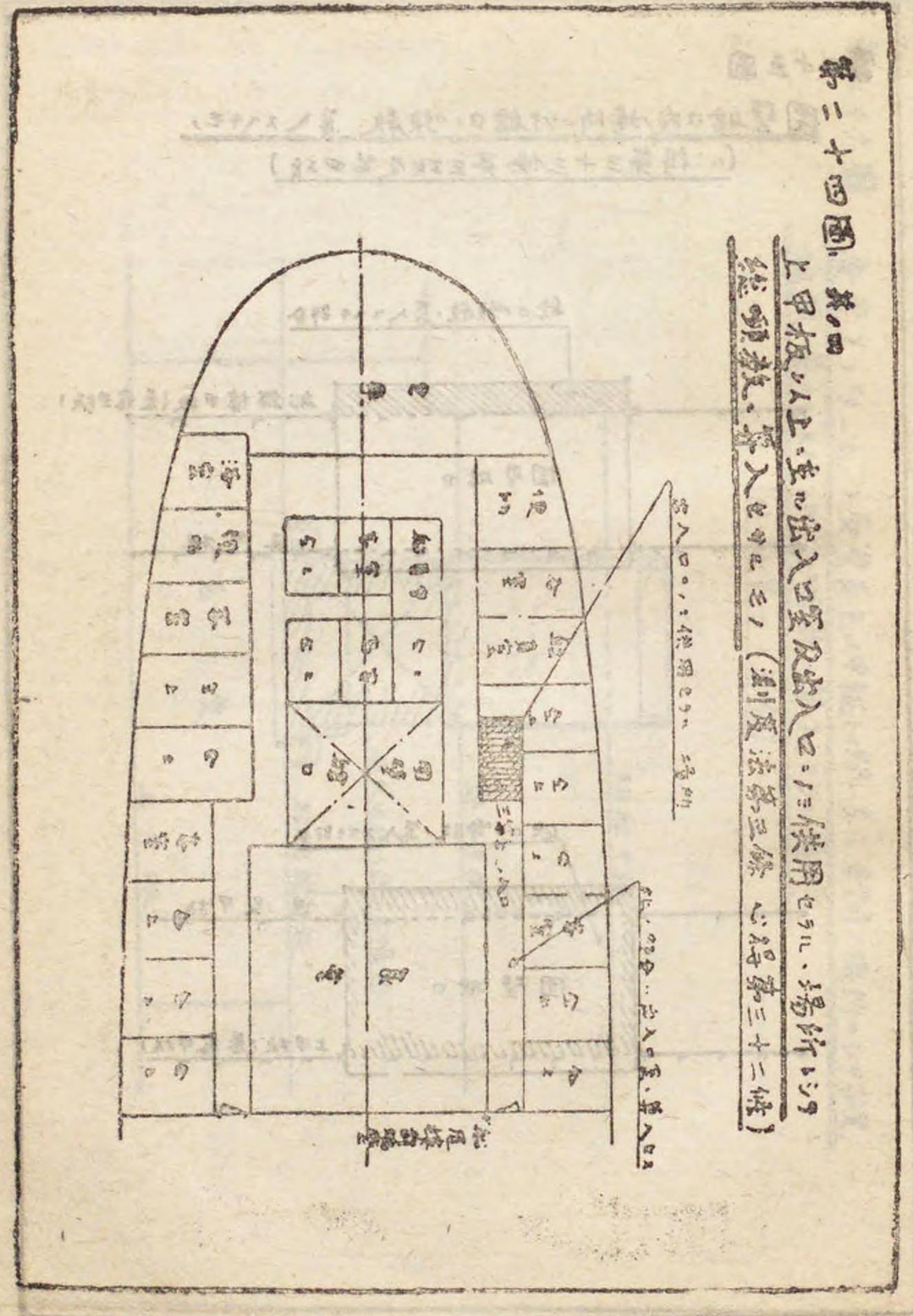
上甲板以上之出入口室及出入口之供用此場所
 總噸數：算入七廿七毛 (測度法第三條心得第三十二條)



第二十四圖其二

上甲板以上之出入口室及出入口之供用此場所
 總噸數：算入七廿七毛 (測度法第三條心得第三十二條)

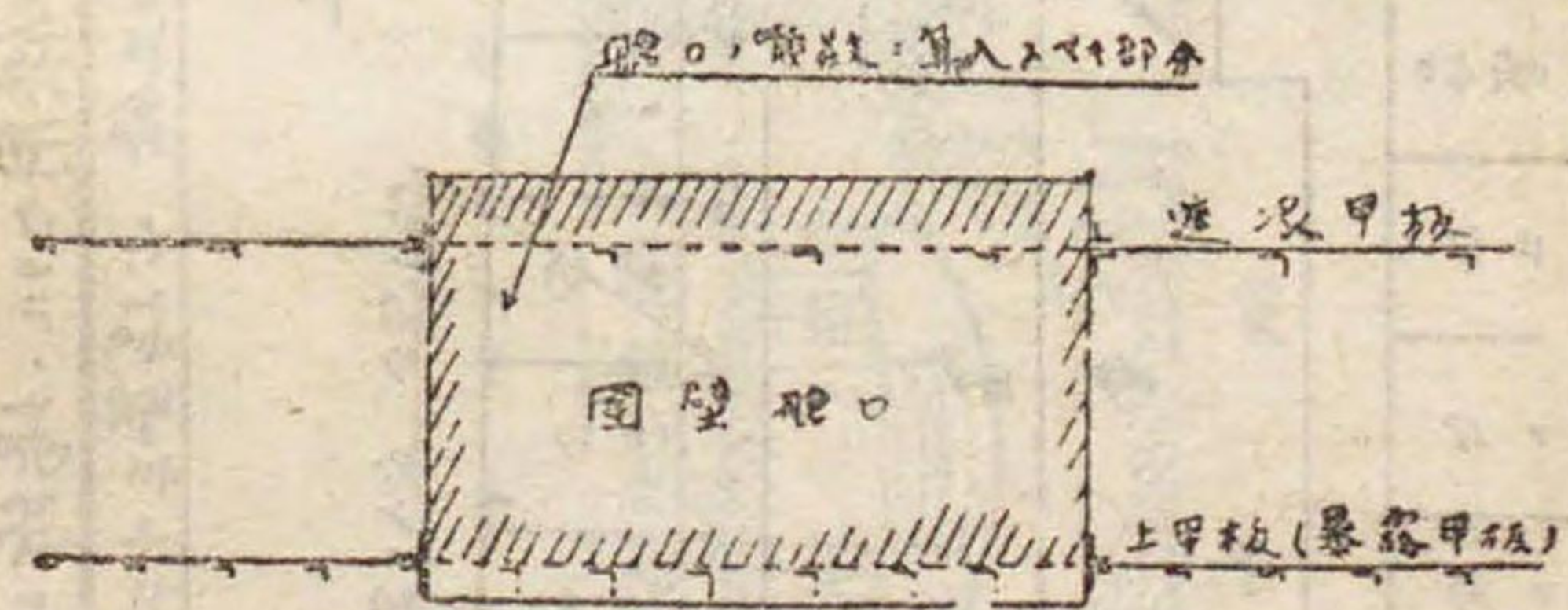
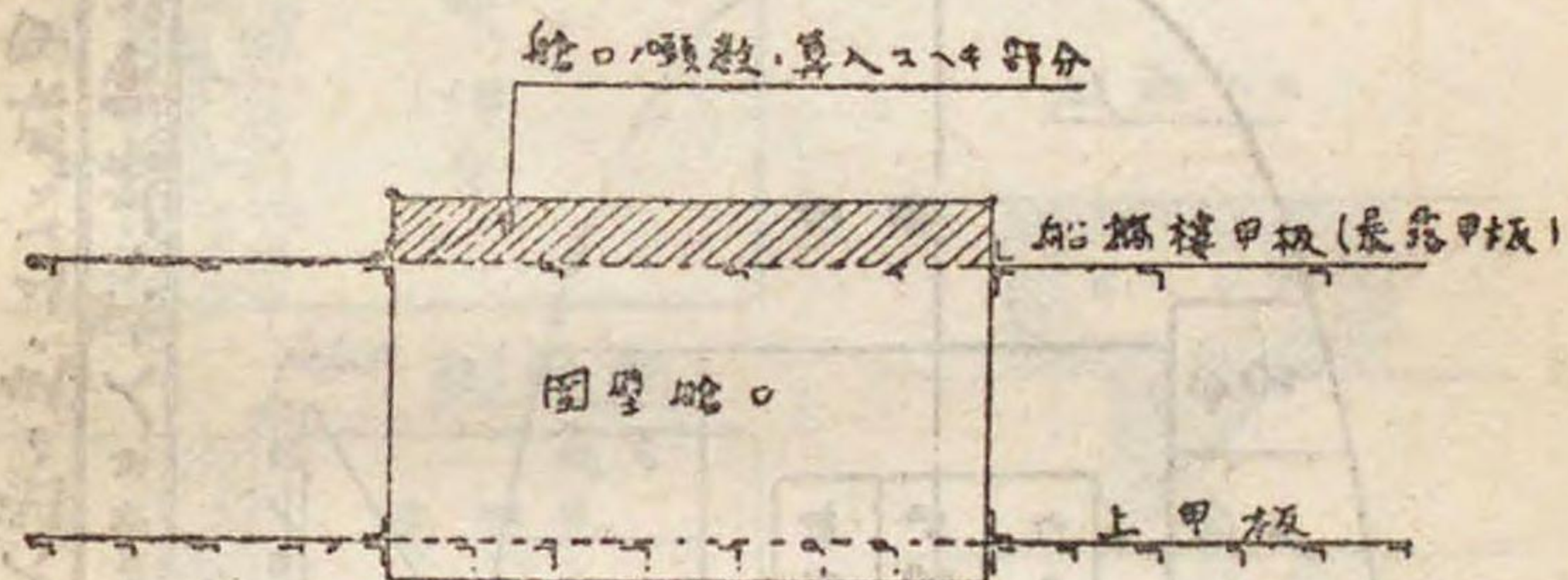




第二十五圖

圖 壁船口内場所の噸數 算入スルモ、

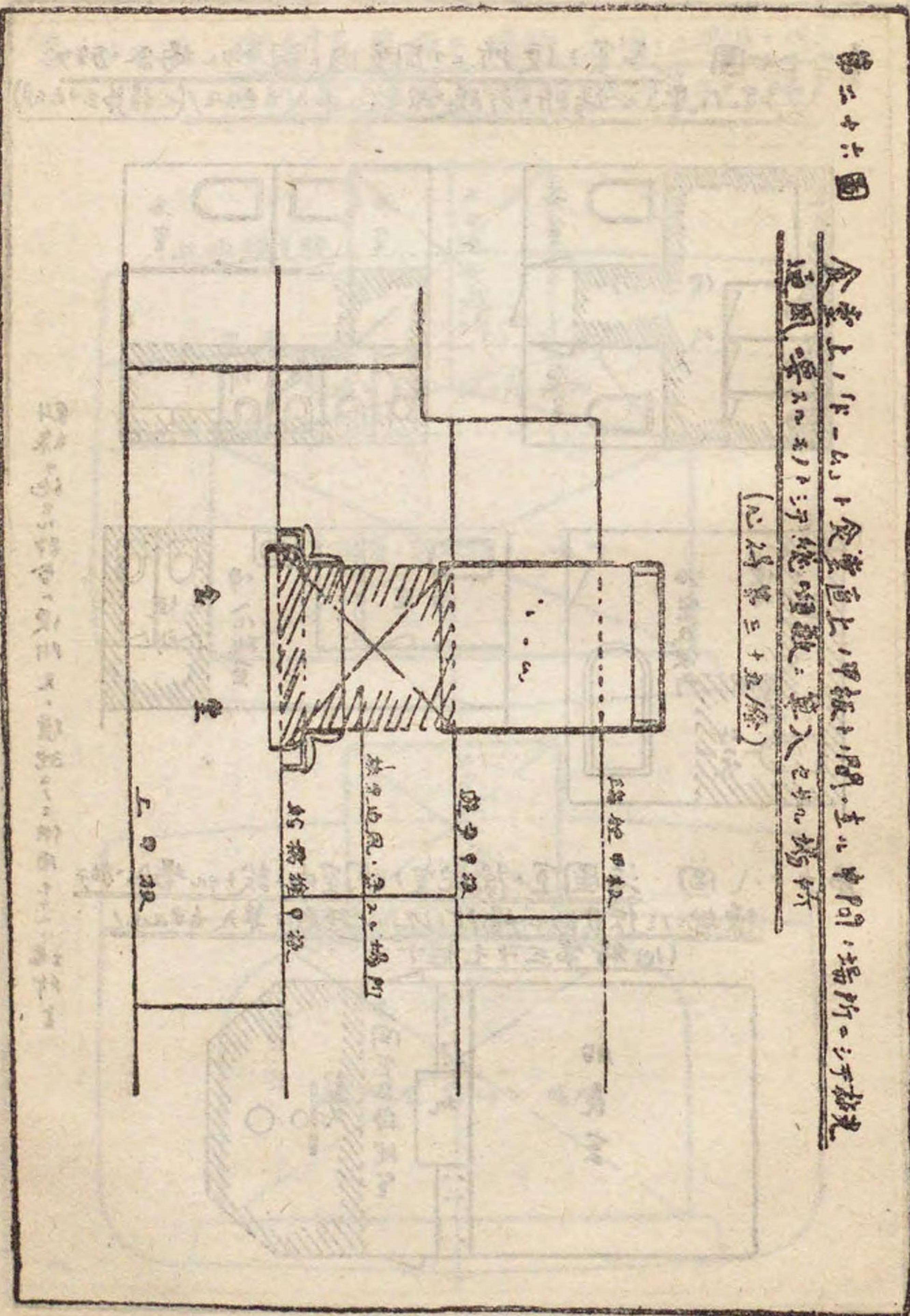
(心得第三十三條第三項及第四項)



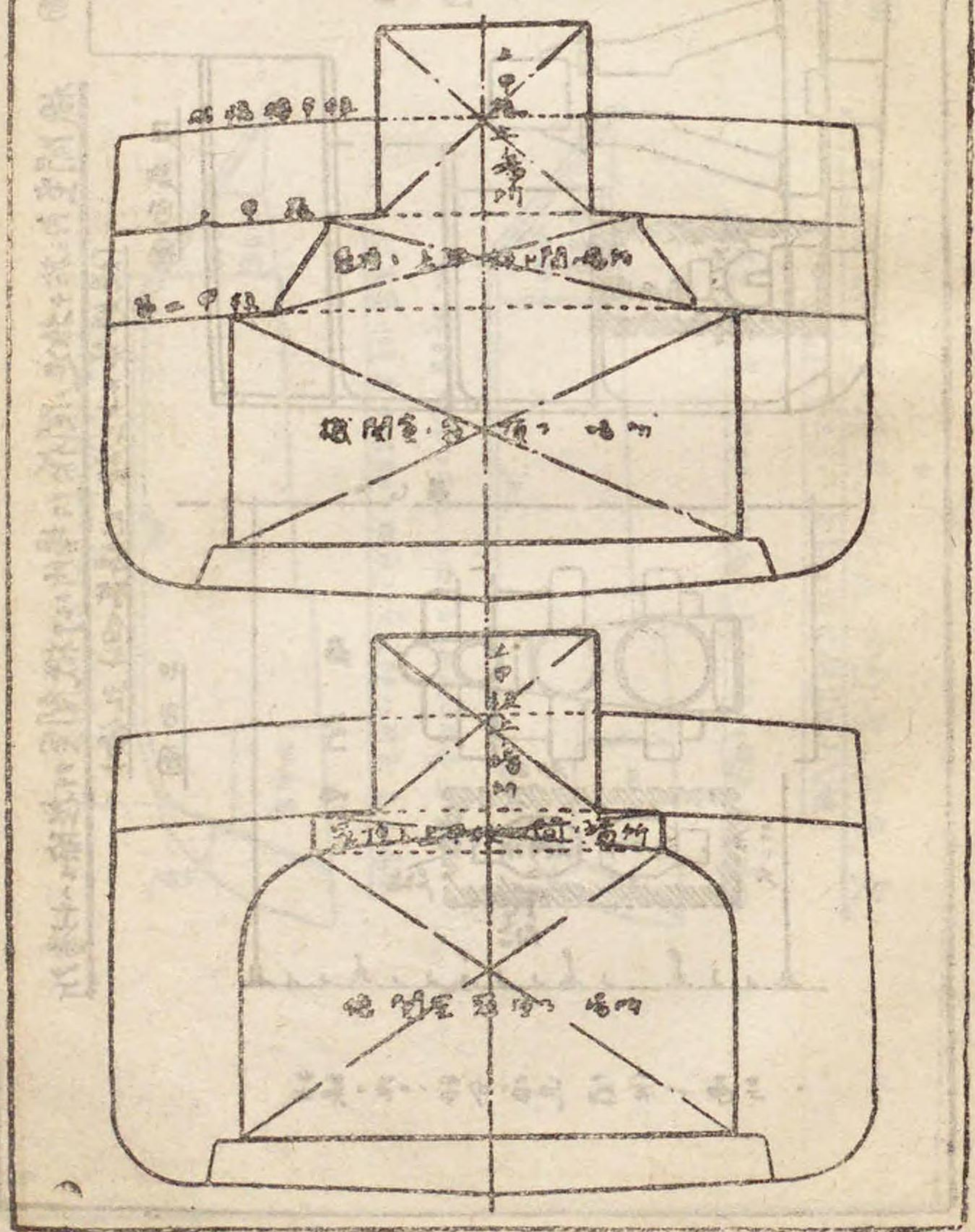
第二十六圖

全堂上ノ甲板ノ全堂直上ノ甲板ノ間ノ全中ノ場所ノ噸數

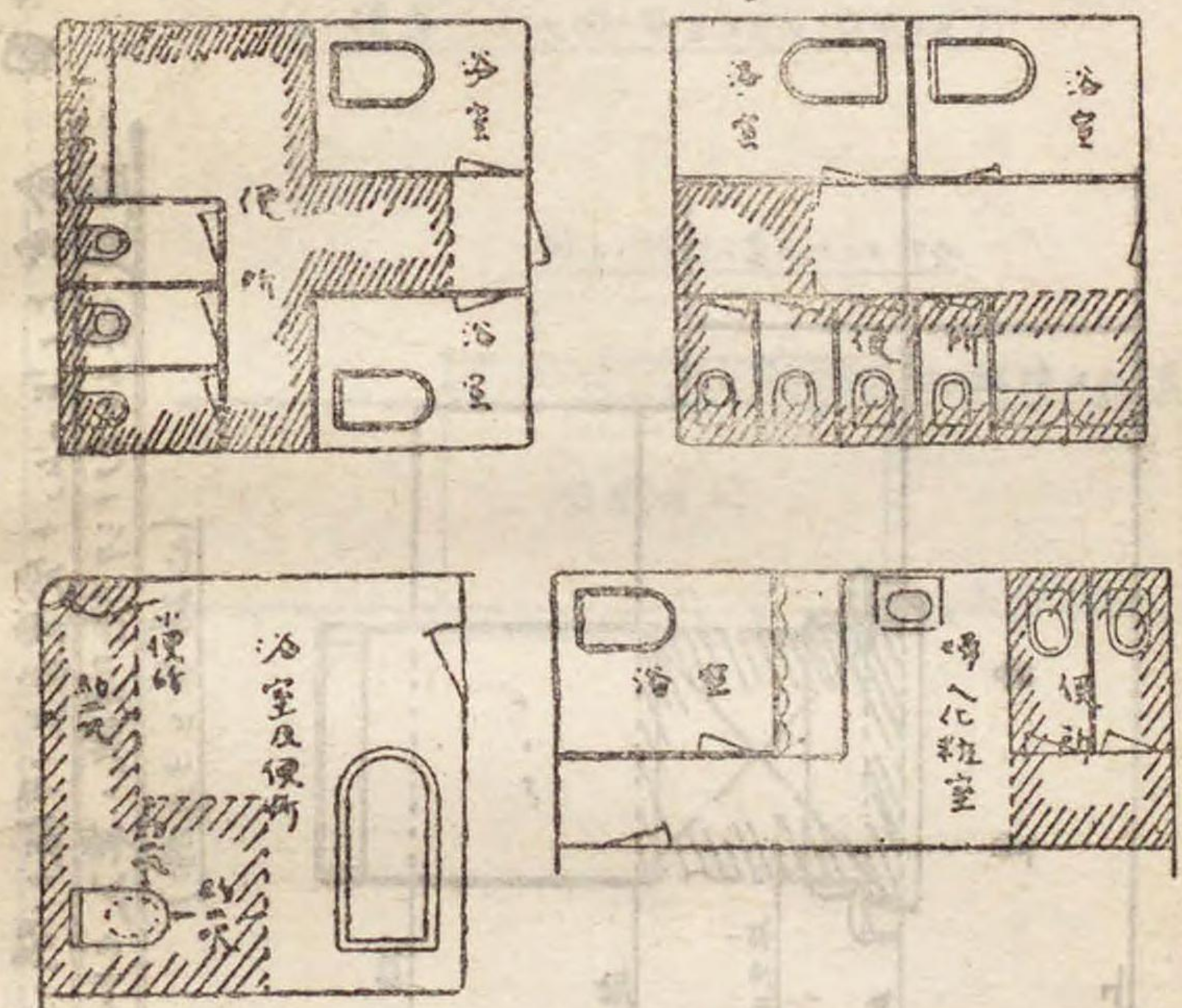
(心得第三十三條)



第二十九圖 機關室、煙道、場所、上甲板、開
場所及上甲板上、場所(規程第三十一條)

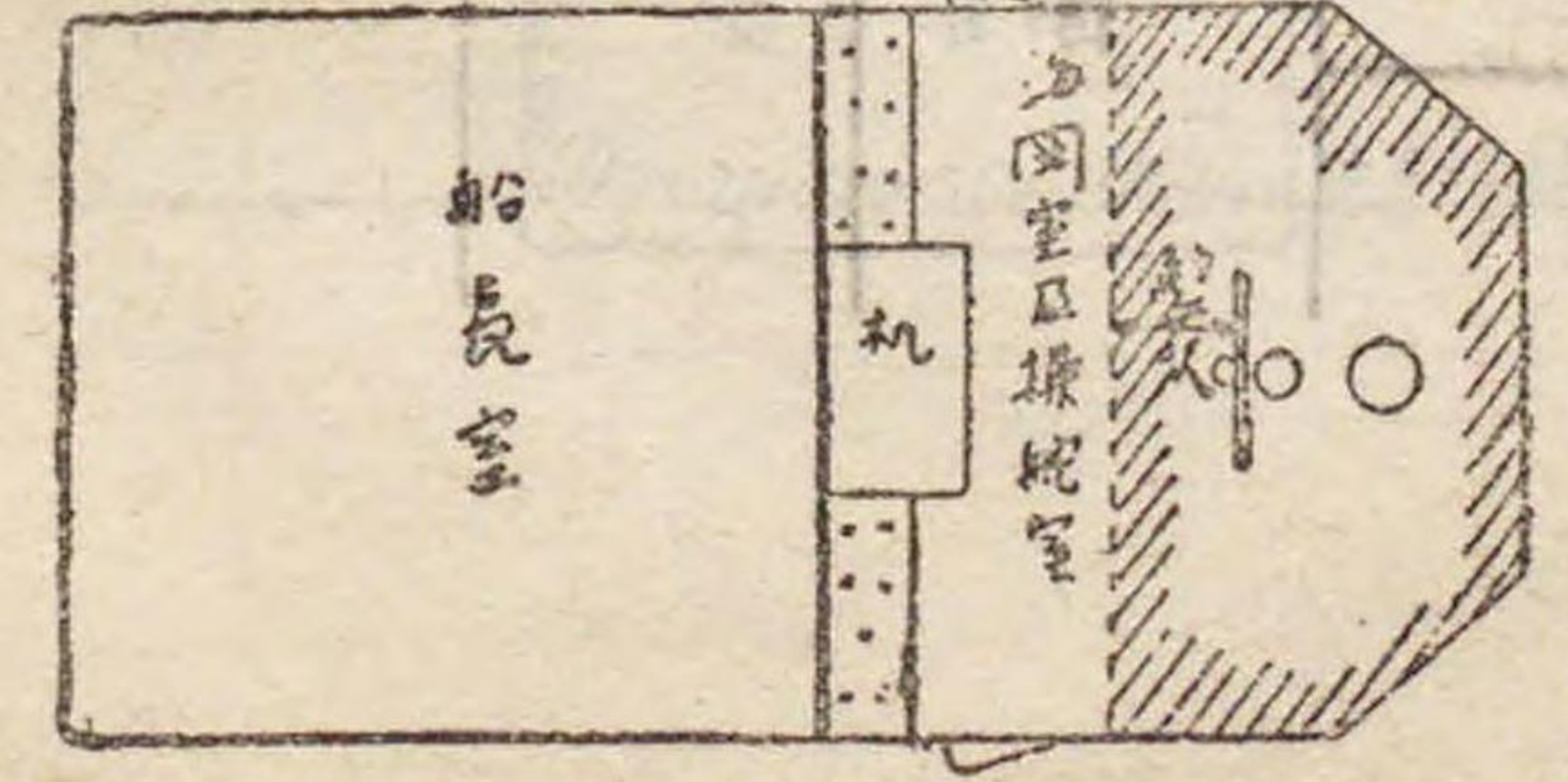


第二十七圖 浴室、便所、同室內、設之場合、於
便所、必要之場所、所總噸數、算入之(規程第三十條)



斜線ヲ施スル部分、便所又、操舵室ニ供用セラルル場所ナリ

第二十八圖 海圖室、操舵室、同室內、設之場合、於
操舵室、供用セラルル場所、所總噸數、算入セラル

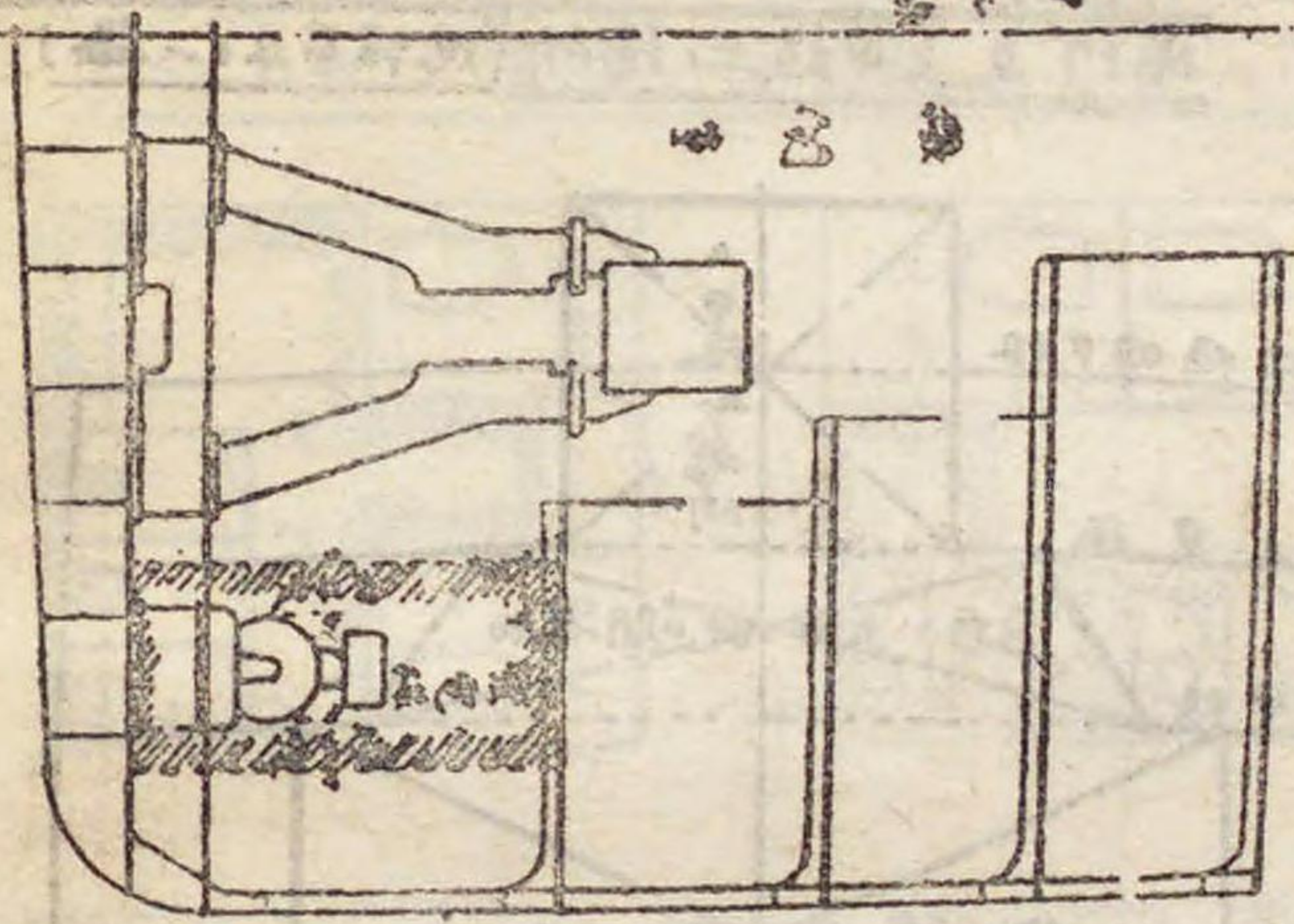


第三十圖

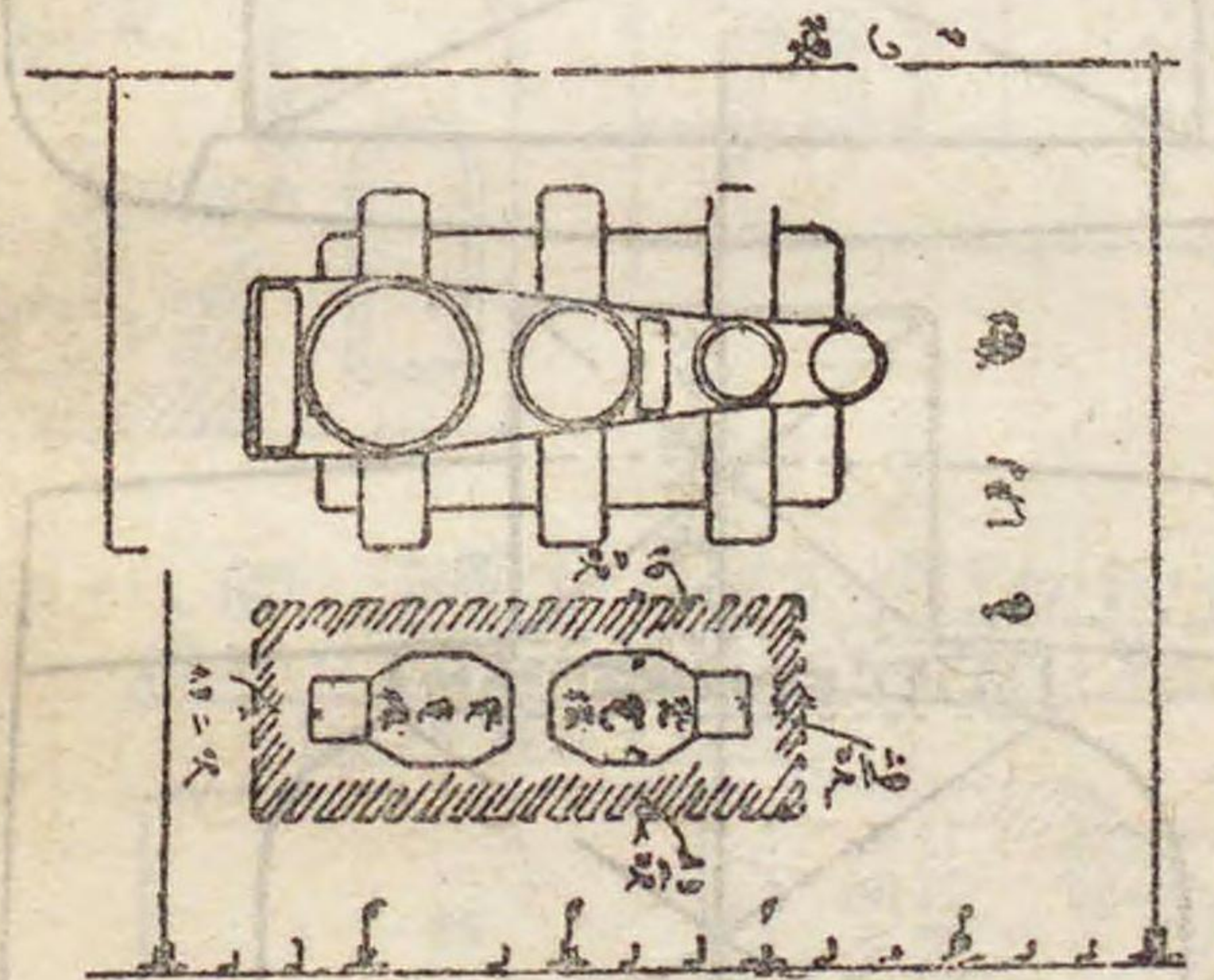
機關室內之推進機關之場所及控制場所

(規程第三十三條 心得第四十五條)

機房剖面圖



正面圖



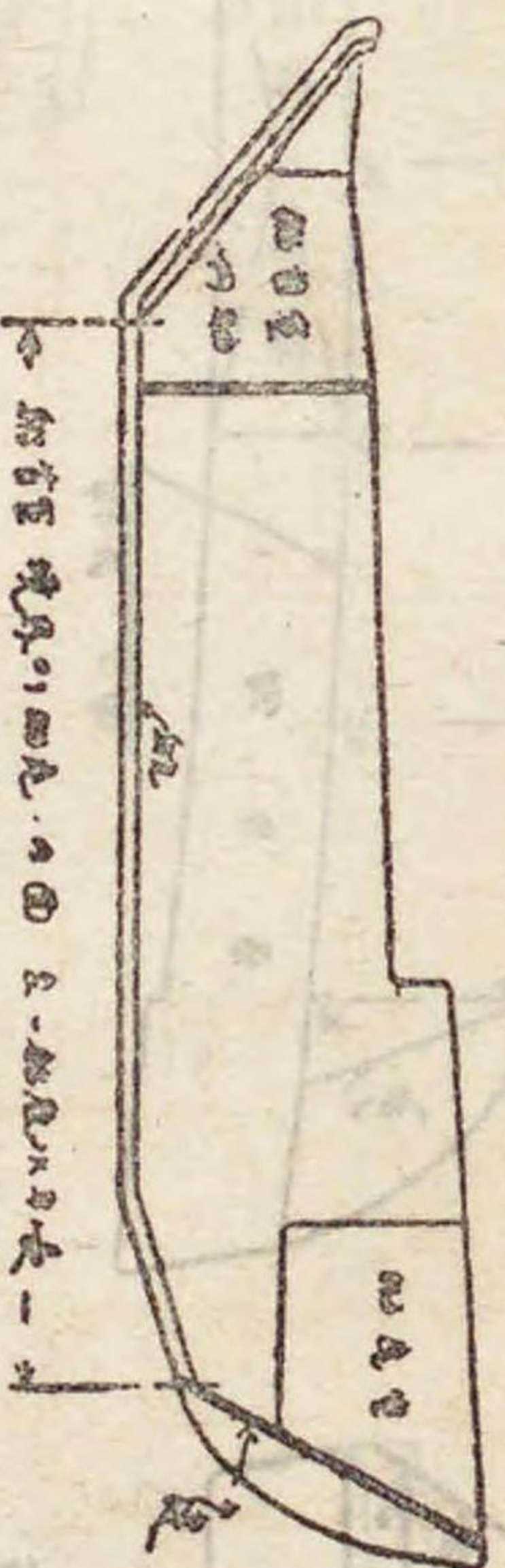
針線孔、扣合處、閘、等、場所、

第三十一圖

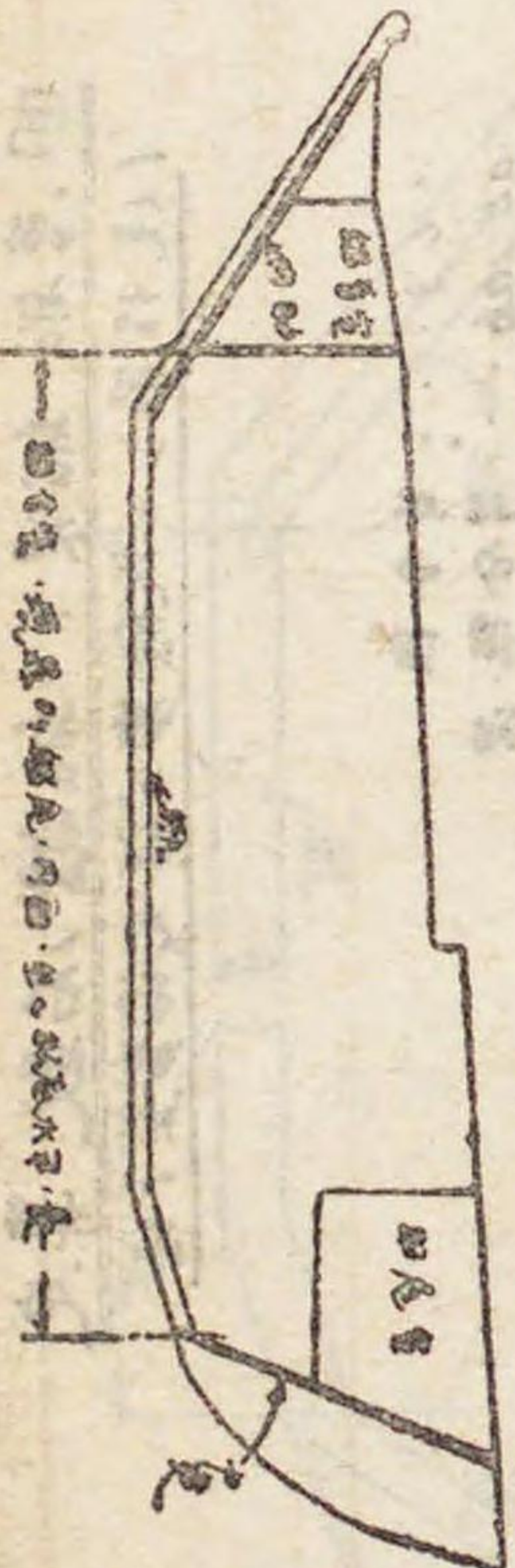
石敷船、船首室、境界引船尾、內面、至、船底、之、

(規程第三十八條 心得第四十八條)

船首室、境界、內面、船底、之、境界、之、境界、



船首室、境界、內面、船底、之、境界、之、境界、

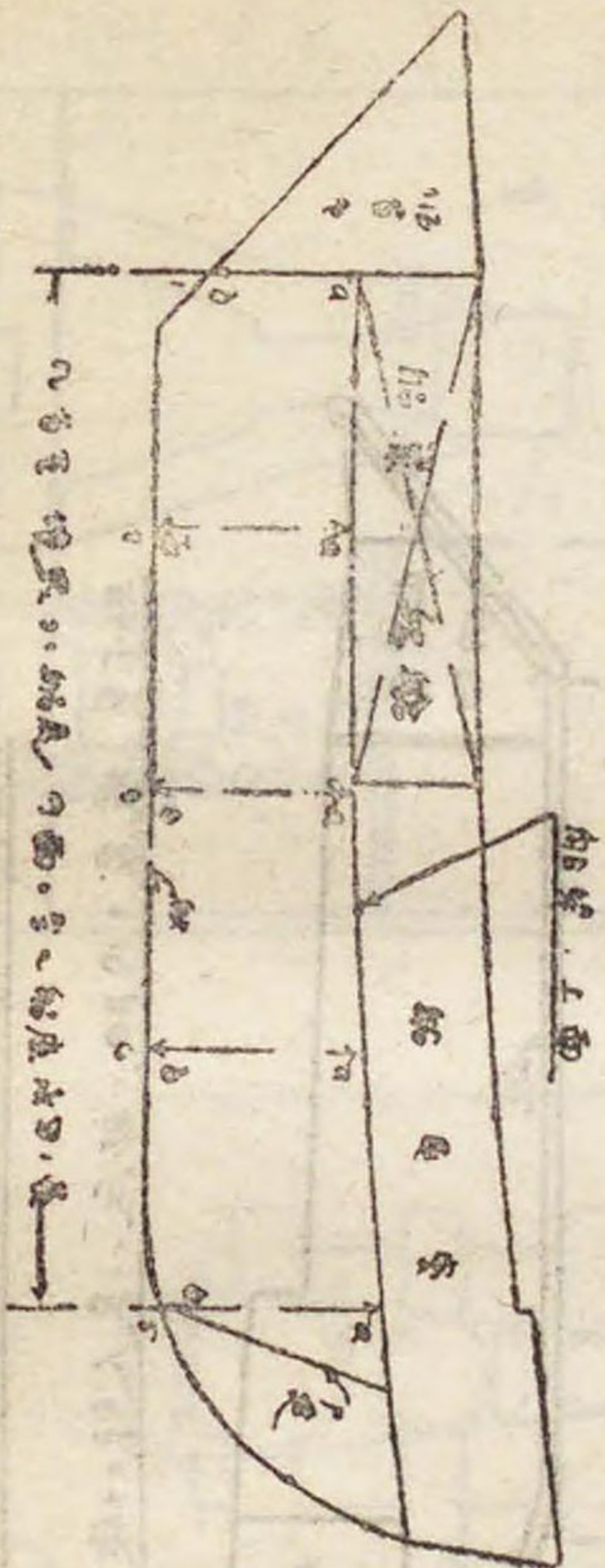


第三十二圖

圖 普通船 船梁下 船艙 石數 算定

1 尺是 船第 三十八條 第二項 得第五十條

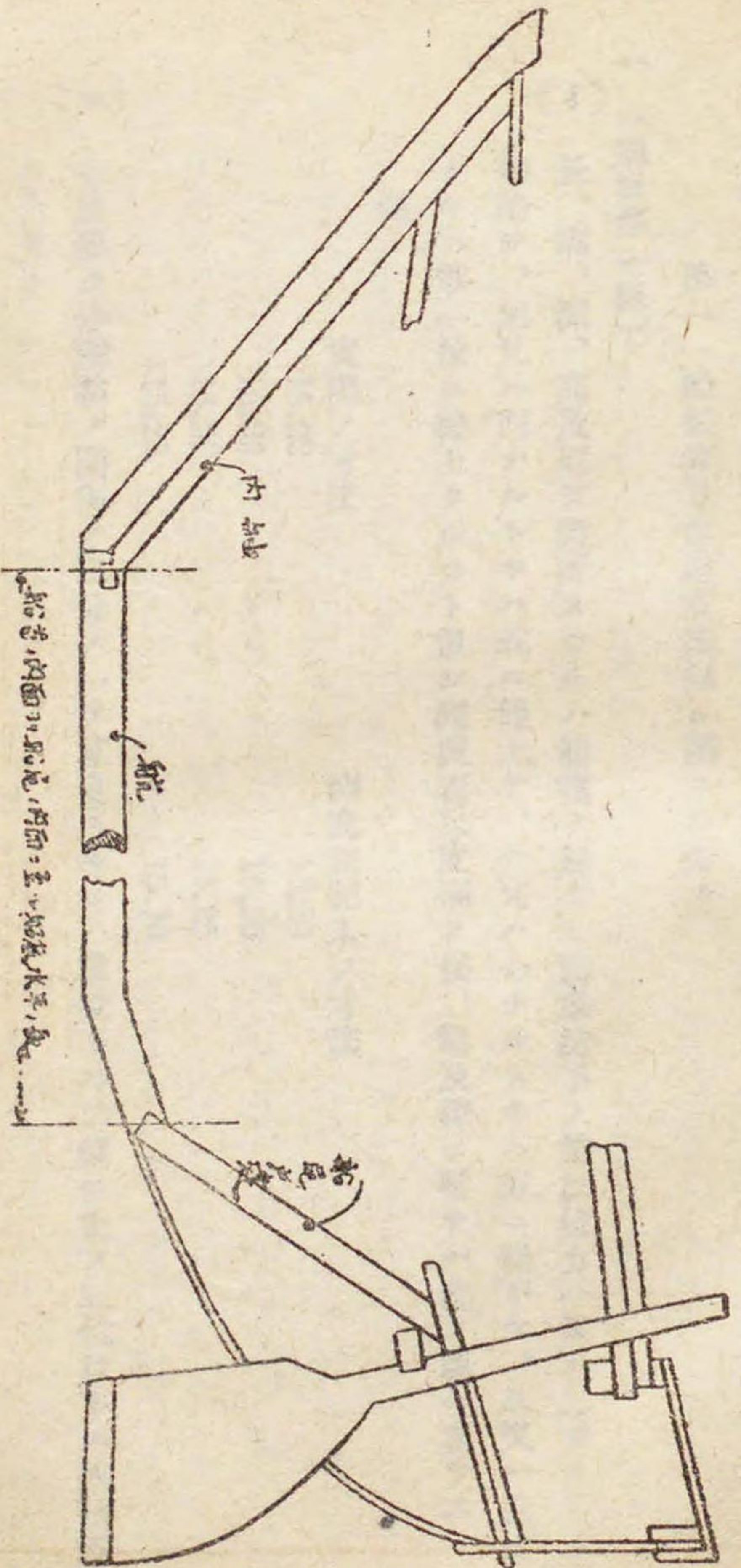
2.3. . . . 算合 船 深
ab ab 中間 算合 點 地
cd cd

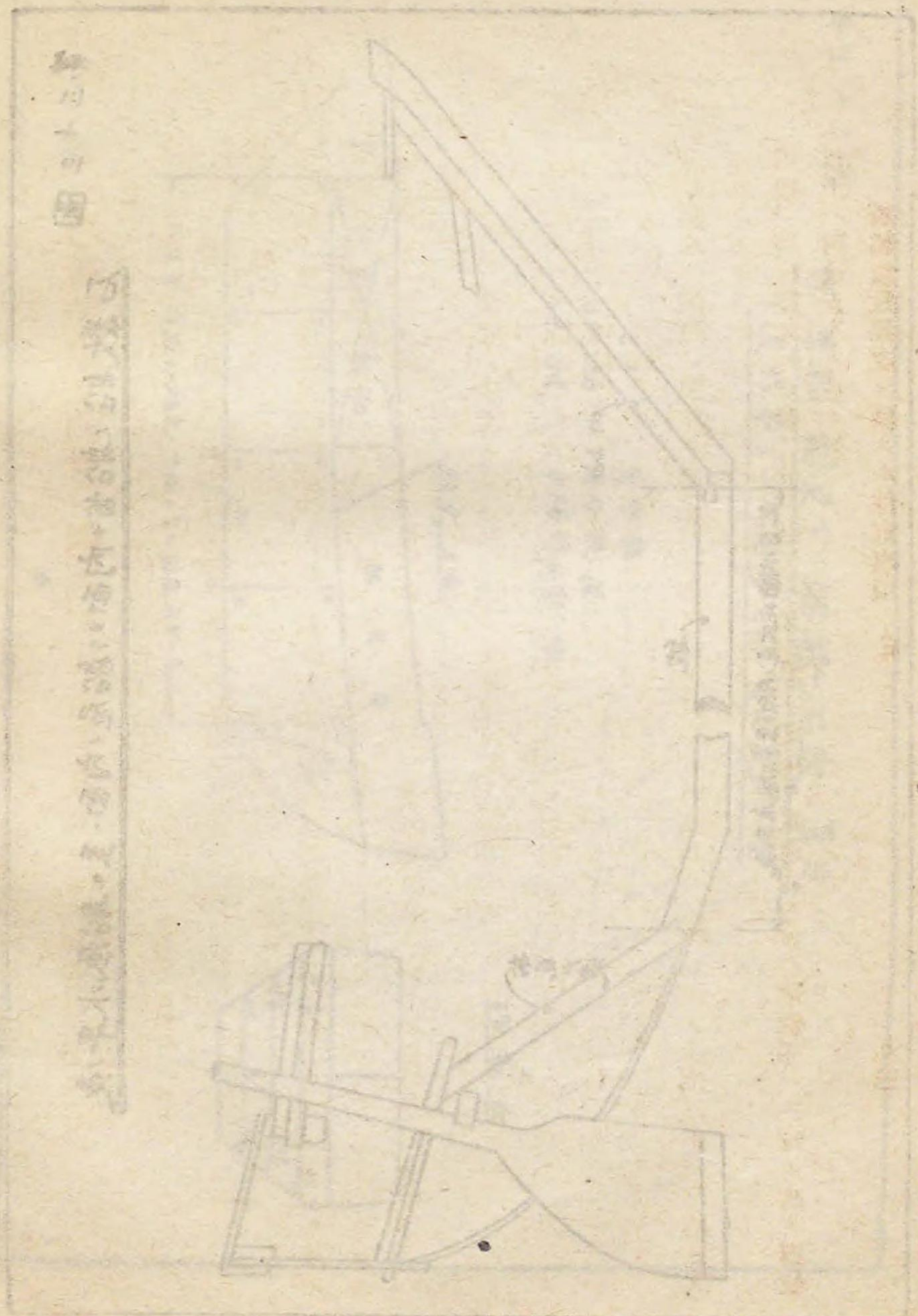


得 點 如

第三十三圖

石 數 船 艙 船 首 內 面 船 尾 內 面 至 船 底 水 平 尺





○船舶積量測度ニ關スル注意事項

大正三年九月二十八日
管發乾第三五五號通牒

改正大正三年十一月二十一日 大正四年一月二十八日 大正四年五月六日 大正四年九月八日
乾第四五四號通牒 乾第三六號通牒 坤第八一六三號通牒 乾第四〇一號通牒

第一 船舶積量具測度規程ニ關スル事項

一 (規程第一條)

(イ) 長、幅、深、高及厚ヲ測度スルニハ簡捷ヲ期スル爲單位下ノ第二位カ一又ハ二ナルトキハ切捨テ、三又ハ四ナルトキハ五ニ繰上ケ、六又ハ七ナルトキハ五ニ繰下ケ、八又ハ九ナルトキハ第一位ニ繰上クルコト但シ測度表尺度欄ノ長、幅及深ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

實際ノ寸法

測度表記入ノ寸法

15.22

15.20

15.23

15.25

15.27

15.25

15.28

15.30

(ロ) 分長點及分深點ノ間隔ノ三分ノ一ヲ算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入スルコト

(ハ) 船樓、甲板室又ハ水艙ノ分長點又ハ分深點ノ間隔ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ四位以下ハ四捨五入スルコト

船舶積量測度ニ關スル注意事項 (第一)

二 (規程第二條)

(イ) 第一號ノ終尾船梁トハ通普ノ場合ニ於テハ「ツランソムゼイム」ヲ謂ヒ「ツラムンソゼイム」ノ後方ニ横通梁アル場合ニ於テハ該横通梁ノ最終ノモノヲ謂フコト
(ハ)(ロ) 量噸甲板ノ後端尖形ヲナス場合ニ於テハ終尾船梁々矢ノ三分ノ一ヲ考フルニ及ハサルコト
第二號ノ「甲板ヲ備ヘサル船舶」トハ全然甲板ヲ備ヘサルモノヲ謂ヒ船首尾ニ少許ノ甲板アルモノハ「甲板ヲ備フル船舶」トシテ取扱フコト

二ノ二 (規程第三條及第六條) 船體ハ其ノ首尾ニ於テ曲度著シキヲ以テ首尾端ヨリ數ヘ第二ノ分長點ニ於ケル分深點及副分深點ノ位置ノ決定並幅ノ測定ニハ特ニ周密ナル注意ヲ要ス是レ位置ノ少差、測定方ノ小異ト雖幅ニ於テ著シキ差異ヲ生シ且之ヲ基礎トシテ算定シタル面積ニハ四ノ乘數ヲ乘スルヲ以テ其ノ結果噸數ニ多大ノ相違ヲ生スレハナリ

三 (規程第四條)

(イ) 分長點ニ於ケル深ノ測定ニ當リ船口下ノミニ設クル内張板アルトキハ其ノ厚ヲ最上分深點ノ幅ニ等布シタルモノヲ船底内張板ノ平均ノ厚ト看做シテ取扱フコト
(ロ) 車軸隧道内ニ於テハ内張板ノ實狀如何ニ拘ラス船内ニ船底内張板アルトキハ該隧道内ニモ之ト同様ノ内張板アルモノト看做シ、船内内張板ナキトキハ該隧道内ニモ内張板ナキモノト看做シ測度スルコト
(ハ) 測炭庫ニ於ケル船底内内張板及汽罐下ノ煉瓦又ハ「セメント」等ハ之ヲ無視スルコト

(ニ) 普通肋板カ凸面ナル場合ニ於テモ二重底内底板カ凸面ナル場合ニ準シ取扱フコト
四 (規程第九條) 形狀稍不正整ナル場合ニ於テモ正當ナル結果ヲ得ヘシト認ムルトキハ本條ニ準シ取扱ヒ差支ナキコト

五 (規程第十一條)

(イ) 特殊ノ構造トハ衝角、「ターレット」、「トランク」、「コルゲーテッドセル」等ヲ備フル船又ハ同型ノ船體ヲ二隻連結シタル船ノ如キ場合ヲ謂フ
(ロ) 特別ノ事由トハ積量互認ノ取極ヲ爲ササル外國ニ屬スル船舶ノ積量ヲ測定スヘキ必要起リタル場合ニ於テ載貨アルカ爲本令ノ測度法ニ依リ難キ事情アル場合等ヲ指スモノトス

六 (規程第十四條)

(イ) 木船ニハ區分測度ヲ行ハサルコト
(ハ)(ロ) 區分制度ニ於テハ各區分ノ量噸甲板ノ長ノ和ハ船ノ量噸甲板ノ長ニ等シクスルコト
各區分ノ分深點ノ等分數ハ量噸甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深ヲ測リ之ヲ第五條ノ表ニ當テテ決定スルコト從テ各區分ノ分長點ノ深ハ大小種々アルモ同一等分數ニ用ユヘキコト

七 (規程第十八條)

(イ) 甲板室ニ内張板ノ設ナキトキハ長又ハ幅ハ圍壁防撓材ノ内面迄測ラスジテ圍壁迄測ルコト
船樓端ニ付テモ同様ニ取扱フコト
船舶積量測度ニ關スル注意事項(第一)

(ロ) 平均ノ高ニ付テハ心得第二十四條ヲ準用スルコト

八 (規程第十九條第一項) 立法ノ主旨ハ對外關係上外國ノ規定ト牴觸ナキ限り成ルヘク總噸數及登簿噸數ヲ減少セシメントスルニ在リ故ニ登簿噸數減少セス徒ニ總噸數ヲ増加スル結果ヲ生スル場合ニモ上甲板ノ機關室ノ噸數ノ全部又ハ一部ヲ加フルヲ許可スルハ立法ノ主旨ニ合致セサルノミナラス弊害ヲ生スルノ虞アリ因テ本條ニ關シテハ左記ニ從ヒ處理スルコト

e 上甲板上ノ機關室ノ噸數

G eヲ加ヘサル前ノ總噸數

E eヲ加ヘサル前ノ機關室ノ實積噸數

(一) 螺旋推進器ヲ備フル船舶

(イ) $\frac{E+e}{G}$ カ百分ノ十三以下ニシテ eノ全部ヲ加フルモ $\frac{E+e}{G+e}$ カ百分ノ十三以下ナル場合ニ於テハノ e 全部又ハ一部ヲ加フルハ所有者ノ申請ニ任スルコト

(ロ) $\frac{E+e}{G}$ カ百分ノ十三以下ニシテ eヲ加フルトキハ $\frac{G+e}{E+e}$ カ百分ノ十三ヲ超エ百分ノ二十未滿ナル場合ニハ $\frac{E+e}{G+e}$ カ恰度百分ノ十三ヲ超ユル程度ニ於テ eノ最小額ヲ加フルコト

ヲ許ス此ノ場合ニ於テ所有者ヨリ申請アリタルトキハ検査官吏ニ於テ一應 eノ最小額ナリヤ否ヤヲ調査スヘキコト

(ハ) $\frac{E+e}{G}$ カ百分ノ十三ヲ超ヘ百分ノ二十未滿ニシテ eノ全部ヲ加フルモ $\frac{E+e}{G+e}$ カ百分ノ二十未滿ナルトキハ eヲ加フルコトヲ許ササルコト

(ニ) $\frac{E+e}{G}$ 又ハ $\frac{E+e}{G+e}$ カ百分ノ二十以上ナルトキハ eノ一部又ハ全部ヲ加フルハ所有者ノ申請ニ任ス但シ測度法第六條第二項ニ依ル百分ノ五十五ノ制限ニ依ルヘキ必要起リタル點ニ止ムルコト

(ホ) 新法ニ依リ測度ヲ受ケ國籍證書ヲ受有スル船舶ノ所有者カ修繕ニ因ラスシテ更ニ eノ加算方ヲ變更スル爲改測ヲ申請シタルトキハ登簿噸數ヲ減少スル結果ヲ生スル場合ニ限リ之ヲ許可スルコト

外車ヲ備フル船舶

(二) 外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ準シ取扱フコト

九 (規程第十九條第二項) 上甲板上ニ在ル機關室圍壁及之ニ附屬スル蔽圍シタル場所トハ上甲板上ニ在ル機關室及機圍室ノ採光通風ニ要スル場所ヲ包含スルコト

十 (規程第十九條第三項)

(イ) 操舵汽機室及副汽機室ノ境界ニ圍壁ナクシテ單ニ緣材アル場合ト雖其ノ境界分明ナルトキハ之ヲ圍壁ニ依リ區劃シタルモノト認メ差支ナキコト

汽機室圍壁頂板上ノ天窗ノ噸數ハ上甲板上ノ機關室ノ噸數ノ一部ト看做シ差支ナキコト

十一 (規程第二十條)

(ロ)

(イ) 船樓甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ出入口二箇以上ヲ備フルトキハ遮浪甲板ト上甲板トノ間ノ場所ニ對シ規定シタルト同程度ノ排水口又ハ排水孔ヲ備ヘサルモ其ノ噸數ヲ

船舶結量測度ニ關スル注意事項 (第一)

總噸數ニ算入セラルコト但シ旅客ニ供用セラルル場合ハ其ノ噸數ヲ總噸數ニ算入スルコト
(諸孔口ニ付テハ測度法規ト獨立シ検査法規ヲ適用セラルヘキヲ以テ測度ニ當リテハ先ツ
検査上ノ決定ヲ俟ツヘキモノトス)

(ロ) 出入口一箇ノミヲ有スル船樓ニシテ其ノ兩舷側ニ適當ノ排水口及排水孔ヲ備フルトキハ其
ノ噸數ヲ總噸數ニ算入セラルコト此ノ場合ニ於テハ排水口及排水孔ノ寸法及心距ハ遮浪甲
板ト上甲板トノ間ノ場所ニ對スル規定ニ準シテ取扱フコト但シ旅客ニ供用セラル場合ハ前
號ニ準シ取扱フコト

(ハ) 總噸數ニ算入セサル船樓甲板室其ノ他ノ場所内ニ格子張ノ固定ノ倉庫アルトキハ其ノ噸數
ヲ總噸數ニ算入スルコト
(ニ) 出入口、排水口又ハ排水孔ノ寸法又ハ配置方規定ノ明文ニ該當セサル場合並船樓又ハ甲板
室カ縦通隔壁ヲ以テ區畫サレタル場合等ニ於テ疑義ヲ生シタルトキハ凡テ何出ノ上決定ノ
コト

(ホ) 測度圖解第二十三圖ハ船樓又ハ甲板室ノ旅客ニ供用セラルル通路ノ末端開放セルモノ之ニ縁
材アルトキハ該通路ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入シ縁材ナキトキハ之ヲ算入セサルコトヲ示
セリ但シ該縁材ノ高ハ二呎ヲ以テ標準トシ二呎以下ノモノハ之ヲ無視スルコト
(ヘ) 前號ノ場合ニ於テ若シ左舷通路ト右舷通路トヲ連絡スル横通路アリ且一方ニハ前號ノ縁材
アルモ他方ニハ該縁材ナキ場合ニハ該通路全部ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入セサルコト

十二 (規程第二十一條第四號) 水密ニ閉鎖シ得サル様柵欄ヲ設クル方法ハ槍口縁板ニ柵欄柱ヲ
取付ケ縁板ト柵欄柱トノ間隙ヲ僅少トナシ覆布ヲ「バツテン」ニテ締付クル餘地ヲ存セシメ
サルモノナルコト

十三 (規程第二十二條)
(イ) 麵麩燒室ト籠ヲ備フル製麵麩室ヲ謂ヒ單ニ麵麩粉ヲ捏マル爲ニ供用セラルモノノ噸數ハ
之ヲ總噸數ニ算入スルコト但シ麵麩粉ヲ捏マル爲厨室ノ一隅ニ格子ヲ以テ仕切ラレタル如
キ部分アルトキハ之ヲ厨室同様ニ取扱ヒ差支ナキコト
屠畜室ハ厨室ト看做サス從テ其ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入スルコト

十四 (規程第二十四條)
(イ) 消防消毒用瓦斯發生機ニ附屬セル硫黃貯藏室ハ該機ニ供用セラルル場所ノ一部ト看做スコ
ト
(ロ) 探海燈ニ供用セラルル場所トハ探海燈ヲ据付ケタル場所ヲ謂フモノニシテ單ニ之ヲ格納ス
ル場所ヲ含マス若シ此ノ如キモノアルトキハ之ヲ水夫長倉庫ト看做スコト

十五 (規則第二十六條)
(ハ)(ロ)(イ) 「リネンロツカア」ハ食器室ト同様ニ取扱フコト
大工ノ仕事場ハ船員常用室ト認メサルコト
非旅客船(十二人以下ノ船客定數ヲ有スルモノ)ノ食堂、食器室、飲食料庫、洗面室、病室、
船舶積量測度ニ關スル注意事項 (第一)

藥局、厨室、麵麴燒室及便所ハ旅宴ニ併用スルモノト雖船員常用室ト看做スコト

(二) 船員常用室ト客室トニ併用スル採光通風ニ要スル場所ニシテ明瞭ニ假想面ヲ以テ分割シ得ルモノハ之ヲ分割シテ測度スルコト但シ分割シ難キモノハ全部船員常用室ト認メサルコト
(ホ) 船樓、甲板室、其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部内ニ在ル各室ノ噸數ヲ控除噸數トシテ別ニ算定シタル噸數ノ總和カ總噸數ニ算入スル爲一度ニ算定シタル噸數ヲ超ユルカ如キ結果ヲ得タルトキハ必ラス孰レカノ算定方法ニ誤謬アルモノニシテ且測度法第四條但書ノ主旨ニ反スルモノナルニ由リ相當訂正ヲ爲スヘキコト

(ハ) 海圖室、水夫長倉庫、帆船ノ帆庫、無線電氣機具室又ハ無線電氣機具ノ從事員室ト船員常用室トニ併用スル通路ハ之ヲ船員常用室ト看做スコト
(イ) 大工ノ仕事場、錨鎖庫、「ペイント」ロッカア「船燈室、練習船ニ於テ教習用ノ信號器具若ハ航海用器具ヲ備フル室又ハ漁船ニ於テ漁業用具ヲ藏置スル室ト船員常用室トニ併用スル通路ハ之ヲ船員常用室劃室ト看做スコト

十六 (規程第二十七條)
(イ) 海圖室ニハ海圖用卓子ヲ備フルコトヲ必要條件トナスコト從テ單ニ信號器具其ノ他航海用器具ヲ格納シ海圖用卓子ヲ備ヘサル室ハ海圖室ト認メスシテ水夫長倉庫ト看做スコト
(ロ) 練習船ニ於テ教習用ノ信號器具又ハ航海用器具ヲ備フル室アルトキハ之ヲ海圖室又ハ水夫長倉庫ト認メサルコト

十七 (規程第二十八條)

(イ) 艙内水艙ニシテ飲料水又ハ鑑水専用ノモノナルトキハ荷足水艙ト認メサルコト
(ロ) 荷足水艙トシテ控除スル爲ニハ該水艙カ鋼鐵水密構造ナルヲ要スルコト從テ木甲板ノミノ頂板ヲ有スル如キ水艙ハ假令荷足水艙トシテ使用スルモノト雖之ヲ控除セサルコト
(ハ) 荷足水艙ハ平素荷足水ヲ入レサルモノト雖其ノ構造及吸水裝置カ適當ナルモノナルトキハ荷足水艙ト看做シ差支ナキコト
(ニ) 燃料トハ固體又ハ液體燃料ヲ謂フ
(規程第三十二條)

十九 (規程第三十五條)

(イ) 「ペイント」ロッカア」及船燈室ハ水夫長倉庫ト認メサルコト但シ航海用船燈(碇泊燈ヲ含ム)ノミヲ格納スル船燈室アルトキハ之ヲ水夫長倉庫ト認ムルコト
(ロ) 救命浮帶ヲ格納スル室アルトキハ之ヲ水夫長倉庫ト認ムルコト
(ハ) 帆船ニ於テ帆庫ト水夫長倉庫トニ併用スル室アルトキハ其ノ室ノ名種ハ主要ナル用途ニ從フコト

船舶積量測度ニ關スル注意事項 (第一)

(ニ) 漁船ニ於テ主トシテ漁業器具ヲ藏置スル室アルトキハ之ヲ水夫長倉庫ト認メサルコト

第二 船舶積量測定心得ニ關スル事項

- 一 (心得第四條) 標準距離ハ便宜建物ノ壁又ハ基礎ニ於ケル距離ヲ鋼尺ニテ測リ設定スルコト
- 二 (心得第五條) 「ピーク」ハ貨物ヲ積載スル場合ト雖本條ノ適用ニ就テハ之ヲ貨物艙ト看做ササルコト

三 (心得第六條) 低船首尾樓内ニ於テ上甲板ノ延長面ヲ假定シテ之ヲ上甲板ト看做ストキハ該樓内ノ諸室ノ噸數ヲ算定スル場合ニ於テモ此ノ假定面ニ依リ上甲板上ノ部分ト上甲板下ノ部分トヲ區別シテ取扱フコト

四 (心得第七條第二號)

- (イ) 水平距離トハ龍骨ニ平行ナル距離ト解釋スルコト但シ船首ノ測點ヨリ終尾ノ測點迄直線距離ヲ測リ得ル船舶ニ於テハ該直線距離ヲ採ルモ差支ナキコト
- (ロ) 特大ナル「シーア」ヲ有スル船舶ノ量噸甲板ノ長ハ水平距離ヲ採ルコト

五 (心得第七條第三號)

- (イ) 木製帆船ニ於テ船尾ニ戸建アルモ戸建ヨリ船尾迄外板及甲板ニテ蔽圍(水密構造)セララル場所アルトキハ量噸甲板ノ長ハ戸建ニ止メス船尾迄測ルコト
- (ロ) 船尾戸建ノ傾斜著シキトキハ船尾分長點ノ深ヲ零トシ傾斜著シカラサルトキハ之ヲ測定スルコト

六 (心得第七條第四號)

- (イ) 木製帆船ニ於テ甲板ノ下面ト船首材トノ交叉部ヲ標準トシテ測ルトハ肋骨及内張板ヲ無視スルノ意味ニ非サルコト
- (ロ) 木製帆船ニ於テ船首ニ戸建アルモ戸建ヨリ船首材迄外板及甲板ニテ蔽圍サル場所アルトキハ量噸甲板ノ長ハ戸建ニ止メス船首材ヲ標準トシテ測ルコト

七 (心得第八條)

二重底又ハ肋板ノ頂面ノ延長面トハ普通ノ構造ニ依ル肋板ノ漸次上昇スル如キ面ヲ謂フ深ヲ該延長面迄測ルニハ「ソリツドセメント」アルモ之ヲ無視スルコト

八 (心得第十條錢三項)

- (イ) 普通ノ場合ニ於テハ本文ノ如ク梁受板、艙内縦通材及彎曲部縦通材ヲ内張板ノ一部ト看做シ有ノ儘ニテ船舶ノ幅ヲ測リテ差支ナキモ若シ特大ナル角材ヲ使用シタルトキハ相當斟酌ヲ加フルコト

九 (心得第十一條)

木船ノ内張板ニ付テハ己ニ第十條ニ規定シタルヲ以テ本條ハ鐵鋼船ノ場合ノミヲ規定シタルモノナルコト

十 (心得第十二條)

但書ノ規定ヲ適用スルニ當リ場所ニ依リテ肋骨ノ心距ニ差異アルトキハ各一分長點毎ニ考フルコト

船舶積量測定ニ關スル注意事項 (第二)

十一 (心得第十三條)

艙内トハ上甲板下ノ甲板間ヲモ合メル意味ナルコト
右甲板間ニ旅客設備等アリテ内張板ニ厚薄アルトキト雖幅ハ測量スヘキ箇所ノ實際ノ寸法
ヲ探ルコト但シ例ヘハ一部ニ在ル便所ニ内張板ナク其ノ他ニハ内張板アリテ偶々該便所
ニ於テ幅ヲ測ルカ如キ場合ニハ相當斟酌ヲ加フルコト

十二 (心得第十五條)

肋骨ノ深ノ階段トハ船ノ上下及前後ノ方向ニ於ケル階段ノ意味ナルコト

十三 (心得第十九條)

全容積ヨリ算入スヘカラサル部分ノ容積ヲ減スル場合ニ於テ其ノ部分ノ寸法ヲ測定スルニ
ハ外法ヲ探ルコト

十四 (心得第二十條)

船舶積量測度法第三條及第四條ニ掲クル副汽罐副汽機ハ本條ニ關係多キヲ以テ左ニ其ノ取
扱ヲ説明スヘシ
船舶積量測度法第三條及第四條ニ掲クル副汽罐副汽機ハ本條ニ關係多キヲ以テ左ニ其ノ取
扱ヲ説明スヘシ
機關室又ハ其ノ圍壁内ニ在ル副汽機ハ凡テ主機關ト連結セルモノト看做シ之ニ供用セラル
ル場所ハ測度法第三條第二號又ハ第四條第三號ノ機關室トシテ取扱フコト即チ上甲板上ニ

(イ)

機關室又ハ其ノ圍壁内ニ在ル副汽機ハ凡テ主機關ト連結セルモノト看做シ之ニ供用セラル
ル場所ハ測度法第三條第二號又ハ第四條第三號ノ機關室トシテ取扱フコト即チ上甲板上ニ

(ロ)

主機關ト連結シタル副汽罐ニ供用セラルル場所ハ機關室又ハ其ノ圍壁ノ内外ニ在ルヲ問ハ
ス機關室トツテ取扱フコトヘ前號ニ同シ
主機關ト連結セサル副汽罐ニ供用セラルル場所ハ上甲板上ニ在ルトキハ測度法第三條第一
項第一號ニ依リ除外ヲナシ、上甲板下ニ在ルトキハ塗水唧筒ト連結シタル場合ニ於テハ測
度法第四條第四號ノ控除ヲナシ又之ト連結セサル場合ニ於テハ同法同條第七號ニ該當スル
場合ニ限り控除ヲ爲スコト

(ニ)

機關室又ハ其ノ圍壁外ニ在ル主機關ト連結シタル副汽罐ニ供用セラルル場所ハ上甲板上ニ
在ルトキハ測度法第三條第一項第四號ニ該當スル場合ニ限り之ヲ除外シ、上甲板下ニ在ル
トキハ塗水唧筒ト連結シタル場合ニ於テハ同法第四條第四號ニ依リ控除ヲナシ又之ト連結
セサル場合ニ於テハ同法同條第七號ニ該當スル場合ニ限り控除ヲナスコト

(ホ)

機關室又ハ其ノ圍壁外ニ在ル主機關ト連結セサル副汽機ニ供用セラルル場所ハ上甲板上ニ
在ルトキハ測度法第三條第一項第一號ニ依リ除外ヲナシ上甲板下ニ在ルトキハ塗水唧筒ト
連結シタル場合ニ於テハ同法第四條第四號ニ依リ控除ヲ爲シ又之ト連結セサル場合ニ於テ
ハ同條第七號ニ該當スル場合ニ限り控除ヲナスコト

船舶積量測度ニ關スル注意事項 (第二)

十五 (心得第二十二條)

第一號ノ二重底ノ階段ノ高ハ副材ノ頂面ヨリ頂面迄ノ距離ヲ採ルコト
第三號及第四號ハ假想面ヲ採リ測度スルモノニシテ機關室ノ噸數ヲ算定スル場合ニ於テモ
同一ノ假想面迄測ルコト

十六 (心得第二十四條)

甲板間ノ高ヲ測ルニハ一部ニ限り設ケタル天井張板ハ之ヲ無視スルコト
船樓又ハ甲板室ノ高ヲ測ル場合ニ於テモ前項同様ニ取扱フコト但シ船樓又ハ甲板室ニシテ
全部天井張板ヲ有スルモノニ付テハ天井張板下面迄ノ高ヲ測ルコト

十七 (心得第二十六條)

平均ノ高ニ付テハ第二十四條ヲ準用スルコト
第一項又ハ第二項ノ規定ハ測度スヘキ場所ノ下方ノ甲板カ船尾ニ於テ鋭尖ナル形狀ヲ有ス
ル場合ニ於テハ適當ニ應用セラルルモ其ノ他ノ場合及短キ船樓ニ於テハ第三項ノ規定ニ依
リ後端ノ幅ヲ定ムルコト

十八 (心得第二十七條)

前項ノ幅ハ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船尾材前面ヨリ船尾材前面ト船尾内面トノ距離ノ三
分ノ二ニ相當スル所ニテ測リタルモノヲ採ルコト
上甲板上ニ於テ片舷側ノミニ外板ヲ有スル船室カ獨立ニ存在スルトキ
之ヲ船樓ト認メサルコト

十九 (心得第二十八條)

操舵機具トハ舵柄、舵弧、操舵汽機、手用操舵機及操舵用羅針盤等ヲ謂フ
揚錨機具ニ供用セラルル場所トハ「ウインドラス」「ストツパア」及錨鎖ノ滑走ニ要スル甲板
上ノ場所ヲ謂ヒ錨鎖庫ヲ含マシメサルコト

二十 (心得第二十九條)

鐵鋼板ヲ隔壁ニ「ボルト」締メトシタルモノハ常設閉鎖裝置ト認ムルコ
ト

二十一 (心得第三十一條)

厨室ニハ日本料理ヲナス場所ヲモ含ムコト

二十二 (心得第三十二條)

船樓又ハ甲板室内ニ在ル小艙口ニ梯子ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ下ノ船員常用室(食器
室及飲食料倉庫ヲ除ク)又ハ客室ニ達スルモノナルトキハ之ヲ昇降口ト認メ該艙口ノ面積
ニ船樓又ハ甲板室ノ高ヲ乗シタル容積及下方梯子上ノ三角形ノ場所(上甲板上ナルトキハ)
ノ容積ヲ出入口ノミニ供用セラルル場所ト認ムルコト

(イ)

前項ノ梯子カ直立スルモノナルトキハ三角形ノ場所ノ容積ハ無キモノト認ムルコト又前項
ノ小艙口カ圍壁ヲ有シ出入口室ト認メ得ルモノナルトキハ其ノ下ノ船員常用室(食器室及
飲食料倉庫ヲ除ク)又ハ客室ニ達スルモノト倉庫又ハ艙内ニ達スルモノナルトキハ其

(ロ)

船舶積量測度ニ關スル注意事項 (第二)

(ハ) ノ噸數ハ之ヲ出入口室ノ噸數ト認ムルコト
 「グラントエントランス」ニ設ケタル中段ヲ有スル梯子ノ下部ハ物入レトシテ使用セサルモノハ出入口ノミニ使用スル場所ト看做スコト但シ實際物入レニ使用スルトキハ此ノ限ニ在ラサルコト
 (ニ) 小蒸汽船ニ於テ上甲板ヨリ船室ニ出入ノ爲梯子ヲ有スル出入口ヲ設ケタルトキハ(普通頂部ニ曳戸ヲ有ス)該梯子ヲ水平ニ測リタル長ト出入口ノ幅ト上甲板上ノ船室ノ高ニテ圍マル場所ヲ出入口ノミニ供用セラルルモノト看做スコト但シ甲板室ノ一部ト雖出入口室トシテ特ニ設ケタル場所アルトキハ該場所ヲ採ルコト

二十三 (心得第三十三條)

(イ) 暴露甲板ニ在ル圍壁艙口ニ非サル艙口又ハ圍壁載炭口ニ非サル載炭口ハ徑、長又ハ幅ノ孰レカカ三呎以下ナルトキハ其ノ噸數ハ之ヲ艙口ノ噸數ニ算入セサルコト
 (ロ) 圍壁艙 又ハ圍壁載炭口ニシテ二層以上ノ暴露甲板ヲ貫通スルモノナルトキハ該口ノ寸法如何ヲ論セス最下暴露甲板上ノ部分ノ噸數ハ之ヲ艙口ノ噸數ニ算入シ其ノ下ノ部分ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入スルコト
 (ハ) 圍壁艙口又ハ圍壁載炭口ノ貫通スル最頂甲板ノミカ暴露甲板ナル場合ニハ該口ノ徑、長又ハ幅ノ孰レカカ三呎以下ナルトキハ其ノ暴露甲板上ノ部分ノ噸數ハ之ヲ艙口ノ噸數ニ算入セス、三呎ヲ超ユルトキハ之ヲ艙口ノ噸數ニ算入ス又暴露甲板下ノ部分ノ噸數ハ該口ノ寸

(イ) 法如何ヲ問ハス之ヲ艙口ノ噸數ニ算入セスシテ總噸數ニ算入スルコト
 (ニ) 第四項ノ遮浪甲板下ノ上甲板トハ遮浪甲板下ノ總噸數ヨリ除外サレタル部分ノ上甲板ト解スルコト
 (ホ) 帆船ニ於テ艙口縁材ノ上ニ假設ノ縁材ヲ設ケタル部分ノ噸數ハ之ヲ艙口ノ噸數ニ算入セサルコト
 (ヘ) 遮浪甲板ト上甲板トノ間ノ場所、船樓、甲板室又ハ其ノ他ノ場所ニ於テ總噸數ヨリ除外セラレタル部分ニ在ル艙口又ハ載炭口ハ暴露甲板ニ在ル艙口ト同様ニ取扱フコト
 (ト) 遮浪甲板ト上甲板トノ間ノ場所、船樓、甲板室又ハ其ノ他ノ場所ニシテ其ノ一部方規程第二十條及第二十一條ニ依リ總噸數ヨリ除外セラレタル場合ニ於テ該除外ノ部分ニ面スル(假令一面タリトモ)圍壁艙口又ハ圍壁載炭口アルトキハ該口ハ暴露甲板ニアルモノトシテ其ノ寸法如何ヲ論セス其ノ噸數ハ之ヲ艙口ノ噸數ニ算入スルコト
 (チ) 遮浪甲板ト上甲板トノ間ノ場所、船樓、甲板室及其ノ他ノ場所ノ船室内ニ在ル圍壁艙口又ハ圍壁載炭口ノ噸數ハ之ヲ艙口ノ噸數ト看做サスシテ直ニ總噸數ニ算入スルコト
 二十四 (心得第三十四條) 第二項ノ通風管トハ角形ノモノヲモ含ムコト但シ角形ニシテ其ノ構造圍壁ト認メ得ルモノナルトキハ第一項ニ依リ取扱フコト
 三十五 (心得第三十五條)
 (イ) 食堂以外ノ談話室喫烟室等ニテモ本文ト同様ノ取扱ヲ爲スコト
 船舶積量測量ニ關スル注意事項 (第二)

(ロ) 「中間ノ場所」ノ噸數ヲ豫定スルニハ食堂又ハ相當室直上ノ甲板口ノ面積ニ高ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スルコト

二十六 (心得第三十六條)

(イ) 便所トハ大便所及小便所ヲ意味スルコト
(ロ) 洗面器ヲ備付ケタル場所ハ便所ト認メス、便所ト洗面器トヲ同室内ニ設ケタルトキハ便所トシテ要スル場所ノ噸數ノミヲ便所ノ噸數トシテ算定スヘキコト
(ハ) 便所、浴室及洗面器ヲ同室内ニ設ケタルトキハ便所トシテ要スル場所(便所専用ノ通路ヲモ含ム)ノ噸數ノミヲ便所ノ噸數トシテ算定スヘキコト

二十七 (心得第三十七條)

(イ) 豫備操舵室ヲ設クル船舶ニ於テハ該室ノ噸數ヲモ操舵室ノ噸數ニ算入スルコト
(ロ) 船長室ト海圖室トヲ同室内ニ設ケタルトキハ海圖室トシテ要スル場所ノ噸數ノミヲ海圖室ノ噸數トシテ算定スルコト

二十八 (心得第三十八條)

(イ) 船員常用室ノミナラス一般ニ登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除セントスル室及場所ヲ測度スルニハ成ルヘク測度前ニ於テ船舶法施行細則第四十四條第四號ノ標示ヲナサシムル様注意ヲ與フルコト
(ロ) 帆船ニ於テ往々見ル如キ船員常用室ト水夫長倉庫トヲ同室内ニ設ケタルトキハ之ヲ區分シ

(ハ) テ測度シ何々船員室及水夫長倉庫ト標示セシムルコト
(イ) 帆船ニ於テ船員常用室ノ局部ニ籠、押入等ヲ据付ケタルモノノ如キハ全部船員常用室ト認メ差支ナキコト

二十九 (心得第三十九條)

(イ) 海員ニ非スシテ船中ニ於テ職務ヲ行フ者トハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人、練習船ノ教官及生徒、海底電線敷設船、工作船又ハ救助船ノ乗組技術者及職工、病院船ノ醫師及看護人等ヲ謂フ
(ロ) 海員ト海員ニ非スシテ船中ニ於テ職務ヲ行フ者ト同室内ニ雜居スルトキハ各占有セル場所ヲ明瞭ニ區分シ得ル場合ニ限り區分シテ測リ不明瞭ナルトキハ船員常用室ト認メサルコト
(ハ) 心得第三十九條第一項ニ掲クル船室ト船員常用室トニ併用スル通路ハ之ヲ船員用常室ト看做スルコト

三十 (心得第四十一條)

本條ニ付テハ本注意書第七號(心得第八條)ト同條ニ取扱フコト
三十一 (心得第四十二條)
主汽管カ石炭庫ヲ貫通スル場合ニ於テ之ヲ蔽圍シタル箱ヲ備フルトキハ其ノ噸數ハ之ヲ機關室ノ噸數ニ算入スルコト

(ロ) 車軸隧道ヨリ上甲板ニ至ル通路カ尙上甲板上ニ延長スルトキハ該上甲板上ノ部分ノ噸數ハ上甲板上ノ機關室ノ噸數ノ一部トシテ取扱ヒ船樓内ニ設クル火夫専用通路モ右ニ準スルコト

船舶積量測度ニ關スル注意事項 (第二)

三十一ノ二 (心得第四十三條) 塗水ヲ引キ得ル「バラストポンプ」及「ゼネラルサーヴィノスポンプ」ハ塗水排出ニ供用セラルル蒸氣唧筒ト見做シ該唧筒ト連結シタル副汽鐘ハ主唧筒ト連結シタルモノトシテ取扱フコト

三十一ノ三 (心得第四十四條) 主汽鐘ノ給水唧筒ニ連結シタル副汽鐘ハ主機關ト連結シタルモノトシテ取扱フコト

三十二 (心得第四十五條)

「取扱ニ必要ナル場所」ノ認定ニ付テハ本注意第十九號(第二十八條)ト同様ニ取扱フコト

(イ) 特ニ構成シタル豫備螺旋軸置場トハ車軸室ノ一部ニ「レッセス」ヲ設ケタル場合ヲ謂フモノニシテ豫備螺旋軸力車軸室ノ一部ニ横ハレル如キ場合ハ之ヲ考フルニ及ハサルコト

(ハ) 「ダウントンポンプ」ニ供用セラルル場所ハ機關室内ニ在ルトキハ之ヲ機關室ノ一部ト看做シ機關室外ニ在ルトキハ之ヲ機關室ト認メサルコト

(ニ) 特殊ノ目的ニ使用セラルル機械トハ救助船ノ吸水唧筒、浚渫船ノ浚渫唧筒、冷蔵船ノ冷蔵機、給水船ノ送水唧筒等ヲ謂フ

第三 船舶積量測定記入方ニ關スル事項

一 字句、數字ハ總テ鮮明ニ記入スヘシ

二 各表中ノ相當欄ニ記入ノ餘白ナキ場合ニ於テハ付箋ニ記入シ測定主任之ヲ割印スヘシ

十三 訂正又ハ削除ハ朱書シ欄外ニ幾字訂正、又ハ幾字削除ト記入シ測定主任之ニ捺印スヘシ

四 前二號ノ割印又ハ捺印ハ小形ノ認印ヲ用ユヘシ

四ノ二 測定シタル船舶ニ於テ各表ニ揚タル「新」改「旅客」非「旅客」又ハ「特種船ノ用途」ノ各欄中必要ナキモノハ削除スヘシ但シ捺印ヲ爲スニ及ハス

四ノ三 船舶番號未定ノ船舶ニ付テハ相當欄ヲ空白ノ儘ト爲スヘシ

四ノ四 船舶番號、甲板ノ層數及推進器ノ數ハ亞刺比亞數字ヲ用キ記入スヘシ(船舶法取扱手續第三號第二項參照)

五 總噸數百噸以上ノ汽船又ハ機關ヲ有スル帆船ノ總噸數算定ニハ第一號表ヲ使用シ區分測定又ハ副分深點ヲ設ケタル場合ハ第二號表ヲ使用スヘシ

六 遮浪甲板ト上甲板トノ間ノ場所ニシテ總噸數ニ算入スヘキ場所ノ噸數ハ機關室ヲ除キ其ノ所在及狀況ニ應シ船樓又ハ甲板室ノ噸數ニ算入スヘシ

七 船首尾樓ノ噸數ニシテ上甲板上ノ噸數ニ算入スヘキ部分ハ船首尾樓ノ噸數ニ算入シ記入スヘシ

七ノ二 出入口アル爲船樓内ノ大部分ヲ除外シタル場合ニ於テモ殘部船室ノ噸數ハ船樓ノ噸數トシテ記入スヘシ

八 甲板室、船員當用室、機關室欄等ノ記入方ハ左記ニ依ルヘシ

船舶積量測定ニ關スル注意事項 (第三)

- (イ) 各室ハ何々船樓内、何々船樓甲板上又ハ何々甲板上等ノ如ク其ノ所在ニヨリ位置ヲ明示シ上下、前後、左右等順序ヲ立テ排列記入スヘシ
- (ロ) 一區劃トシテ算定スヘキ場所ニシテ形狀複雑ナル爲ニ箇以上ニ區分測定シ加減ヲナス場合ニ於テハ各區分ノ長、幅及高ハ別々ニ記入シ其ノ容積ヲ算定シ減スヘキ部分ハ負數記號ヲ付シ下行ニ加減シテ得タル總容積ヲ記入シ之ニ該當スル噸數ヲ記入スヘシ
- (ハ) 船樓又ハ甲板室ノ容積ヲ「シンブソン」式ニ依リ算定スル場合ニ於テ負數容積ノ部分アルトキハ其ノ長、幅、高ヲ別欄ニ記入シ其ノ容積ヲ算定シ一見該船樓又ハ甲板室ノ負數容積ノ内容ナル事ヲ明瞭ナラシムヘシ
- (ニ) 機關室ノ容積ハ總テ上甲板ノ上下ニ分チ尙汽鐘室、汽機室、車軸室及通路ニ分類シ各噸數ヲ算定スヘシ
- (ホ) 甲板室小計噸數欄ニハ船樓ノ噸數ヲ算入スヘカラス
- 八ノ二 「其ノ他ノ場所」ノ欄ニハ例ヘハ新式貨物船ニ於テ往々見ルカ如キ艙口ト艙口トノ中間ニ揚貨機臺ヲ構成スル爲上甲板ノ凸起セル部分ノ噸數又ハ船樓甲板室ノ執レトモ判別シ難キモノノ噸數ヲ記入スヘシ
- 九 區分測度又ハ荷足水艙ノ測度ノ場合ニハ位置ノ行ニ仕切ヲ設ケ各區分又ハ水艙名ヲ記入スヘシ
- 十 外車ヲ備フル船舶ニアリテハ控除スヘキ機關室ノ噸數欄ノ側ニ「外車」ト明記スヘシ

- 十一 第六號表中ノ尺度ノ記入方ハ左記ニ依ルヘシ
 - (イ) 船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長トハ航ト内軸及船尾戸建トノ各交叉部間ノ距離ヲ探ルヘシ
 - (ロ) 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅ハ船梁下ノ船艙ニ於ケル最大幅ヲ探ルヘシ
 - (ニ) 回漕船以外ノ船舶ニ在リテハ腰當梁ノ中央ニ於テ其ノ上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深ノ代リニ船舷ノ上端ヨリ航ノ上面ニ至ル深ヲ探ルヘシ

- 十一ノ二
 - (イ) 表中尺度欄ノ寸法ト甲板下ト噸數算定欄中ノ寸法トハ必ラス相對照シ長ニ付テハ船首材、船尾材、内張板及船尾材後方延長部、幅ニ付テハ肋骨及内張板、深ニ付テハ梁矢、肋板、肋根材及内張板ノ關係ニ注意シ算定記入スヘシ
 - (ロ) 表中尺度欄ノ長トハ外軸ト内軸トヲ併有スル木船ニ付テハ外軸ノ外面迄ノ寸法ヲ記入スヘシ
 - (ハ) 表中尺度欄ノ深ハ航ト加敷トヲ併有スル噸數木船ニ付テハ加敷上面迄ノ寸法ヲ記入スヘシ
 - (イ) 左記ノ場合ニ於テハ成ルヘク備考欄、欄外又ハ付箋ニ説明又ハ圖解スヘシ
 - (ロ) 特殊ノ構造ナル爲ニ特別ノ測定法ヲ行ヒタルトキ
 - (ハ) 鋼鐵船ノ測度ニ際シ内張板ノ有無又ハ厚薄アルトキ
 - (イ) 肋骨、肋板又ハ二重底ノ深ニ階段アル爲或ハ測定場所ノ形狀不正整ナル爲寸法正整ナラサ

船舶積量測度ニ關スル注意事項 (第三)

ルトキ

二重底内底板ノ凹凸アルトキ

(ホ)(ニ) 船樓又ハ甲板室ノ全部又ハ一部ニシテ側壁又ハ端壁ニ出入口アル爲總噸數ニ算入セサル場所アルトキ

船主ノ申請ニヨリ總噸數ニ加エタル上甲板上ニ於ケル機關室ノ部分アルトキ

(ト)(ハ) 改測ノ場合ニ於テハ實際寸法ヲ採リタル部分ノ噸數ニ依リ手数料ヲ徴收スヘキニ付其ノ噸數カ表中ニ明瞭ナラサル場合ニ於テ其ノ説明ヲナスヘキ必要アルトキ

其ノ他測定方ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナル又ハ參考トナル諸事項

十三(チ) 本省ニ於テ再測ノ爲付箋ヲ付シタル場合ニ於テモ必ラス本注意事項第三ニ依リ記入シ改竄ヲ爲スヘカラス又訂正ノ部分多クシテ表ノ全部ヲ書直ストキト雖調査上ノ參考ノ爲付箋アル表ヲ添附スヘシ

十四 船舶積量改測規則第二條末項ニ依リ改測ヲ行ヒタル場合ニ於テハ其ノ旨備考欄ニ記入スヘシ

第四 測度準備及實測ニ關スル事項 大型汽船ヲ標準トス

(一) 測度準備

一 測度ニ對シテハ成ルヘク左ノ者ヲ手傳人トシテ使用スルコト
(イ) 運轉士 一人

(ロ) 外ニ見習生一人ヲ加フレハ尙可ナリ
舵夫、大工、水夫又ハ見習生 二人

二 測度主任ハ測度手帳、折尺 吋及尺、鉛筆 細字及粗字、白墨、蠟燭及「マツチ」ヲ携帯スルコト

三 測度手傳人ニハ左ノ物品ヲ携帯セシムルコト
卷尺 六十六呎及三十三呎各一個
物差 二箇

(ハ) 甲板間ノ高八呎以上ノ船舶ニハ長五呎ノモノ、甲板間ノ高八呎以下ノ船舶ニハ長四呎ノモノヲ用ウルヲ便トス但シ兩者ヲ混用セサルコト

尺棒 二十呎、十五呎、十二呎又ハ十呎ノモノ一箇若ハ二箇

何レモ約一時半角ノモノニシテ一呎毎ニ目盛りヲ爲シ磨損ヲ防ク爲兩端ニ金屬片ヲ附シ置ケハ尙可ナリ

測度セムトスル船舶ノ艙内ノ深ニ應シ適當ノ長ノモノヲ用ウルコト
尺棒ニハ約四呎毎ニ白布ヲ結附ケ置キ之ヲ動かシ得ル様爲シ置クコト

(ホ)(ニ) 白墨、蠟燭及「マツチ」
錘線

四 測度手傳人タルヘキ運轉士ニハ測度方法ノ大意ヲ説明シ置クコト

五 測度手傳人ニハ左ノ注意ヲ與フルコト

船舶積量測度ニ關スル注意事項 (第四)

- (イ)(ロ) 卷尺使用ノ際ハ測度スヘキ場所ノ一端ニ金物ノ線端ヲ當ツヘキコト
- (ハ) 船内ノ幅ヲ測ルニハ總テ内張板ノ内面迄、内張板ナキ所ハ肋骨ノ内面又ハ外板迄ヲ測ルヘキコト
- (ニ) 船内ノ幅ヲ測ルニハ特ニ相手ト同(セクシヨシ)ノ所何番目ノ梁又ハ何番目ノ肋骨ノ如シ及同位置上ヨリ何番目ノ内張板ノ上端等ノ如シ同位置内張板ノ内面助骨ノ内タルヘキコトニ注意シ前後又ハ上下ニ偏シ戒ハ一方ハ内張板他方ハ肋骨測ルカ如キコトナカラシムルコト
- (ホ) 寸法ヲ讀ムモノハ必ス内張板迄又ハ肋骨迄等ト呼ヒ記帳ノ際必要アルトキハ更ニ繰返シ之ヲ呼フヘキコト
- (ル) 測度スヘキ位置ニ卷尺ヲ引張りタル儘寸法ヲ讀ムハ困難ニ付引張りタル後改メテ寸法ヲ讀ムヘキコト
- (ヘ) 卷尺其ノ他ノ目盛數字ノ讀違ヲ爲ササル様ニスヘキコト
例ヘハ9ヲ6ト讀違ヲ爲シ又ハ5、5、5ト讀ムヘキナ五、五、五ト讀ミテ誤ルカ如シ
- (チ) 大型船ニ在リテハ船内上方ノ場所ヲ測ル場合ニ於テ寸法ヲ讀ムモ聽取レサル方又ハ聽違ヲ生スルコトアリ之ヲ避クル爲測度シタル場所ノ内張板等ニ白墨ニテ寸法ヲ書キ附クヘキコト又内張板以外ノ場所即チ肋骨若ハ外板迄測リタルヘキトキハ注意ノ爲F、S、等ノ文字ヲスヘキコト
- (ル) 各室ノ測度ハ長、幅、深ノ順序ニ依リ之ヲ行フヘキコト

- (ヌ)(リ) 長ハ船ノ長ニ沿ヒタル寸法ヲ採ルヘキコト
- (ル) 卷尺、物差又ハ尺棒ノ類ハ一船ヨリ他船ニ移ルトキ置忘レ時間ヲ浪費スルコトアルヲ以テ之ヲ避クル爲保管者ヲ定ムルコト
- (ヲ)(ワ) 船内測度ノ際ハ豫メ船口ノ蓋板ヲ適當ニ除去シ且船底又ハ船側ノ支障物ヲ除去セシムルコト又圖面アル船舶ニ在リテハ豫メ圖面ニテ分長點ノ位置ヲ定メ該部ニ相當スル場所ノ取片付ヲ命シ置クコト
- (イ) 甲板室測度ノ際ハ豫メ錠ヲ開カシメ置クコト
- (ロ) 船員常用室等ニハ豫メ標示ヲ爲サシメ置クコト若シ永久ノ標示間ニ合ハサルトキハ假ニ紙片等ニテ標示セシメ置クコト
- 六 測度主任ハ測度前左ノ事項ニ注意スルコト
- (イ) 分明シ居ル限リ垂直線間ノ長、船體最廣部ノ幅、「モールデツド、デツブス」、甲板間ノ高助骨ノ心距、肋骨ノ深、二重底ノ深、内底板ヲ内張板及甲板ノ厚、梁矢ノ高、二重底ニ階段アルトキハ其ノ高ノ差異等ヲ測度手帳ニ豫メ記入シ置キ實測ニ際シ對照ニ供スルコト
- (ロ) 圖面アル船舶ニ在リテハ豫メ分長點ノ位置、船樓ノ長、總噸數ニ算入スヘキ場所、總噸數ヨリ除外スヘキ場所、船員常用室其ノ他ノ諸室ヲ調査シ其ノ位置及室名ヲ手帳ニ記入シ置キ實測ニ際シ對照ニ供スルコト
- (ハ) 機關室内ニ於ケル推進ニ關係ナキ機關等ノ有無、所在及副汽罐ト主機關トノ連結ノ有無等船舶積量測度ニ關スル注意事項 (第四)

(ハ)

ヲ豫メ機關士ヨリ聞キ取り置クコト

(二) 實測

七 量噸甲板ノ長ノ測リ方

六十六呎卷尺ヲ用ウルコト

(ロ)(イ)

船首ニ内張板アルトキハ内張板ノ交叉點ヲ又内張板ナキトキハ兩側肋骨ノ内面ニ物差ヲ當テ其ノ會點ヲ求メ之ヲ船首ノ基點トナスコト此ノ場合ニ於テ同時ニ該基點ヨリ船首材ノ後面ニ至ル距離及船首材ノ幅ヲ求メ置クコト

六

前項ノ場合ニ於テ内張板又ハ肋骨ト稱スルハ常ニ量噸甲板直下ノモノヲ指スコト又甲板ノ厚ニ對スル船首材ノ傾斜ニ注意スルコト

(ニ)(ハ)

長ハ成ルヘク全通セル支障ナキ部ヲ見定メ測ルコト

測點ヲ横ニ移スニハ左圖ノ如ク物差ヲ用ウルコト

(イ)(ハ) (ニ)

又圖面ニ於テ... 測點ヲ横ニ移スニハ左圖ノ如ク物差ヲ用ウルコト

(ホ)

測點ヲ移ス場合ニ於テ次ノ長ヲ測ルニハ新ニ〇ヨリ始メヌシテ前ノ部分ノ長ニ累加シ行ク

コト 數箇所ノ長ヲ加算スル 此ノ際測點迄ノ長ハ其ノ都度白墨ニテ適當ノ箇所ニ記入シ置クコト

(ト)(ハ)

甲板上ニ六十六呎宛記シ行クコト $1 \times 66.2 \times 66.2 \dots$ ノ如シ

船尾ニ在リテモ船首ト同様ノ注意ヲ用キ規定ニ從ヒ基點ヲ定メ該基點迄量噸甲板ノ長ヲ測

(チ)

ルコト此ノ場合ニ於テ同時ニ該基點ト船尾材ノ後面間ノ距離及船尾材ノ長ヲ測リ該長

量噸甲板ノ長ヲ測リタルトキハ船尾基點ヨリ始メテ量噸甲板ノ長ノ半分ノ點迄ヲ測リ該長

ノ中點ヲ求メ先ニ甲板上ニ記シ置キタル寸法ニ依リ該中點ヨリ船首基點迄ノ距離ヲ量噸甲

板ノ長ノ半分トナルヤ否ヤヲ檢スルコト若シ半分トナラサルトキハ改測ヲ爲スヘキコト

(リ)

三層以上ノ甲板ヲ備フル船舶ノ量噸甲板ノ長ヲ測ルニハ首尾便宜ノ箇所ニテ上甲板ニ移シ

測ルヲ便トスルコトアリ

(ヌ)

甲板間ノ長ハ首尾部ニ於テ生スル量噸甲板ノ長トノ差ニ依リ之ヲ求ムルコト

(イ)

分長點ノ定メ方 量噸甲板ノ長及該長ノ中點ヲ求メタルトキハ分長點間隔ヲ算出シ該中點ヨリ首尾ノ方ヘ區

(ロ)

分長點ヲ定メタルトキハ其ノ位置及番號ヲ船口又ハ甲板室ノ縁材等ニ白墨ヲ以テ記シ置ク

(ハ)

コト 船口内材ニハ内面ニ記シ置クヘキコト 甲板間ノ長ノ分長點ハ實測ノ際量噸甲板ノ長ノ分長點ニ對照シ之ヲ定メ行クコト即チ船首

船舶積量測度ニ關スル注意事項 (第四)

ニ於ケル基點ニ前後ナキトキハ二者ノ長ノ差ノ十二分^{十二分}ヲ求メ之ヲ分長點番號ニ應シ
累加シタル長丈位置ヲ移シ分長點ヲ定メ兩者ノ船首ニ於ケル基點ニ前後アルトキハ更ニ之
ヲ加減シテ其ノ位置ヲ定ムルコト

(二) 分長點ニ於ケル測度ハ順次船首ヨリ始メ艙内ニ降ル際艙口縁材等ニ對照シ分長點ノ位置ヲ
艙底ニ移スコト

九 分長點ノ深ノ測リ方 量噸甲板下ニ一層ノ甲
板アル場合ヲ想定ス

(イ) 甲板間ノ高ハ物差二本、艙内ノ深ハ適當ナル尺棒及物差又ハ卷尺ヲ用キテ測リ其ノ高及深
ノ和ニ甲板ノ厚 木甲板又ハ銅甲
板又ハ兩者ノ厚ヲ加ヘ内張板上面ヨリ量噸甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ求ムルコト此
ノ場合ニ於テハ内張板及横木ノ厚ヲ測リ其ノ厚カ三吋ヲ超ユルトキハ之ヲ三吋トシテ加減
スルコトニ注意スルコト

(ハ)(ロ) 手帳ニハ前項ノ深ヲ記入シ置キ梁矢ノ三分ノ一ニ對スル加減ハ測度表作製ノ際之ヲ爲スコ
ト分長點カ艙口又ハ機關室口ニ當タルトキハ該口ノ前後兩端又ハ特設梁ニ於ケル深ヲ測リ
其ノ差ヲ求メ分長點ノ位置ニ應シ之ヲ按分シ該點ニ於ケル深ヲ求ムルコト

十 分深點ノ定メ方

(イ) 艙内ノ分深點ヲ定ムルニハ假ニ前號ニ依リ求メタル深ヨリ量噸甲板ノ幅ノ一呎ニ對シ四分
ノ一時ノ割合ニテ算出セル梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタル深ニ依リ分深點間隔ヲ求メ尺棒ニ分
深點ノ位置ヲ記シ豫メ附シ置ケル白布ノ結目ヲ該點ニ移シ之ヲ船底中央部ニ直立セシムル

コト

船庭内張板ノ厚三吋以上ナルトキ又ハ内張板カ取除キアルトキハ尺棒ニ最下ヨリ第二番目
ノ分深點ヲ記ス際其ノ加減ニ注意スルコト

甲板間ニ於テ分深點ヲ定ムルニハ尺棒ノ代リ物差ヲ用キテイニ準シ之ヲ定ムルコト

十一 梁矢ノ測リ方

梁矢ハ梁ノ兩端ヲ通シテ絲ヲ張り之ヲ求ムルコト若シ梁下縦通材等ノ爲梁ノ兩端ヲ通シテ絲ヲ
張ルコト能ハサルトキハ甲板上面ニ於テ逆ニ之ヲ求ムルカ又ハ梁ノ兩端ヨリ一定ノ距離ヲ隔テ
タル下方ニ於テ絲ヲ張り之ヲ求ムルコト普通ノ船舶ニ於テハ同一甲板ノ梁ノ曲度ハ首尾ヲ通シ
テ同率ナルヲ以テ中央部ニ於ケル梁矢ヨリ首尾ノ梁矢ヲ左ノ割合ニ依リ算出シ測度表作製ノ際
適當ニ加減シ分長點ノ深ヲ記入スルコト 船底水平ノ場合ニハ中心線ヨリ幅ノ六、二九ノ所ニテ梁ノ上面迄ノ深ヲ
測ルトキハ中心線ニ於ケル深ヨリ梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノヲ得ヘシ

分長點ニ於ケル梁ノ長ト
中央部梁ノ長トノ割合

分長點ニ於ケル梁ノ梁矢
中央部梁ノ梁矢トノ割合

〇、六九

〇、六四

〇、五六

〇、四四

三分ノ二

四分ノ三

五分ノ四

六分ノ五

十二

(イ) 分深點ノ幅ノ測リ方 量噸甲板下ニ一層ノ宜
板アル場合ヲ想定ス
先ツ最上分深點ノ幅ヲ測ルコト

船舶積量測度ニ關スル注意事項 (第四)

(イ) 分長點ノ深ヲ測ル前ニ最上分深點ノ幅ヲ測リ置クトキハ第九號ノイニ依リ梁矢ノ三分ノ一ニ對スル深ノ加減ヲ爲ス場合ニ手順宜シ

(ロ) 最上分深點ノ幅ヲ梁矢ノ三分ノ一下ニテ測ルニハ甲板カ障トナリテ實行不可能ナルヲ以テ甲板ノ上方又ハ下方ニテ測リ船側ノ傾斜ニ對シ相當加減スルコト

(ハ) 同一艙内ニ二箇以上ノ分長點アルトキハ甲板間ニテ各分長點ノ最上分深點ノ幅及甲板間ノ高ヲ測リタル後艙内ニ降ルコト

(ニ) 同一艙内ノ各分長點ニ於ケル各分深點ノ幅ノ測度ヲ終リタル後甲板間ニ於ケル各分深點ノ幅ニ及ホシ廻同船底ニ上下スル手數ヲ省クコト

(ホ) 各分長點ニ於ケル船底内張板ノ有無及厚、艙内及甲板間ニ於ケル肋骨ノ深、内張板ノ有無及厚ヲ手帳ノ相當欄外ニ記入シ置キ幅及深ノ不^{アソビ}整^{エト}トナル理由ヲ調査スル參考ニ供スルコト、艙口直下ノミニ内張板アル場合ノ如キモ同様注意記入ノコト

(水) 分長點カ機關室内ニ在ルトキハ分深點ノ各幅ヲ實測スルコト困難ナル場合多シ此ノ場合ニ於テハ支障ナキ最寄ノ場所ニ於テ測ルコト然レトス殆ト總テノ貨物船ニ在リテハ六、七、八番^{十二等}場^場ノ分長點ノ横截面積ハ相同シク特ニ肥大型ノ船舶ニ在リテハ五、六、七、八、九番^{十二等}場^場ノ共同大ナルヲ以テ機關室カ船ノ中央部ニ在ル場合ニハ該室内ニ在ル分深點ノ幅ハ前

方又ハ後方ニ於ケル相對ノ位置ノモノト同様ト看做スコトヲ得ヘシ故ニ機關室内ニ於テハ參考ノ爲各分長點又ハ便宜附近適當ナル箇所ニテ船底、最廣部及甲板附近ノ幅ヲ採リ置ク

(ヘ) ハ他ハ相當之ヲ推定シ得ヘシ但シ分長點ニ相當スル部ノ肋骨ノ深他部ト異ナル場合多シ及内張板ノ有無ヲ檢スルコト必要ナリ

(ト) 車軸隧道部ニテハ隧道ノ兩外側ニ尺棒ヲ立テ尺棒間ノ距離ニ尺棒ト船側間ノ距離ヲ加ヘ全體ノ分深點ノ幅ヲ求ムルコト

(チ) 雙螺旋汽船ノ兩車軸隧道ハ必シモ平行ナラス仍テ隧道外側間ノ幅ハ必ス各分長點毎ニ測ルコト

(イ) 分長點カ車軸隧道端室ノ上ニ來リ艙内ニテ精確ナル分長點ノ深ヲ測リ難キトキハ端室頂板上ヨリ甲板迄ノ深ヲ測リ之ニ端室前壁ノ深ヲ加ヘ尙頂板ノ傾斜ヲ想定シタル深及内張板ノ厚ヲ加減シ假ニ該點ニ於ケル分長點ノ深ト看做シ分深點ヲ定メ端室ヨリ上方ノ各分深點ノ幅ヲ求メ此ノ際端室前壁ヨリ該分長點ニ至ル距離ヲ記入シ置キ端室内ニ入りタルトキ容易ニ分長點ノ位置ヲ知ルニ便シ端室内ニ入りタルトキハ該場所ニ於ケル端室頂板ヨリ艙底ニ至ル高ヲ測リ以テ精確ナル分長點ノ深ヲ求メ分深點ヲ定メ端室内ノ分深點ノ幅ヲ測ルコト但シ假想ノ分長點ノ深ト精確ナル分長點ノ深トノ差カ差支アリト認ムル程度ノモノナルトキハ更ニ端室ヨリ上方ノ各分深點ノ幅ヲ改測スルコト必要ナリ何トナレハ船ノ此ノ部分ニ於ケル形狀ハ變化著シキヲ以テナリ

十三 (イ) 甲板間ノ場所ノ測リ方
甲板間ノ場所ノ分長點ノ位置ハ第七號ノハニ依リ之ヲ定メ量噸甲板下ノ噸數測度ノ爲各分

船舶積量測度ニ關スル注意事項 (第四)

十四(イ)(ロ)

長點ニ於ケル測度ノ際同時ニ甲板間ノ高及平均ノ幅ヲ求メ行クコト
各分深點ニ於ケル肋骨ノ深、内張板ノ有無及厚ヲ手帳ニ記入スルコト
上甲板下ノ機關室ノ測リ方

(ロ)

量噸甲板下ノ噸數測度ニ際シ最後ノ分長點ノ下部ノ分深點ノ幅ヲ測ル爲車軸隧道端室内ニ
行キタルトキハ該部ヨリ機關室ノ噸數測度ニ著手スルコト
雙螺旋汽船ニ於ケル車軸隧道端室ノ平均ノ幅及高ヲ求ムルハ困難ナル場合多シ前、中、後
ノ三箇所ニテ上、中、下ノ幅ヲ求メ之ヲ平均シテ平均ノ幅ト爲スコト一法ナリ又ハ「シン
ブソン」規則ニ依リ前、中、後ノ横截面積ヲ求メ更ニ「シンブソン」規則ニ依リ全體ノ容積
ヲ算定シ長ヲ以テ除シ平均ノ横截面積ヲ求メ以テ平均ノ幅及高ヲ求ムルハ更ニ精密ナル方
法ナリ現狀ニ應シ右何レカノ方法ヲ撰擇シテ測ルコト

(ハ)(ハ)

車軸隧道ノ平均ノ高ヲ求ムルトキハ船底内張板ニ對スル加減ニ注意スルコト
汽機室下部ノ平均ノ幅ヲ實際ニ求ムルコト困難ナル場合多シ測度表ニテ算出セル量噸甲板
下ノ斷面積ヨリ甲板間ノ面積ヲ減シタルモノニ依リ推算スルコトハ簡易ナル方法ナリ但シ
右ハ汽機室下部方最下甲板下ノ全部ニ互レル場合ニシテ石炭庫其ノ他ノ存在スル場合ニハ
適當ナル實測ヲ爲スヘキコト勿論ナリ
量噸甲板下ノ噸數測度ニ際シ最後部ノ艙内ニ入りタルトキハ船尾隔壁ニ沿ヒタル「タンネ
ル、エスケープ」ノ有無ヲ確シ其ノ寸法ヲ採リ置クヲ便トス

(ホ)

十五 上甲板上ノ機關室ノ測リ方

汽罐カ一箇ナルカ又ハ二箇以上ナルモ之ヲ横ニ並ヘタル型ノ船舶又ハ三層以上ノ甲板ヲ有スル
船舶等ニ在リテハ上甲板下ノ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ十三ニ達セサルコト多シ此ノ如キ
船舶ニ在リテハ必ス上甲板上ノ機關室モ各區劃毎ニ測リ置クコト

十六 船樓、甲板室、船員常用室等ノ噸數ノ測リ方

測度順序ハ下ヨリ上、前ヨリ後、左ヨリ右ニ及ホスコト
總噸數ニ加フヘキ船樓、甲板室ノ測度ト同時ニ該部ノ船員常用室等ヲ測ルコト
甲板室トシテ測度シタル後其ノ中ニ在ル船員常用室等ヲ各室毎ニ測度スルトキハ甲板室ト
シテ幾何ノ内張板ノ厚ヲ見込ミタルヤニ相當注意スルコト例ヘハ甲板室トシテ内張板ノ厚
ヲ三吋ト見込ミタルニ船員常用室トシテ測度ト際内張板ナキ爲鋼板迄ノ寸法ヲ測ルコトア
リ爲ニ控除噸數カ總噸數トシテ加ヘタル噸數ヲ超過スル場合ヲ生スル惧アリ
上甲板上ノ單獨ノ水夫長倉庫又ハ海圖室ノ如キハ總噸數最ニ算入スヘキ室トシテ相當欄ニ記
入スルト同時ニ必ス登簿噸數算定ノ際控除スヘキ水夫長倉庫又ハ海圖室等ノ相當欄ニ記入
シ置クコト

(ニ)

十七(ホ)

測度ヲ終リタル船室等ハ順次手帳ノ略圖又ハ船圖ニ印ヲ附シ又ハ抹消スルヲ便トス
荷足水艙ノ測リ方
碇泊中ノ船舶ニ在リテハ隨意ニ水艙ヲ空虚トシ又ハ同時ニ二箇以上ノモノヲ空虚トスルコ
船舶積量測度ニ關スル注意事項 (第四)

(ロ) ト困難ナル場合アリ測度ノ日程ニ依リ適當ノ時期ニ行ヒ得ル様豫メ船員ト打合セ置クコト
 船首尾水艙ノ深ヲ測ルニハ首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ肋板頂面ノ延長面ヲ求ムルコト困
 難ナル場合多シ第一艙又ハ車軸隧道端室内ニ入りタルトキハ相當標準トナルヘキ鉸釘ノ位
 置又ハ頂板ヨリノ距離等ニ注意スルコト

十八 艙口ノ噸數ノ測リ方

艙口ノ高ハ甲板下面ヨリ蓋板下面迄ヲ測リ尙兩端緣板ハ山形ヲナスヲ以テ其ノ平均ノ高ヲ採ル
 コト

十九 一般注意事項

- (イ) 測度主任ハ如何ナル場合ニ於テモ自ら測度ノ現場ニ臨ムヲ要シ一部ノ測度ト雖手傳人ノミ
 ニ委任スヘカヲサルコト
- (ロ) 如何ナル場合ニ於テモ相似形ト推定シ測度ヲ省略スヘカヲサルコト
- (ハ) 右舷室ト左舷室ト同様ト推定スルカ如キハ不可ナリ假令全然同様ト推定シ得ヘキ理由アル
 モ一應現場ニ臨ミタル上手帳ニ寸法ヲ記入スルコト
- (ニ) 測度終了ノ部分ニ付テハ即日整理ノ上之ヲ測度表ニ記入スルコト

○船舶積量改測規則

大正三年七月十七日 (同年十月一日ヨリ施行)
 遞信省令第十七號

第一條 本令ハ船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ行フ場合ニ之ヲ適用ス
 第二條 船舶ノ積量ノ改測ハ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フ

- 一 本令施行ノ日ヨリ大正四年九月三十日ニ至ル期間
 遠洋航路ヲ航路定限ト爲ス汽船、近海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數千噸以上ノ汽船及總噸
 數八十噸以上ノ帆船
- 二 大正四年十月一日ヨリ大正五年九月三十日ニ至ル期間
 近海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數千噸未滿ノ汽船、沿海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數百噸
 以上ノ汽船及總噸數四十噸以上八十噸未滿ノ帆船
- 三 大正五年十月一日ヨリ大正六年九月三十日ニ至ル期間
 沿海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數百噸未滿ノ汽船、平水航路ヲ航路定限ト爲ス汽船及總噸
 數四十噸未滿ノ帆船
- 四 大正六年十月一日以後
 前各號ノ期間内ニ改測ヲ了ラサル船舶及前各號ニ掲ケサル船舶
 改測ハ定期検査ト同時ニ之ヲ行フ但シ船舶検査法ノ適用ヲ受ケサル船舶ノ改測ノ時期ニ付テハ
 船舶所有者ノ申請ニ因リ管海官廳之ヲ指定ス

船舶積量改測規則

第一項各號ニ掲クル船舶ニシテ當該期間内ニ定期検査ヲ受ケサルモノノ改測ハ順次次ノ期間ニ於テ之ヲ行フ

船舶所有者ヨリ特別ノ事由ヲ具シ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ相當ト認ムルトキハ前三項ノ規定ニ拘ラス改測ヲ行フコトヲ得

第三條 改測ヲ受クヘキ船舶ニシテ船舶検査法ノ適用ヲ受ケサルモノノ所有者ハ前條第一項各號ノ期間内ニ於テ改測ヲ受ケムトスル管海官廳ニ改測ノ申請書ヲ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ船舶ノ番號、種類、船名、船籍港、總噸數、改測ノ爲検査官吏ノ臨檢ヲ受ケムトスル場所及船舶積量測定法第十二條ノ規定ニ依リ改測ヲ申請スル旨ヲ記載スヘシ

前二項ノ規定ハ前條第四項ノ規定ノ適用ヲ受ケムトスル船舶所有者ニ之ヲ準用ス

第四條 船籍港ヲ管轄セサル管海官廳ニ於テ改測ヲ行ヒタルトキハ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

第二條第一項各號ニ定ムル期間内ニ前項ノ關係書類ヲ送付スルコト能ハサルトキハ當該官廳ハ豫メ其ノ旨ヲ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ通知スヘシ

第五條 船舶所有者ニ於テ第三條ノ申請ヲ爲ササル船舶ニ付テハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ職權ヲ以テ適宜ノ時期ニ於テ其ノ改測ヲ行フヘシ

前項ノ規定ニ依リ改測ヲ行フ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第六條 前四條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿ノ船舶ニ之ヲ適用セス

第七條 前條ノ船舶ニ付テハ地方長官其ノ定ムル所ニ依リ本令施行後五年以内ニ其ノ積量ヲ改測

ス

○日英間船舶積量承認

明治十八年五月
外務省告示第五號

英國政府ニ於テ本年一月廿七日附内閣訓令ヲ以テ明治十七年(西曆千八百八十四年)七月一日以後
日本國官廳ヨリ下附セシ噸數證書若クハ其他噸數ヲ記載スル公書ヲ所有スル日本國船舶ハ英國版
圖内ノ諸港若クハ各所ニ於テ更ニ其船積ノ測度ヲ要セサル旨ヲ布達アリシ趣本邦駐劄英國特命全
權公使ゼ、オノレーブル、エフ、アール、ブランケット閣下ヨリ本年四月四日附ヲ以テ我政府ニ通知
アリタリ

○日英間船舶積量互認

大正十二年六月
遞信省令第五二號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト英國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ大正
十二年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス
英國相當官憲ニ於テ千八百九十五年一月一日以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有ス
ル英國船舶ハ帝國諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶
ノ噸數ト同一ナリト看做ス

船舶積量互認

○日英船舶積量互認ニ關スル告示

大正十二年六月 遞信省告示第九九三號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト英國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ日本船舶ニシテ大正三年十月一日以後交付シタル船舶國籍證書假船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ有スルモノハ英國版圖内及其ノ管治スル地域ニ於テ其ノ積量ヲ測度セラル、コトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ニ記載スル噸數ヲ英國船舶ノ噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

○日英船舶積量互認ニ關スル告示
大正十二年六月
遞信省告示第九九三號

○日米間船舶積量承認

明治三十年五月 遞信省告示第三百三十八號

米國政府ニ於テハ同國各港ニ出入スル日本船舶ハ爾今其ノ受有スル登簿船免狀其他ノ公書ニ記載シタル噸數ヲ有スルモノト認ムルヲ以テ該船舶ニ於テ右免狀等ヲ提供スルトキハ米國各港ニ於テ再ヒ測度ヲ執行セス但シ除去若ハ省略シタル噸數ニシテ米國ノ法律ニ於テ認許セラレサルモノアルトキハ之ヲ該船舶ノ登簿噸數ニ加算スヘキコトヲ本年三月一日大藏省公達第三十四號ヲ以テ稅關收稅吏其他ヘ達シタル旨其筋ヨリ通知アリ

明治二十四年十二月一日帝國政府ト丁抹國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ明治二十五年一月一日以後帝國船舶ニシテ明治十七年四月二十四日第十號布告船舶積量測度規則實施以降交付シタル登簿船免狀ヲ有スルモノハ丁抹國「ドロイ」諸島「イスランド」及ヒ丁抹領「アンチル」諸島ノ各港ニ於テ其積量ヲ測度セラルルコトナク帆船ニ在リテハ右登簿船免狀ニ記スル登簿噸數ヲ以テ丁抹國船舶ノ實噸數ト同一ナリト認メラレ汽船ニ在リテハ右登簿船免狀ニ記載シタル機關室ノ積量ノミヲ丁抹國測度法ニ依リ控除スヘキ爲メ前記諸港ニ於テ其測度ヲ受ヘシト雖トモ之方爲メ測度料若クハ手數料等ヲ徵收セラルルコトナガルヘシ

○日本國與諸國積量承認

明治二十四年十二月一日

○日丁間船舶積量互認

明治二十四年十二月一日 明治二十五年一月一日ヨリ施行

第一條 西曆千八百六十七年十月一日以降丁抹國政府ヨリ發シタル登簿國籍證書ヲ受有スル同國ノ船舶ハ外國貿易ノ爲メ開キタル帝國諸港ニ於テ其積量ヲ測度スルコトナシ

第二條 第一條ノ登簿國籍證書ニ記載シタル丁抹國帆船ノ實噸數ハ帝國帆船ノ登簿實噸數ト同一ナリト認ムヘシ

第三條 丁抹國汽船ノ受有スル第一條ノ登簿國籍證書補錄欄内ニ記載ノ英國測度法ニ據リ算出シタル實噸數ハ帝國汽船ノ登簿實噸數ト同一ナリト認ムヘシ

○日丁間船舶積量互認心得方

明治二十四年十二月一日 遞信省告示第二百八十二號

船舶積量互認ノ件ニ關シ明治二十四年十二月一日帝國政府ト丁抹國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ明治二十五年一月一日以後帝國船舶ニシテ明治十七年四月二十四日第十號布告船舶積量測度規則實施以降交付シタル登簿船免狀ヲ有スルモノハ丁抹國「ドロイ」諸島「イスランド」及ヒ丁抹領「アンチル」諸島ノ各港ニ於テ其積量ヲ測度セラルルコトナク帆船ニ在リテハ右登簿船免狀ニ記スル登簿噸數ヲ以テ丁抹國船舶ノ實噸數ト同一ナリト認メラレ汽船ニ在リテハ右登簿船免狀ニ記載シタル機關室ノ積量ノミヲ丁抹國測度法ニ依リ控除スヘキ爲メ前記諸港ニ於テ其測度ヲ受ヘシト雖トモ之方爲メ測度料若クハ手數料等ヲ徵收セラルルコトナガルヘシ

船舶積量互認

○日丁間船舶積量互認

大正十一年九月 遞信省令第五六號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト丁抹國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ大正十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

丁抹國相當官憲ニ於テ千八百九十五年四月以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有スル丁抹國船舶ハ帝國諸港ニ於テ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

○日丁間船舶積量互認ノ施行

遞信省令第五六號

○日丁間船舶積量互認ニ關スル告示

大正十一年九月 遞信省告示第一六八七號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト丁抹國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ大正十一年十月一日以後日本船舶ニシテ大正三年十月一日以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ有スルモノハ丁抹國版圖内及其ノ管治スル地域ニ於テ積量ヲ測度セラルルコトナク船舶國籍證書假船舶國籍證書又ハ船鑑札ニ記載スル噸數ヲ丁抹國船舶ノ噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

○日獨間船舶積量互認

明治三十三年九月 遞信省令第七十四號 明治三十三年十月一日ヨリ施行

第一條 獨逸國政府ニ於テ千八百九十五年三月一日發布船舶積量測度規則ニ依リ交付シタル測度證書ヲ受有スル同國ノ船舶ハ帝國諸港ニ於テ其積量ヲ測度スルコトナク其證書ニ記載スル登簿噸數ハ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第二條 獨逸國政府ニ於テ千八百八十八年六月二十日發布船舶積量測度規則第十七條ノ規定ニ依リ英國測度方法ニ從ヒテ測リタル登簿噸數ヲ記載シテ交付シタル測度證書ヲ受有スル同國ノ船舶ハ帝國諸港ニ於テ其積量ヲ測度スルコトナク前記ノ登簿噸數ハ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第三條 獨逸國政府ニ於テ前條ノ測度規則ニ依リ交付シタル測度證書中ニ同則第十七條ニ依リテ測リタル登簿噸數ノ記載ナキ場合又ハ千八百七十二年七月五日發布船舶積量測度規則ニ依リ積量證書ヲ附與セラレタル場合ニ於テモ其證書ニ記載シタル登簿噸數ヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス但船舶所有者ニ於テ再測度ノ請求ヲ爲ストキハ帝國船舶積量測度規則ニ依リ除去スヘキ機關室ノミノ測度ヲ爲シテ其登簿噸數ヲ定メ又ハ其測度ヲ爲サシテ前記ノ測度證書ニ記載シタル登簿噸數ヨリ其十分ノ一ヲ減シタルモノヲ以テ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做スモノトス

○日獨間船舶積量互認心得方
 明治三十三年九月
 遞信省告示第三百八十四號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト獨逸帝國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ明治三十三年十月一日以後帝國船舶ニシテ明治十七年四月二十四日第十號布告船舶積量測度規則實施以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書、登簿船免狀及船鑑札ヲ有スルモノハ獨逸帝國版圖内諸港ニ於テ其積量ヲ測度セラルルコトナク右船舶國籍證書、假船舶國籍證書、登簿船免狀及船鑑札ニ記スル登簿噸數ヲ以テ獨逸帝國船舶ノ積量ヲ英國噸數ニ換算セルモノト同一ナリト認メラルヘシ

○日獨間船舶積量互認心得方

明治三十三年九月 遞信省告示第三百八十四號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト獨逸帝國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ明治三十三年十月一日以後帝國船舶ニシテ明治十七年四月二十四日第十號布告船舶積量測度規則實施以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書、登簿船免狀及船鑑札ヲ有スルモノハ獨逸帝國版圖内諸港ニ於テ其積量ヲ測度セラルルコトナク右船舶國籍證書、假船舶國籍證書、登簿船免狀及船鑑札ニ記スル登簿噸數ヲ以テ獨逸帝國船舶ノ積量ヲ英國噸數ニ換算セルモノト同一ナリト認メラルヘシ

○日瑞、諾間船舶積量互認
明治三十五年三月
暹信省令第十一號
月一日ヨリ施行

○日瑞、諾間船舶積量互認

明治三十五年三月
暹信省令第十一號
月一日ヨリ施行

第一條 千八百七十五年三月三十一日以後瑞典國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測度證書ヲ受有
スル瑞典國ノ帆船ハ帝國諸港ニ於テ其積量ヲ測度スルコトナク其證書ニ記載スル登簿噸數ニ瑞
典國ノ法令ニ依リ控除シタル部分ニシテ帝國ノ船舶積量規則ニ依レハ控除ヲ許ササルモノノ噸
數ヲ合セタルモノヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第二條 千八百八十一年三月三十一日以後瑞典國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測度證書ヲ受有
スル瑞典國ノ汽船ハ帝國諸港ニ於テ其積量ヲ測度スルコトナク其證書ニ記載スル登簿噸數ニ帝
國ノ船舶積量測度規則ニ依レハ控除ヲ許ササル部分ニシテ該證書ニ其控除ヲ明示シタル場所ノ
噸數ヲ合セタルモノヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス但瑞典國汽船ノ船長ヨリ申請ア
ルトキハ特ニ帝國ノ船舶積量測度規則ニ定ムル割合ニ從ヒ機關室ニ對スル噸數ヲ控除シテ其登
簿噸數ヲ算定ス

船舶積量測度證書ニ英古利式ニ依リ測定シタル登簿噸數ノ記載アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ
拘ハラズ該噸數ハ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第三條 千八百九十三年十月一日以後諾威國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測度證書ヲ受有スル
諾威國ノ汽船又ハ帆船ハ帝國諸港ニ於テ其積量ヲ測度スルコトナク其證書ニ記載スル登簿噸數
ヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

船舶積量互認

ノ件ニ關シ帝國政府ト瑞典及諾威國兩政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ明治三十
五年四月一日以後日本ノ汽船若ハ帆船ニシテ明治十七年四月二十四日第十號布告船舶積量測度規
則實施以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書、登簿船免狀又ハ船艦札ヲ受有スルモノハ
瑞典國又ハ諾威國ニ於テ左ノ取扱ヲ受クヘシ

○日蘇、滿洲國、朝鮮、南洋羣島互認

明治三十五年三月
遞信省告示第百七十四號

○日瑞、諾間船舶積量互認心得方

明治三十五年三月
遞信省告示第百七十四號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト瑞典及諾威國兩政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ明治三十
五年四月一日以後日本ノ汽船若ハ帆船ニシテ明治十七年四月二十四日第十號布告船舶積量測度規
則實施以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書、登簿船免狀又ハ船艦札ヲ受有スルモノハ
瑞典國又ハ諾威國ニ於テ左ノ取扱ヲ受クヘシ

一 瑞典國

帆船ハ其積量ヲ測度セラルルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書、登簿船免狀又ハ船艦
札ニ記載スル登簿噸數ヲ瑞典國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト認メラルヘシ
汽船ハ瑞典國政府ニ於テ其控除スヘキ噸數ヲ定ムル爲メ同國ノ法令ニ從ヒ機關室ノ部分測度
ヲ行ヒ登簿噸數ヲ算定セラルヘシ但帝國管海官廳ヨリ交付シタル獨逸式ニ依リ測定シタル機
關室ノ總積量證書ヲ受有スル汽船ハ部分測度ヲ行フコトナク該證書ニ記載スル噸數ニ依リ其
登簿噸數ヲ算定セラルヘシ汽船又ハ帆船ノ船長ハ帝國ノ船舶積量測度規則ニ於テ控除ヲ許サ
サル部分ニシテ瑞典國ノ法令ニ於テ控除ヲ許ス部分ニ付再測度ノ請求ヲ爲ストキハ其部分ノ
測度ヲ受クルコトヲ得ヘシ

二 諾威國

汽船又ハ帆船ハ其積量ヲ測度セラルルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書、登簿船免狀
船舶積量互認

